

大和川今池遺跡

1998年3月

大阪府教育委員会

はしがき

大和川今池遺跡は堺市、松原市両市域にまたがる広大な遺跡であり、旧石器時代から近世に至る一大複合遺跡として知られております。昭和52年度から実施された「大和川下流西部流域下水道今池処理場」建設に伴う試掘調査によって確認され、以来大和川今池遺跡調査会による発掘調査を皮切りに、ほぼ毎年発掘調査が実施されてきました。

今回報告いたします調査は今池処理場内における管廊等築造工事・西天美地区高規格堤防工事・用水路工事に先だって平成7年度に実施したもので、古墳時代・飛鳥時代の集落跡、鎌倉時代の大規模な瓦溜りが検出され、多くの成果を挙げることができました。調査結果の概略についてはすでに『大和川今池遺跡発掘調査概要・III』で報告したところでありますが、今回の調査成果が本地域の歴史を解明する上で格好の資料であることから、平成9年度整理事業として当該調査結果の整理と資料化を進め、本報告書を刊行することといたしました。今後の調査・研究にご活用いただければ幸いです。

本調査および遺物整理事業を実施するにあたって、大阪府南部流域下水道事務所、建設省近畿地方建設局大和川工事事務所、大和川下流流域下水道組合今池処理場、松原市教育委員会、地元自治会など関係者各位に多くのご支援とご協力を賜り深く感謝申し上げますとともに、今後とも本府の文化財保護行政に対する一層のご理解とご支援をお願いする次第であります。

平成10年3月

大阪府教育委員会

文化財保護課長 鹿野 一美

例　　言

1. 本書は平成 9 年度に実施した大和川今池遺跡遺物整理事業の本報告書である。
2. 本書に収録した発掘調査は平成 7 年度に今池下水処理場建設工事に先立つ発掘調査として、大阪府南部流域下水道事務所、建設省近畿地方建設局大和川工事事務所の依頼を受け、大阪府教育委員会文化財保護課が実施した。
3. 発掘調査は本課調査第 1 係技師（当時）西口陽一を担当者として実施し、平成 8 年 3 月に『大和川今池遺跡発掘調査概要・XIII』を刊行して調査の概略を報告している。今回は平成 9 年度整理事業として当調査結果の整理および資料化を進めた。
4. 本整理事業は文化財保護課資料係が担当した。執筆および編集は資料係技師地村邦夫が整理作業結果と調査記録ならびに『大和川今池遺跡発掘調査概要・XIII』にもとづいて行った。
5. 調査の実施と整理にあたっては藤沢一夫、出水睦巳、上原真人、福永信雄の諸先生にご教示を賜った。記して感謝します。
6. 本書で用いた写真については、現場写真は調査担当西口陽一が撮影した。遺物写真については既刊の『大和川今池遺跡発掘調査概要・XIII』に掲載したもの一部を再録した。

本文目次

はじめに	1
第1章 調査にいたる経過	1
第2章 調査の方法	2
第1節 調査区の設定	2
第2節 調査の方法について	2
第3章 調査結果	4
第1節 基本層序	4
第2節 遺構と遺物	6
(1) 1区の調査結果	6
(2) 2区の調査結果	11
(3) 3区の調査結果	17
第4章 出土瓦の基礎整理	39
第1節 出土瓦の分類	39
第2節 出土瓦の編年	45
小結	49
おわりに	50

付表目次

『概要・XIII』写真図版との対照表（1）	52
『概要・XIII』写真図版との対照表（2）	53
遺構一覧表（1）	54
遺構一覧表（2）	56
遺構一覧表（3）	58
遺構一覧表（4）	60
遺構一覧表（5）	62
遺構一覧表（6）	64
遺構一覧表（7）	66

はじめに

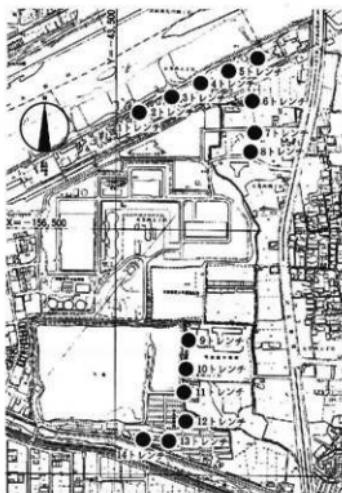
大和川今池遺跡は松原市天美西・天美我堂に所在する、旧石器時代から近世にかけての複合遺跡である。昭和52年度に大阪府下水道部による「大和川下流西部流域下水道今池処理場」建設工事に先立つ試掘調査で発見された。この結果、翌53年度から大和川今池遺跡調査会によって発掘調査が実施され、古墳時代の集落跡が検出されるなど、多くの成果が挙げられた。本府教育委員会でも府営天美住宅の建て替え工事や今池処理場の増設工事に伴い発掘調査を行い、その結果はこれまで14冊の発掘調査概要によって報告している。

今回報告書作成事業の対象としたのは、今池下水処理場建設工事に先立つ発掘調査として平成7年度に実施した調査である。この調査については平成8年3月に『大和川今池遺跡発掘調査概要・XIII』（以下『概要・XIII』と省略する）を刊行して概略を報告している。そこで本報告書を作成するにあたっては、①遺構については本文・表で全てを報告すること、②遺構出土遺物の実測図を可能な限り掲載すること、③多量に出土した平安時代後期から中世の瓦について基礎的な考察を行うこと、に重点を置いた。しかし報告書のボリュームには限りがあるため、写真図版は『概要・XIII』の一部を再掲するにとどめている。特に遺物については絞り込んだため、『概要・XIII』の写真図版も併せて参照いただければ幸いである（巻末の写真図版対応表参照）。

第1章 調査にいたる経過

大和川今池遺跡の調査経過は前章であらましを述べたので、ここでは本調査に関する内容に限定する。大阪府土木部は大和川下流域下水道事業に伴い今池処理場内に管廊等築造工事・西天美地区高規格堤防工事・用水路工事を計画し、大阪府教育委員会に試掘調査を依頼した。試掘調査は管廊等築造工事予定地を平成6年12月5日より平成7年2月28日まで、西天美地区高規格堤防工事・用水路工事予定地を平成7年4月10日から4月27日まで実施した。試掘調査は管廊等築造工事予定地では6カ所、西天美地区高規格堤防工事・用水路工事では8カ所、計14カ所の試掘トレンチを設定して実施した（第1図）。その結果、すべてのトレンチで遺物が出土した他、5・12~14トレンチ以外のトレンチでは遺構も確認した。

特に1トレンチでは平安時代末～中世の瓦が多量に



第1図 試掘トレンチ位置図 (S=1/10,000)

出土し、当該地の小字名「觀音堂」であることもあり、寺院の存在が推測された。また7トレンチでは7世紀後半から8世紀前半の土器が出土した。当該期の資料は既往の調査ではほとんど検出されていなかったが、この調査によって遺構が周辺に広がっているものと推測された。また遺跡内を通過する難波大道との関連でも重要な知見である。11トレンチでは掘立柱建物や溝、土坑などを検出した。これらは本トレンチ東側で平成元年度に実施した調査で検出された奈良時代の集落の西縁部と推測され、当該期の状況がいっそう明らかになったのである。この結果を受けて工事にあたっては事前に協議・発掘調査が必要である旨を回答した。以降協議を行い、発掘調査を実施することとし、平成7年8月から調査を開始した。

第2章 調査の方法

第1節 調査区の設定

工事予定地は3カ所あり、いずれも調査が必要であった。管廊等築造工事予定地を1区（面積1700m²）、用水路工事予定地を2区（面積800m²）、西天美地区高規格堤防工事予定地を3区（面積4800m²）とした。なお調査は1区、2区、3区の順に実施した。それぞれの調査期間は1区が平成7年8月～9月、2区が平成7年10月、3区が平成7年11月～翌8年3月である。

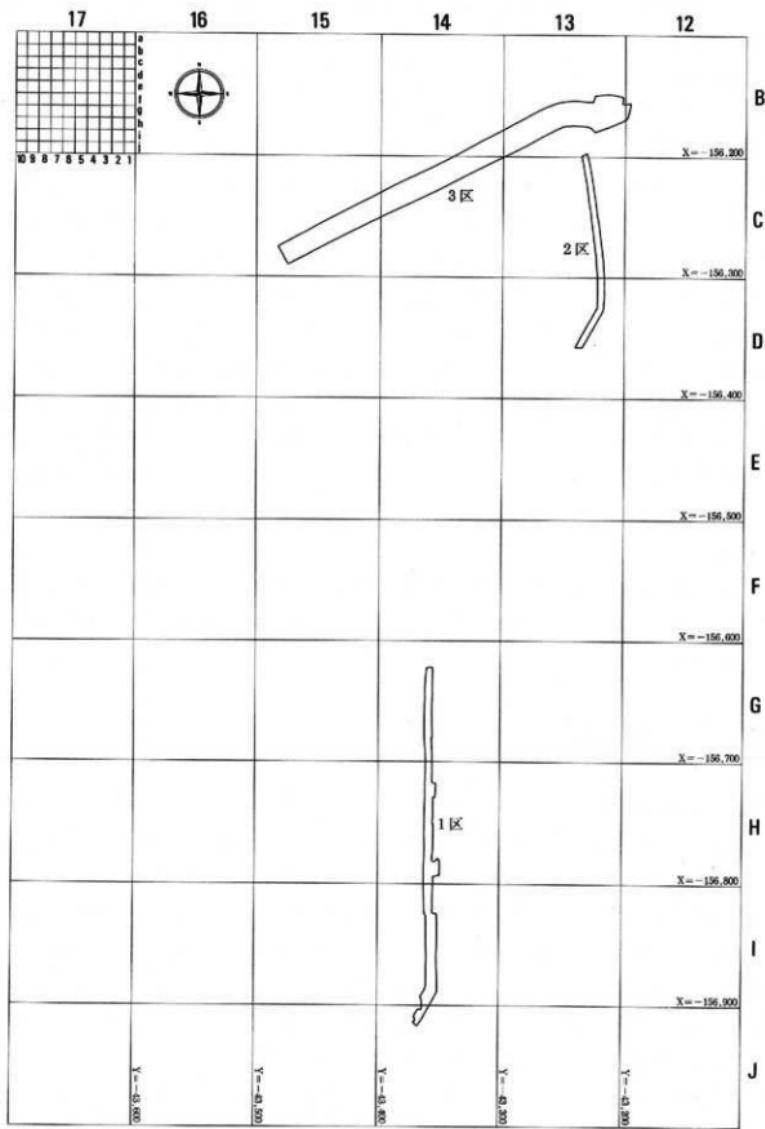
第2節 調査の方法について

a. 挖削方法

本調査ではオープンカットで1:1の法面を作りつつ調査を実施した。盛り土及び近世～近代の耕土を機械掘削し、以下地山面までを人力で掘削した。

b. 地区割り

本府教育委員会では地区割りは従来各現場で適宜行ってきた。しかし各現場独自の地区割りでは資料の整理・活用に大きな支障がある。そこで平成8年度からは地区割りを統一することとし、地区割り方法として財大阪文化財センター（現：財大阪府文化財調査研究センター）の地区割りを採用した（財大阪文化財センター『遺跡調査基本マニュアル』1988年）。これは国土座標第VI系を利用するもので、1万分の1地形図を使用した縦6km、横8kmの第I区画、2500分の1地形図を使用した縦1.5km、横2kmの第II区画、第II区画内を100m単位で区画した第III区画、第III区画内を10m単位で区画した第IV区画、の四つの区画を用いて位置を表示する。今回の整理にあたっても、本地區割り方法によって、改めて調査区の地区割り作業を行った（第2図）。しかし調査自体は平成7年度に実施しているため、やはり現場では本調査独自の地区割りを行っている。これは20m間隔で設定されていた工事用センター杭を利用して、これを2等分して10mピッチの地区割りを行い、工事用センター杭の番号を用いて遺構の位置を表示し、遺物を取り上げている。本書においては遺構の位置と、まとまりをもって出土した土器群については調査記録から出土土地



第2図 調査区地区割図 ($S = 1/4,000$)

点が特定できたので統一の地区割り方法で表記しているが、それ以外の包含層・遺構面直上出土遺物については、センター杭の位置と座標が正確にわからないために、国土座標を利用した地区割りに置き換えることは不可能であった。これは各地区毎の遺物出土量の検証が実質不可能であることを意味し、今後の本遺跡の総括的な整理にあたって大きな制約となるものと考えられるが、仕方ないものと判断した。

c. 遺構名・遺構番号

本調査では各調査区ごとに、遺構の種類別に通し番号を付けている。整理にあたっては遺構番号は変更しないことを原則とした。しかし1区は調査区を北半部、中央部、南半部と区分して、それぞれの区域内で遺構番号を付けているため、同一の遺構番号が複数付いているものがある。また各調査区に誤って遺構番号が重複したものがあった。安易な変更是後の資料活用にあたって混乱を招く恐れがあるが、これらの遺構番号については整理を通じて変更の必要性を痛感したため、遺物が出土した遺構についてはできるだけ変更しないこと、変更する数が少なくなるように注意した上で遺構番号を付け直した。結果的には遺物登録台帳など基礎台帳関係については遺構番号変更の影響は全く無かったが、既刊の『概要・Ⅹ』で報告済みの遺構のなかで数例について遺構番号を変更せざるを得ないものができてしまった。これらについては新旧の遺構名・遺構番号の対応関係を巻末の遺構一覧表に示したので参照されたい。

d. 図化

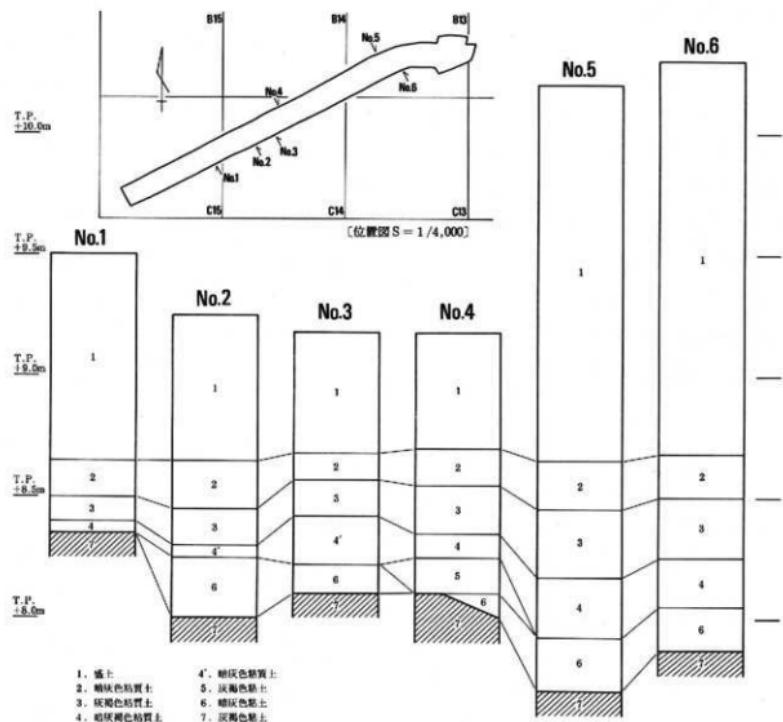
遺構の実測は、主要なものについては平面図・断面図とも手書きで行っている。しかし全体図についてはクレーンによる写真撮影を行い、図化した。これは調査を迅速化し、正確に記録を保存するためである。

第3章 調査結果

第1節 基本層序

層序については『概要・Ⅹ』において詳述しているので、ここでは3区の柱状模式断面図を用いて1区～3区に共通する基本的な層序について簡略に説明する（第3図）。

基本層として7層を設定した。第1層は現代の盛り土である。第2層は暗灰色粘質土である。第2層上面は今池処理場建設前の水田である。上面のレベルはT.P.+8.65～8.7mと東西に長い当調査区でもきわめて平坦に造られている。本層の厚さは0.1～0.2mである。小石や砂を含まない本層からは染付茶碗の破片などが出土しており、近世以降の水田耕作土であったことが判明した。第3層は灰褐色粘質土である。本層は近世以降の耕作土の床土である。厚さは0.1～0.3mである。遺物も少量出土している。第4層は暗灰褐色粘質土であり、これは中世の遺物包含層である。F5-15-C14-d6～F5-15-C14-d8付近（柱状模式図No.2・3）では暗灰色粘質土がこれに対応する。本層の厚さは0.05m～0.25mであり、調査区の西では薄く、東へ行くほど厚く堆積



第3図 3区土層柱状模式断面図 (S=1/20)

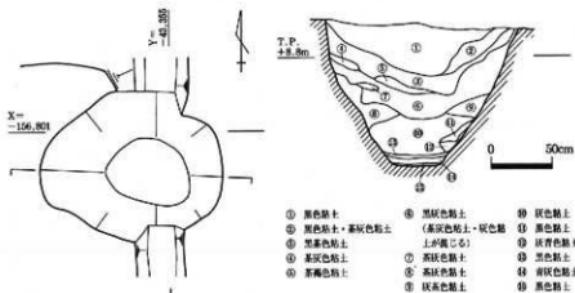
している。調査では本層を床土下包含層と呼称して遺物を取り上げている。なお2区では本層と第3層の間に厚さ0.02~0.04mの黄褐色粘質土が堆積している。この土層には酸化鉄の沈殿が顕著に認められたので、中世以降の水田面と考えられたが、3区ではこれに対応する土層は確認されていない。2区における堆積の薄さからみても、3区では完全に削平されているものと考えられる。第5層は灰褐色粘土である。本層は3区の中でもF5-15-C14-a6付近(柱状模式図No.4)でしか確認されていない。この地点は第3図からもわかる通り地山面が大きく落ち込み始める所である。本層は、この落ちの肩の所に部分的に堆積している土層であり、全く遺物を含んでいない。本層の厚さは0.15mである。第6層は暗灰色粘土である。本層は古墳時代後期の遺物を中心に弥生時代~奈良時代の遺物を多く含んでいる。調査では本層を下層包含層と呼称して遺物を取り上げている。本層の厚さは0.1~0.25mであるが、地山面が最も高くなる3区西端部付近では認められなかった。第7層は灰褐色粘土である。本層が地山層である。

第2節 遺構と遺物

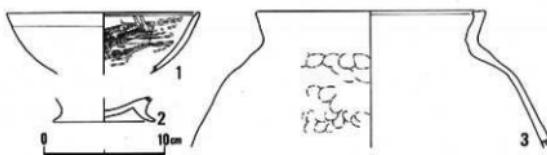
(1) 1区の調査結果

1区は幅5~9m、長さ300m、面積1700m²の南北に細長い調査区である(第4図)。本調査区では井戸5基、ピット31基、土坑15基、畦畔1条、溝13条、自然河川1条、ため池1基を検出した。

井戸1 F5-15-I14-a6で検出した素掘りの井戸である(第5図)。平面形は不整梢円形、規模は長径1.92m、短径1.74m、深さ1.72mである。埋土は黒色粘土他である。井戸底の壁際に杭を4本打ち込んでいた。遺物は平安時代中期の土師器甕、黒色土器碗などが出土した(第6図)。本遺構の時期は平安時代中期(10世紀代)と考えられる。

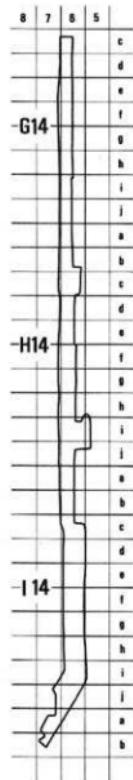


第5図 1区井戸1平面・断面図 (S=1/40)

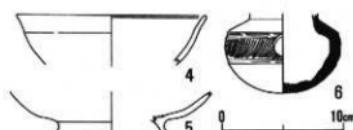


第6図 1区井戸1出土遺物

井戸2 F5-15-G14-i6で検出した素掘りの井戸である。平面形は梢円形、規模は長径1.43m、短径1.12m、深さ0.98mである。埋土は黒褐色粘土他である。平安時代中期の黒色土器碗、土師器甕、ての字状口縁皿などが出土した(第7図)。遺物の中には瓦器小片が1片混じっているが、これは混入と思われる。本遺構の時期は平安時代中



第4図
1区地区割図
(S=1/2,000)



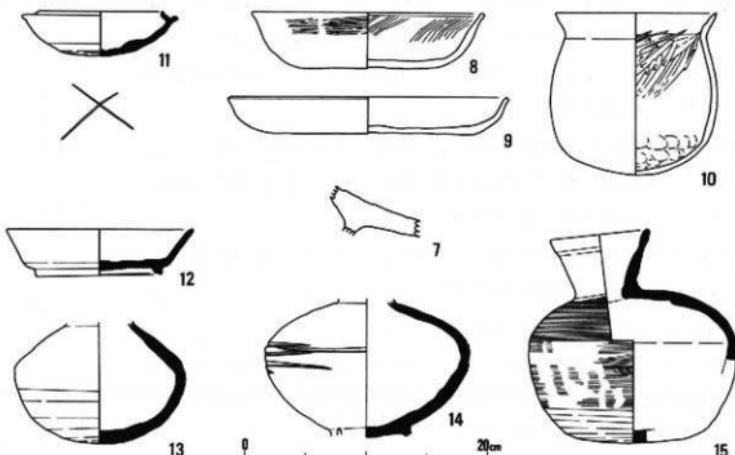
第7図 1区井戸2出土遺物

期（10世紀代）と考えられる。

井戸3 F5-15-I14-f6で検出した素掘りの井戸である。平面形は円形、規模は長径5.25m、短径2.74m以上、深さ3.7m以上である。埋土は暗灰色粘土他である。調査時の記録および『概要・XIII』には中世平瓦が1点出土したとあるが、台帳には登録されておらず、遺物の所在も不明である。本遺構の時期は不明である。

井戸4 F5-15-I14-f6・g6で検出した素掘りの井戸である。上部は攪乱を受けていた。平面形は円形、規模は長径1.7m、短径1.46m、深さ4.1m以上である。埋土は暗灰色粘土である。遺物は出土しなかった。本遺構の時期は不明である。

井戸5 F5-15-I14-a6で検出した。平面形は橢円形、規模は長径1.49m、短径1.24m、深さ1.85m、素掘りの井戸である。埋土は黒色粘土である。井戸底の西端には杭2本が打ち込まれていた。遺物は埋土上部から古墳時代の蓋形埴輪片、飛鳥時代～奈良時代の須恵器坏身、台付長径壺、土師器坏などが出土し、井戸底では飛鳥時代の須恵器平瓶、土師器甕、斎串8点などが出土した（第8図）。本遺構の時期は飛鳥時代（7世紀）と考えられる。

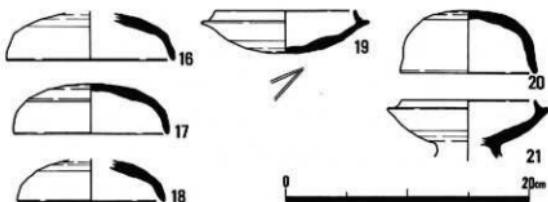


第8図 1区井戸5出土遺物

土坑1 F5-15-I14-c6で検出した。平面形は円形、規模は長径0.63m、短径0.62m、深さ0.25mである。埋土は茶褐色粘土混じりの暗灰色粘質土である。調査時の記録および『概要・XIII』には鎌倉時代瓦器椀、土師器小皿が出土したとあるが、遺物登録台帳には登録されておらず、遺物の所在も不明である。本遺構の時期は中世以降である可能性が高いと考えられる。

土坑2 F5-15-H14-f6で検出した。平面形は不整形で、規模は長径6.0m以上、短径2.1m、深さ0.29～0.42mである。溝1と溝2に切られている。また土坑の底は凹凸が著しい。埋土は黒

色粘土である。遺物は古墳時代後期の須恵器坏身、坏蓋、高坏、甕、土師器甕、瓶などが出土した（第9図）。本遺構の時期は古墳時代後期（6世紀末）と考えられる。



第9図 1区土坑2出土遺物

土坑3 F5-15-G14-c6・c7で検出した。平面形は橢円形で、規模は長径0.58m以上、短径0.42m、深さ0.16mである。埋土は黒色粘質土である。遺物は古墳時代後期の須恵器坏身、坏蓋、高坏、甕、土師器甕、瓶などが出土した。本遺構の時期は古墳時代後期（6世紀後半）と考えられる。

土坑4 F5-15-I14-j6で検出した。平面形は橢円形で、規模は長径1.4m、短径0.6m、深さ0.29mである。埋土は灰青緑色粘質土である。遺物は出土しなかった。埋土も他に共通する遺構が無く、本遺構の時期は不明である。

土坑6 F5-15-I14-i6で検出した。平面形は橢円形で、規模は長径1.4m以上、短径0.7m、深さ0.17mである。埋土は黄褐色粘土混じり黒色粘土である。遺物は古墳時代後期の須恵器坏蓋、甕などが出土した。本遺構の時期は古墳時代後期（6世紀後半）と考えられる。

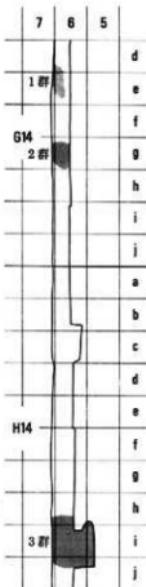
土坑8 F5-15-G14-c6で検出した。平面形は不整橢円形であり、長径0.74m、短径0.59m、深さ0.13mである。埋土は黒色粘質土である。遺物は出土しなかった。本遺構の時期は不明である。

土坑10 F5-15-G14-j6で検出した。平面形は不整形で、規模は長径0.86m、短径0.65m以上、深さ0.13mである。埋土は黒色粘土である。遺物は出土しなかった。本遺構の時期は不明である。

土坑11 F5-15-G14-j6で検出した。平面形は瓢箪形で、規模は長径0.62m、短径0.3m、深さ0.17mである。埋土は黒色粘土である。遺物は出土しなかった。本遺構の時期は不明である。

土坑12 F5-15-G14-j6で検出した。平面形は不整形で、規模は長径0.94m、短径0.54m、深さ0.42mである。埋土は黒色粘土である。遺物は出土しなかった。本遺構の時期は不明である。

ピット ピットは多数検出した。その分布には大きなまとまりが3カ所ある。地区名はF5-15-G14-e6・d7とF5-15-G14-g6・g7とF5-15-H14-h6・i6・h7・i7・j7であり、北から順に1群、2群、3群とする（第10図）。ピットの平面形は円形、橢円形もしくはこれに近いものが多く、埋土は黒色粘土もしくは黒色粘質土である。時期を推測できるピットはいずれも1群に属す



第10図
1区ピット群位置図
(S=1/1,500)

る。ピット1～7は遺物が出土したが、ピット4を除いてすべて古墳時代後期の須恵器片であり、他は時期不明の土師器小片であった。また遺物が出土しなかったがピット26と28は古墳時代後期の遺構である溝5に切られていることから、これより古いことは確実である。しかしひつ1～7の出土物を見る限り、大きくこれを遡る可能性は低い。2群、3群は時期を考える決め手がないが、埋土は1群と共通する。このことから、これらのピットの時期はほぼ古墳時代後期として大過ないと考える。なお本調査区で検出したピットのまとまりから建物を復元することはできなかったが、試掘調査では試掘9トレンチ・11トレンチにおいて2間×1間以上の掘立柱建物が検出されており、当該期の建物群が営まれていたことは確実である。

溝1 F5-15-H14-c6・d6・e6・f6・g6・h6で検出した（第11図）。

規模は長さ41.1m、幅0.42～0.8m、深さ0.1～0.46mである。埋土は黄褐色粘土混じり黒褐色粘土である。遺物は大半が古墳時代後期～飛鳥時代の須恵器、土師器の破片である。『概要・III』に報告さ

れた奈良時代の須恵器、土師器は確認できなかった。瓦器椀の破片が2点出土したが、これはため池との切り合いによる混入と考えられる。本遺構の時期ははっきりしないが、『概要・III』の記載によると奈良時代（8世紀）が上限になる可能性が高い。なお確認は得られなかったが、本遺構はため池の東肩に沿って流れていることから、ため池と何らかの関係があるものと推測できる。

溝2 F5-15-H14-d6・e6・f6で検出した。ため池の東肩に沿って流れる溝である。規模は検出長24.9m、幅0.55～1.44m、深さ0.19～0.48mである。埋土は暗灰色粘土である。遺物は中世の瓦器椀、土師器小皿、丸瓦、平瓦などの他、古墳時代後期の須恵器、土師器片が出土した。本遺構の時期は鎌倉時代初頭（12世紀末～13世紀初頭）と考えられる。

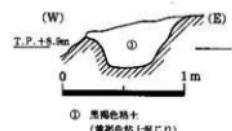
溝3 F5-15-I4-d6で検出した。溝4と合流している。規模は検出長3.88m、幅0.82m、深さ0.17mである。埋土は暗灰色粘質土である。遺物は古墳時代後期の須恵器壊身、壊蓋、高坏などが出土した。本遺構の時期は古墳時代後期（6世紀後半～7世紀初頭）と考えられる。

溝4 F5-15-I4-d6で検出した。溝3と合流している。規模は検出長6.0m、幅1.26～2.12m、深さ0.24～0.29mである。埋土は暗灰色粘質土である。遺物は古墳時代後期の須恵器壊片が出土した。本遺構の時期は古墳時代後期（6世紀後半）と考えられる。

溝5 F5-15-G14-g6で検出した。規模は検出長5.75m、幅1.04m、深さ0.2mである。埋土は黒色粘土である。遺物は古墳時代後期の須恵器壊片が出土した。本遺構の時期は古墳時代後期（6世紀後半）と考えられる。

溝6 F5-15-H14-b6・c6・c7で検出した。規模は検出長19.6m、幅2.38～6.0m、深さ0.6～0.8mである。埋土は暗灰色粘土である。ため池の導水施設と考えられる。中世の瓦等が出土した。本遺構の時期は鎌倉時代（13世紀代）が中心になるとと考えられる。

溝7 F5-15-II4-e6・f6で検出した。規模は検出長12.0m、幅0.3m、深さ0.08～0.14mであ



第11図 I区溝1断面図 (S=1/40)

る。埋土は暗灰褐色粘質土である。遺物は出土しなかった。本遺構の時期は不明である。

溝8 F5-15-I14-i6・j6で検出した。規模は検出長3.18m、幅0.36m、深さ0.09mである。

埋土は黒色粘土である。遺物は出土しなかった。本遺構の時期は不明である。

溝9 F5-15-I14-i6で検出した。規模は長さ2.62m、幅0.3m、深さ0.08mである。埋土は黒色粘土である。遺物は出土しなかった。本遺構の時期は不明である。

溝10 F5-15-I14-i6で検出した。規模は検出長7.72m、幅0.9~1.36m、深さ0.21mである。

埋土は灰色粘土である。溝の両肩には径10cm程度の杭が所々に打ち込まれていた。遺物は出土しなかった。本遺構の時期は近・現代と考えられる。

溝11 F5-15-G14-c7で検出した。検出長1.4m、幅0.43m、深さ0.11mである。埋土は黒色粘質土である。遺物は出土しなかった。本遺構は東端を土坑3に切られていることから、土坑3の時期である古墳時代後期以前であると考えられる。

溝12 F5-15-H14-a6・a7・b6で検出した。規模は検出長8.0m、幅0.3~1.0m、深さ0.17~0.43mである。埋土は暗灰色粘土である。遺物は出土しなかった。本遺構の時期は不明である。

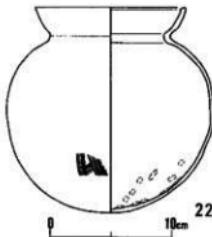
溝13 F5-15-I14-i6・j6で検出した。規模は検出長11.8m、幅0.36~0.56m、深さ0.04~0.06mである。埋土は黒色粘土である。遺物は出土しなかった。本遺構の時期は不明である。

水田 F5-15-G14-d6、d7で畦畔を1条検出した。幅1.1m、高さ0.15m、東西方向の畦畔である。地山である灰黄色粘土層の上に淡い焦げ茶色粘土を盛って造ったもので、本遺構の南北にひろがる平坦な面は水田面と考えられる。この水田面を覆う黒色粘土層から布留式の甕がほぼ完形で出土した（第12図）他、古墳時代後期から奈良時代の土器が多量に出土している。本水田の年代は古墳時代前期以降であると考えられるが、特定するのは困難である。

ため池 F5-15-H14-c6・d6・d7・e6・e7・f6・f7・g6・g7・h6・

h7で検出した。今池処理場の建設に伴い埋められた今池の肩部で 第12図 1区包含層出土遺物ある。規模は検出長南北80m、東西7m、調査区内の最深部は検出面から1.7mであった。埋土は暗灰色粘土等である。遺物は古墳時代～奈良時代の土師器、須恵器片、中世の瓦器碗、土師器小皿、瓦等が大量に出土した。今池の掘削年代は、溝1の調査結果から奈良時代に遡る可能性も考えられるが、今回は東肩の一部を検出したにすぎないために特定することはできなかった。

自然河川 F5-15-G14-g6・g7・h6・h7・i6・i7・j6・j7で検出した。南東から北西方向に向かって流れていたと考えられる自然河川である。規模は幅15m、深さは1.7mまで掘削したが、それ以上は危険で掘ることはできなかった。この自然河川が埋積していく過程で井戸2、土坑9が掘り込まれているため、本自然河川の年代は平安時代中期以前と考えられる。遺物は埋土最上層の南北2本の流路中から鎌倉時代の瓦器碗、土師器羽釜などの他、多量の瓦が出土した。また近世には水路として残ったらしく、杭が打ち込まれ、染付碗や中・近世瓦が出土した。



22

(2) 2区の調査結果

2区は幅5m、長さ167m、面積800m²の南北に細長い調査区である(第13図)。本調査区では井戸1基、掘立柱建物4棟、ピット74基、土坑11基、溝5条、畦畔1条、段落ち(落ち込み)1基を検出した。

井戸1 F5-15-D13-c2で検出した本調査区唯一の井戸である。ピット56を切っている。平面形は円形で、長径1.59m、短径1.49m、深さは5.3m以上である。井戸底までは掘りきれなかった。埋土は黒褐色粘質土であるが、色調はピット56に比べると明るく、全く異なっている。遺物は出土しなかつたため時期は不明であるが、切り合いの関係にあるピット56の時期である古墳時代後期(6世紀後半)より新しいことは確実である。

掘立柱建物 本調査区では掘立柱建物を4棟検出した。北から順に掘立柱建物1~4としている。掘立柱建物の位置するF5-15-D13-b2・b3・c2・c3・d2・d3付近はT.P.+8.5~8.8mと2区の中では最も高くなっている。その他の遺構も集中している。いずれの建物の柱穴も深さは0.2m程度しかない事から考えると、この高まりはかなり削平されているものと考えられる。

掘立柱建物1 F5-15-D13-

b2・b2・c2・c3で検出した掘立

柱建物である(第14図)。調査

区の幅が狭いために正確な規模

は不明だが、梁間3間(5.2m)、

桁行4間(6.24m)以上の建物

で、面積は推定32.45m²以上で

ある。主軸の方向はN-42° -

Wである。柱穴の平面形はやや

いびつな円形、もしくは隅丸長

方形のものがほとんどであり、

規模はおよそ径0.4~0.8mで

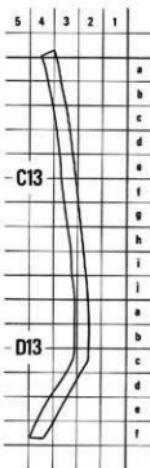
ある。本調査区で検出した4棟の

掘立柱建物の中では面積および

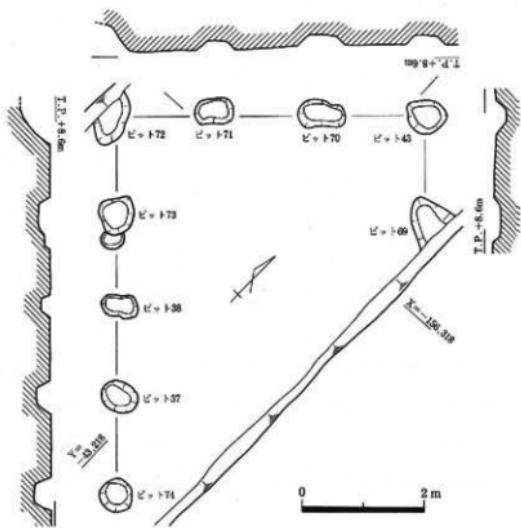
柱穴の規模は最も大きい。柱間

寸法は梁間・桁行ともそれぞれ

ほぼ等間隔であり、平均値は梁



第13図
2区地区割図
(S=1/2,000)



第14図 2区掘立柱建物1平面・断面図 (S=1/80)

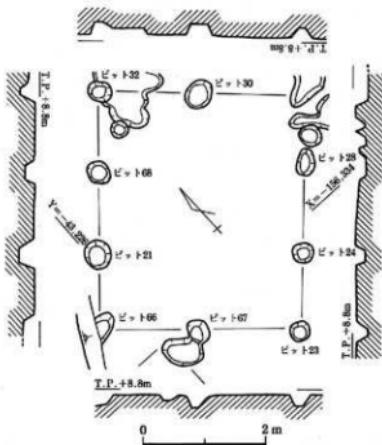
間が1.76m、桁行が1.56mである。遺物はピット37から古墳時代後期の須恵器高坏片、土師器壺片等が、ピット43からは土師器小片が出土した。

掘立柱建物2 F5-15-D13-d3で検出した掘立柱建物である（第15図）。梁間2間（3.2m）、桁行3間（3.92m）の建物で、面積は 12.54m^2 である。主軸の方向はN-138°-Wである。東コーナー部の柱穴が搅乱のため検出されなかつた。柱穴の平面形は円形のものが多く、規模は径0.3~0.4m程度である。柱間寸法は梁間・桁行ともそれぞれほぼ等間隔であり、平均値は梁間が1.6m、桁行が1.31mである。遺物はピット23から古墳時代後期の土師器坏片が出土した

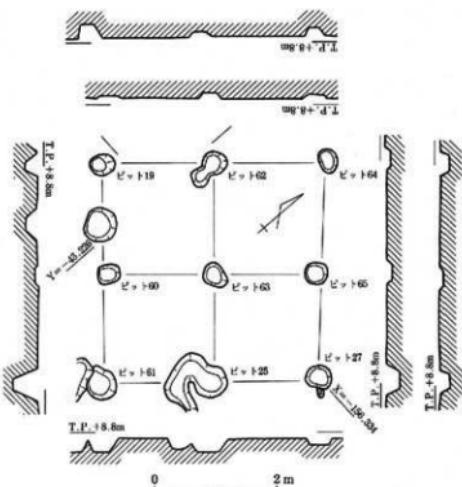
他、ピット21・24・28・30・32から時期不明の土師器小片が出土した。掘立柱建物3と重複しているが、前後関係は不明である。

掘立柱建物3 F5-15-D13-d3で検出した掘立柱建物である（第16図）。梁間2間（3.6m）、桁行2間（3.6m）の総柱建物で、面積は 12.96m^2 である。主軸の方向はN-139°-Wである。柱穴の平面形は円形のものが多く、規模は径0.4~0.5m程度である。柱間寸法の平均値は1.8mである。遺物はピット25から古墳時代後期の土師器高坏片および土師器片が出土した他、ピット19、27から時期不明の土師器小片が出土した。

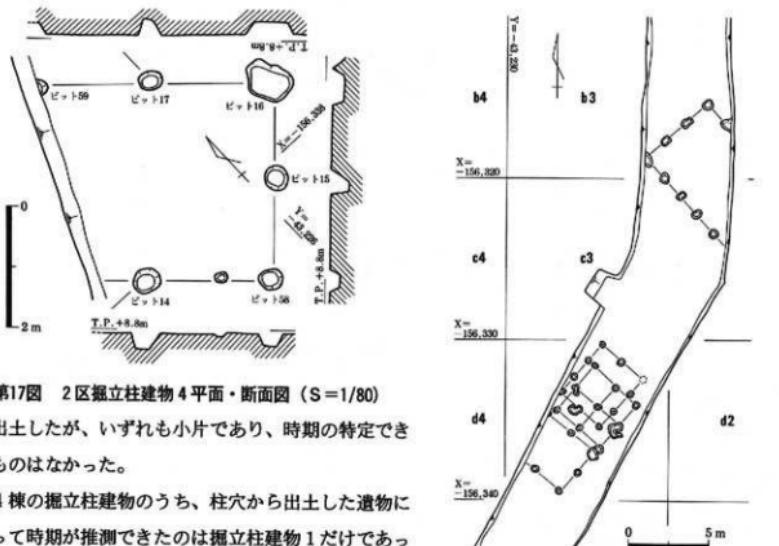
掘立柱建物4 F5-15-D13-d3で検出した掘立柱建物である（第17図）。建物の西側は調査区外に出ており、正確な規模は不明だが、梁間2間（3.3m）、桁行2間（3.8m）以上の建物で、面積は推定 12.54m^2 以上である。主軸の方向はN-53°-Wである。柱穴の平面形は円形のものが多く、規模は径0.4~0.5m程度である。柱間寸法の平均値は桁行が1.9m、梁間は1.65mである。遺物はピット14~17から土師器片



第15図 2区掘立柱建物2平面・断面図 (S=1/80)



第16図 2区掘立柱建物3平面・断面図 (S=1/80)



第17図 2区掘立柱建物4平面・断面図 ($S=1/80$)

が出土したが、いずれも小片であり、時期の特定できるものはなかった。

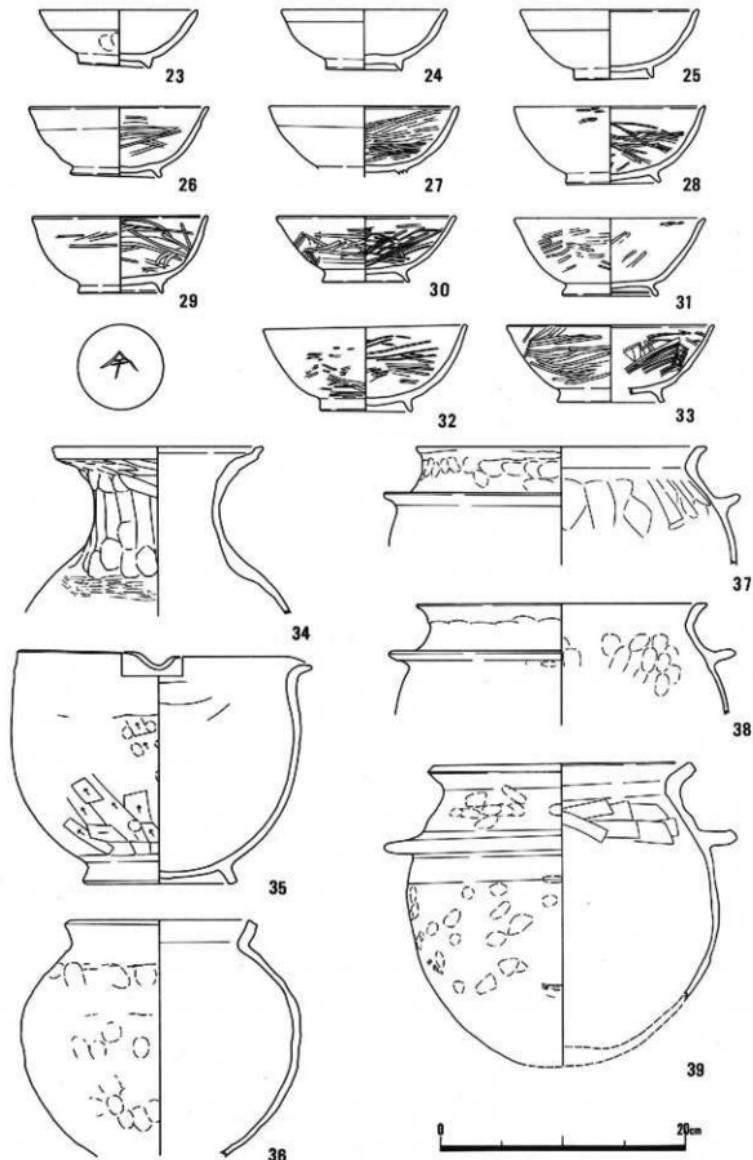
4棟の掘立柱建物のうち、柱穴から出土した遺物によって時期が推測できたのは掘立柱建物1だけであった。また掘立柱建物（第18図）は柱穴の切り合い関係がなかったため、それぞれの前後関係も不明である。しかし柱穴の埋土は4棟とも共通しており、建物の主軸が条里に規制されていないことから、これらの建物は古墳時代後期（6世紀後半）に造営された可能性が高いと考えられる。

土坑1 F5-15-D13-e3で検出した。全体の規模は不明だが、検出長2.58m、検出幅0.27m、深さ0.11mである。埋土は黒褐色粘質土である。遺物は平安時代中期の土師器壺片等が出土した。本遺構の時期は平安時代中期（10世紀代）と考えられる。

ピット41 F5-15-D13-b2で検出した。平面形は不整橢円形で、規模は長径1.12m、短径0.69mである。埋土は黒褐色粘質土である。ピット底には長さ0.43m、幅0.38m、厚さ0.1mの安山岩を納めて礎石としている。遺物は古墳時代後期の須恵器壺身片等が出土した。本遺構の時期は古墳時代後期（6世紀後半）と考えられる。

ピット42 F5-15-D13-b2で検出した。平面形は円形で、規模は直径0.48mである。埋土は黒褐色粘質土である。遺物は奈良時代の土師器高壺片などの他、人頭大の花崗岩が出土した。本遺構の時期は奈良時代（8世紀代）と考えられる。

ピット49 F5-15-D13-a2・a3で検出した。平面形は円形、規模は長径0.67m、短径0.64m、深さ0.47mである。埋土は黒褐色粘質土である。遺物は土師器羽釜、鍋、片口鍋、椀、皿、壺、黒色土器椀、須恵器壺、砥石、つちのこなど多数出土した（第19図）。本遺構の時期は平安時代中期（10世紀代）と考えられる。



第19図 2区ピット49出土遺物

ピット57 F5-15-D13-a2・a3で検出した。平面形は隅丸方形、規模は長径0.6m、短径0.52m、深さ0.26mである。埋土は黒褐色粘質土である。遺物は奈良時代の土師器壺が出土した(第20図)。本遺構の時期は奈良時代(8世紀代)と考えられる。

溝1 F5-15-C13-c3で検出した東西方向の溝である。東半部は搅乱を受けているが、規模は検出長4.69m、幅1.63m、深さ0.54m、埋土は暗こげ茶色粘質土他である。遺物は埋土最下層から奈良時代の土師器壺などが少量出土した(第21図)が『概要・

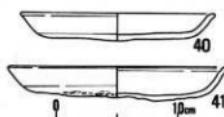
III』に記載されている墨書き土器は整理にあたって確認することはできなかった。本遺構の時期は奈良時代(8世紀代)と考えられる。

溝2 F5-15-C13-b3・b4で検出した東西方向の溝である。規模は検出長4.24m、幅4.07~4.68m、深さ0.6m、埋土は暗こげ茶色粘質土他である。遺物は弥生土器の壺口縁部や古墳時代後期の土師器壺片が出土した。調査区西端部では溝3とほとんど接しており、調査区外で合流するものと思われる。遺物は少量であり、本遺構の時期ははっきりとはわからないが、埋土の状況が溝1と同じであることから、溝1と同じく奈良時代(8世紀代)の可能性が高いと考えられる。

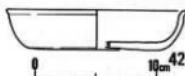
溝3 F5-15-C13-b3・b4で検出した東西方向の溝である。規模は検出長3.64m、幅1.55~2.14m、深さ0.27mである。埋土は暗こげ茶色粘質土他である。調査区外で溝2と合流するものと思われる。遺物は出土しなかった。本遺構の時期は、やはりはっきりとはわからないが、溝1と並行に流れていること、埋土の状況が溝1、2と同じであることから、奈良時代(8世紀代)の可能性が高いと考えられる。

段落ち(落ち込み) F5-15-C13-e3・f3・g3で検出した規模の大きい落ち込みである(第22図)。検出した規模は南北約20mであり、遺構検出面からの深さは約0.5mである。本遺構の北端部には丁度パイプが通っており、ここから北側は遺構面が約0.2m高くなっている。この高くなった部分に次に報告する水田が検出されたのだが、本遺構と水田の関係はパイプと搅乱のために不明である。本遺構の埋土は2層からなり、上層はこげ茶色粘土層(層厚約0.3m)、下層は黒灰色粘土層(層厚約0.2m)である。遺物は瓦器壺、土師器小皿、羽釜などが出土した。本遺構の時期は鎌倉時代(13世紀代~14世紀前半)と考えられる。

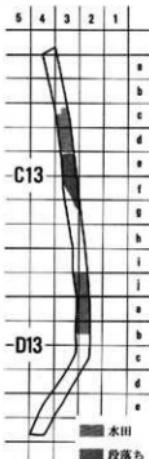
水田 水田は南北2ヶ所で検出した(第22図)。北側の水田はF5-15-C13-c3、d3で南北方向の畦畔の痕跡を検出した。検出した範囲は南北約19mであり、南は敷設されたパイプで、北は溝1によって区切られている。水田面のレベルはT.P.+7.67~7.93mである。本水田は灰緑色細砂に覆われており、足跡も多く認められた。本水田の時期は不明である。なお溝1の北側は



第20図 2区ピット57出土遺物



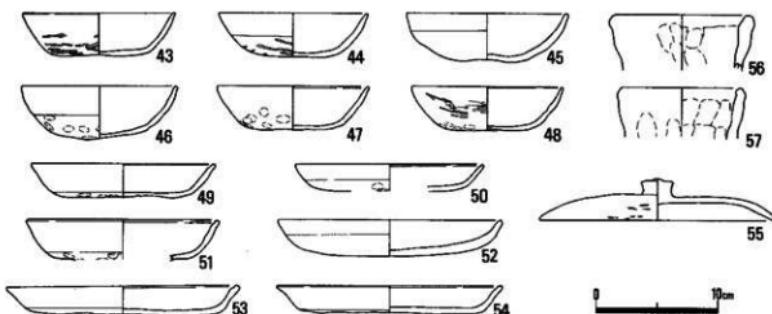
第21図 2区溝1出土遺物



第22図 2区水田・
段落ち位置図
(S=1/2,000)

遺構がほとんど検出されていない。さらに水田が広がっていた可能性もあるが、ここは地山面が下がり、近世～近代の耕作土も落ち込んでいるので、それ以前すでに削平されているものと考えられる。南側の水田は面としては検出していないが、土層断面観察によってX=-156,290付近に東西方向の畦畔があったことを確認した。ここから南に約25mのX=-156,315までの間、地区名ではF5-15-C13-j2・j3およびF5-15-D13-a2・a3・b2・b3においては下層包含層である黒褐色粘質土が約0.15m掘り下げられて平坦面が造られており、ここに中世包含層である灰褐色粘質土（第3図第4層に対応）が堆積している。本層が水田耕土と考えられる。本層からは鎌倉時代の遺物が出土したことから、本水田の時期は当該期であるものと推測される。

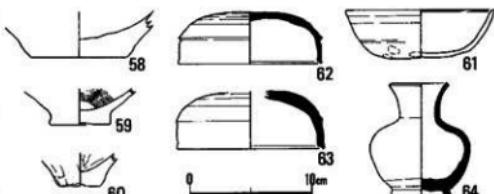
下層包含層上面出土遺物（第23図） 下層包含層とは第3章第1節で述べたように地山面である黄褐色粘土層上面を覆う土層である（第3図第6層）。2区では黒褐色粘質土がこれに対応する。この下層包含層の上面で土器類（43～55）、製塩土器（56、57）がまとまって出土した。出土地点はF5-15-D13-a2・b2である。遺物は一括して投棄されたものと考えられ、いずれも奈良時代末（8世紀末）と考えられる。本土器群が下層包含層の年代の下限を示すものと考えられる。



第23図 2区下層包含層上面出土遺物

下層包含層出土遺物 弥生時代
前期～奈良時代の土器が出土した（第24図）。図示したのはその一部である。またF5-15-D13-a2の地山面直上において、弥生時代前期の壺の肩部破片が

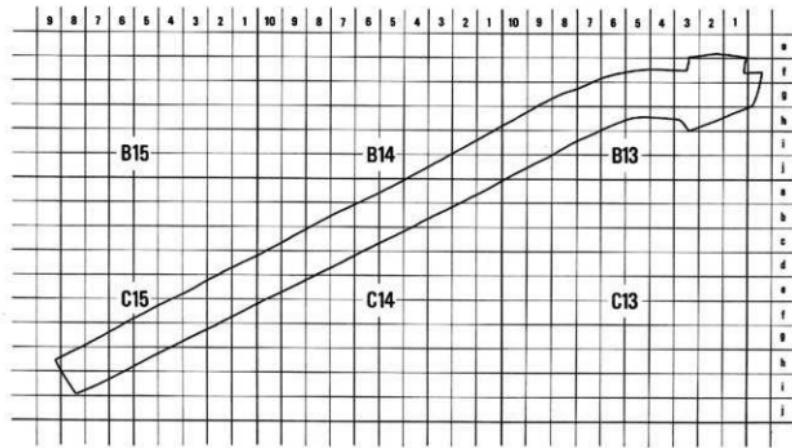
1点出土した。竹管刺文と沈線文を施したもので、前期新段階のものと考えられる。



第24図 2区下層包含層出土遺物

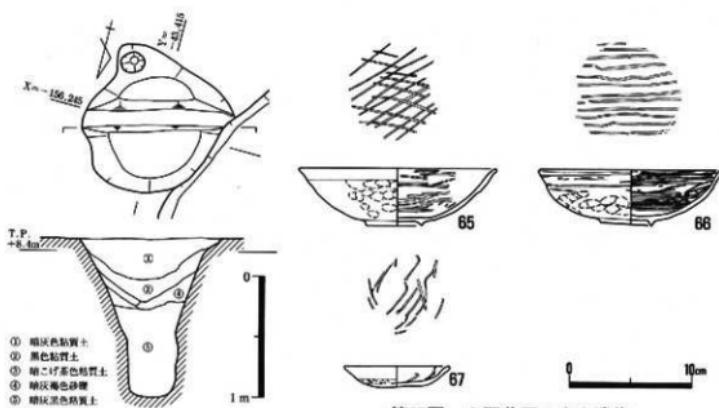
(3) 3区の調査結果

3区は幅16m、長さ300m、面積4800m²の東西に細長い調査区である(第25図)。本調査区では井戸12基、ピット98基、掘立柱建物1棟、土坑96基、溝18条、瓦溜り2基を検出した。



第25図 3区地区割図 ($S=1/2,000$)

井戸1 F5-15-C15-e2で検出した素掘りの井戸である(第26図)。平面形は不整円形、規模は直径1.2m、深さ1.3mである。埋土は暗灰色粘質土他である。中世の瓦器椀、瓦器小皿、桧製の曲物桶底等板が出土した(第27図)。本遺構の時期は平安時代末期(12世紀後葉)と考えられる。



第26図 3区井戸1平面・断面図 ($S=1/40$)

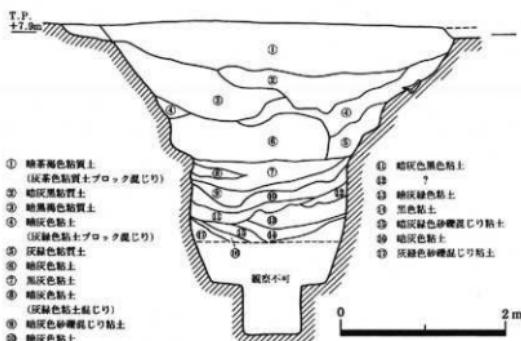
第27図 3区井戸1出土遺物

井戸 2 F5-15-C14-c8、
c9、d8、d9で検出した素掘りの井戸である（第28図）。

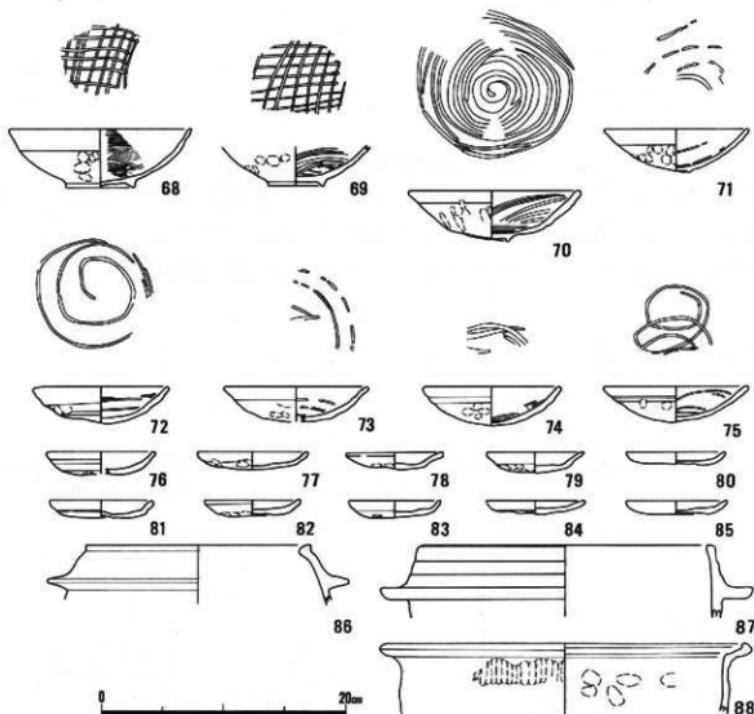
平面形は隅丸長方形で、規模は長径6.2m、短径5.0m、深さ3.8mである。埋土は暗茶褐色粘質土他である。遺物は呪符木筒、曲物底板、中世の瓦器椀、瓦質甕片、土師器小皿等が出土した（第29図）。

本遺構の時期は鎌倉時代末期

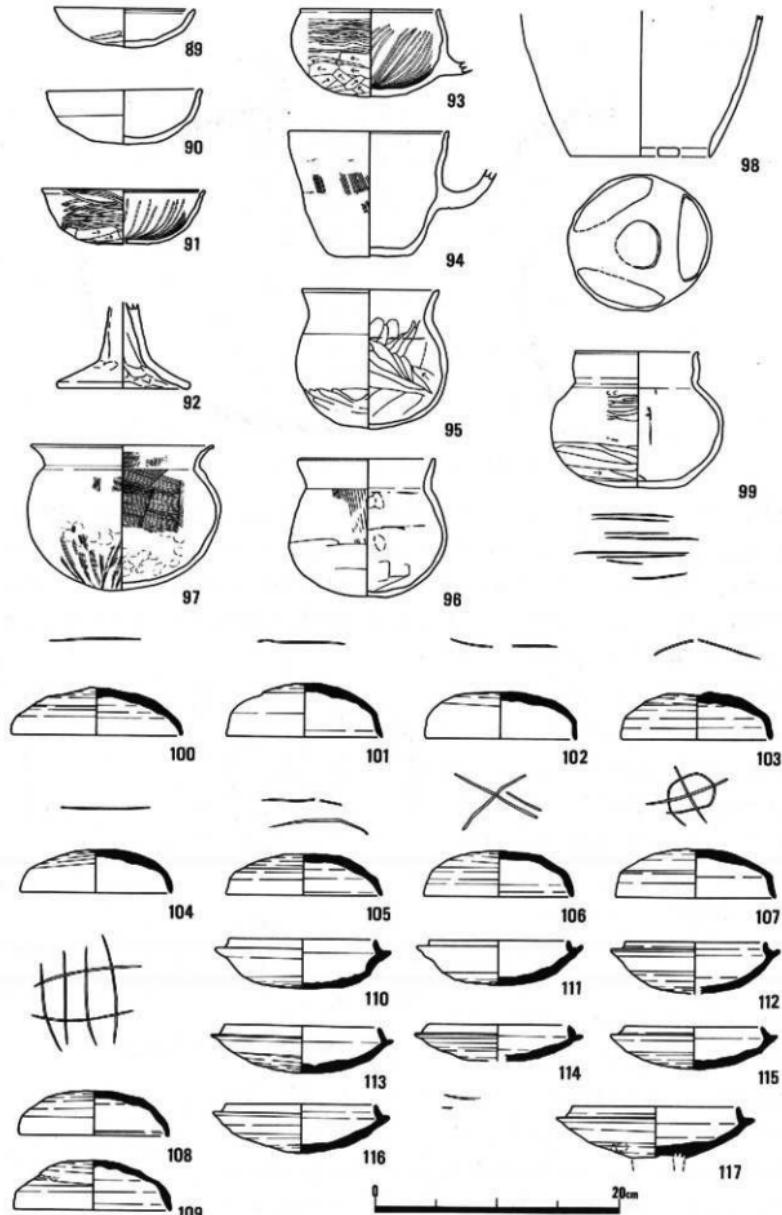
（14世紀前葉）と考えられる（『概要・XIII』も参照されたい）。



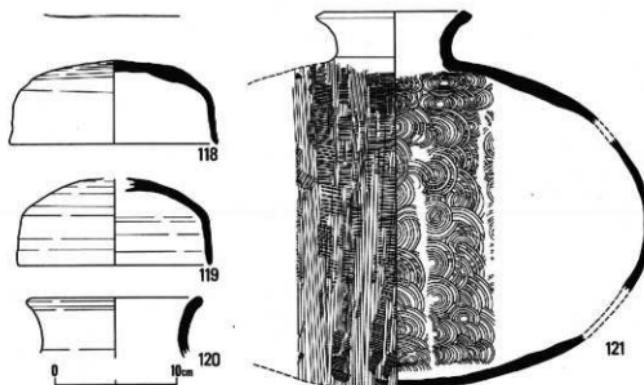
第28図 3区井戸 2 平面・断面図 (S=1/60)



第29図 3区井戸 2 出土遺物



第30図 3区井戸3出土遺物(1)



第31図 3区井戸3出土遺物(2)

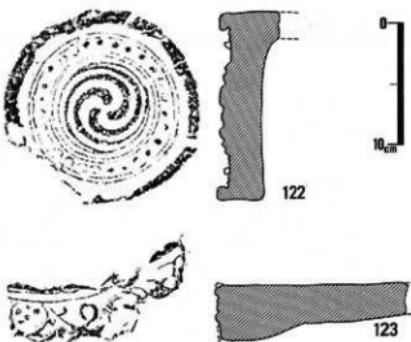
井戸3 F5-15-C15-f5で検出した素掘りの井戸である。平面形は不整円形であり、規模は長径3.6m、短径2.75m、深さ1.7mである。埋土は黒色粘質土他である。遺物は古墳時代後期から飛鳥時代の遺物が多数出土した(第30・31図)。井戸底からは滑石製品、斎串片(?)などの祭祀具も検出されており、これらの遺物は井戸廃絶時に埋納した可能性もある。本遺構の時期は飛鳥時代(7世紀)と考えられる。

井戸4 F5-15-C15-i7で検出した素掘りの井戸である。平面形は円形で、長径2.8m、短径2.7m、深さ3.4mである。埋土は暗灰黒色粘土他である。遺物は備前甕、同すり鉢、瓦質羽釜、丸瓦、平瓦等が出土した(第32図)。本遺構の時期は室町時代中期(15世紀代)と考えられる。

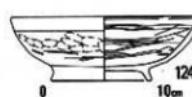
井戸5 F5-15-C15-f5で検出した木枠井戸である。搅乱のために平面形や規模は不明だが深さは1.61mである。埋土は暗灰色粘土他である。肩部から1.1mで三方に

木枠が残存しているのを確認した。遺物は土師器碗が出土した(第33図)。本遺構の時期は平安時代中期(10世紀代)と考えられる。

井戸6 F5-15-C15-g6で検出した素掘りの井戸である。平面形は円形で、規模は長径1.15m、短径1.08m、深さは2.0mである。埋土は暗褐色粘質土他である。遺物は鬼瓦片、土師器小皿が出土した(第



第32図 3区井戸4出土遺物

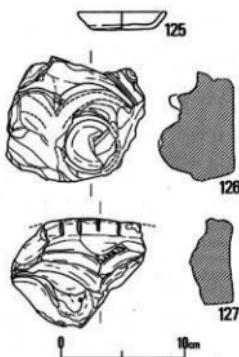


第33図 3区井戸5出土遺物

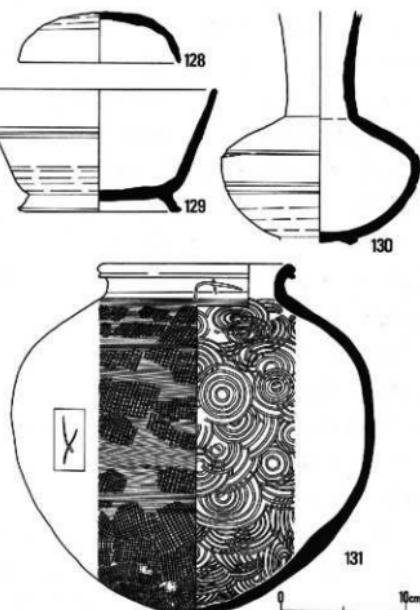
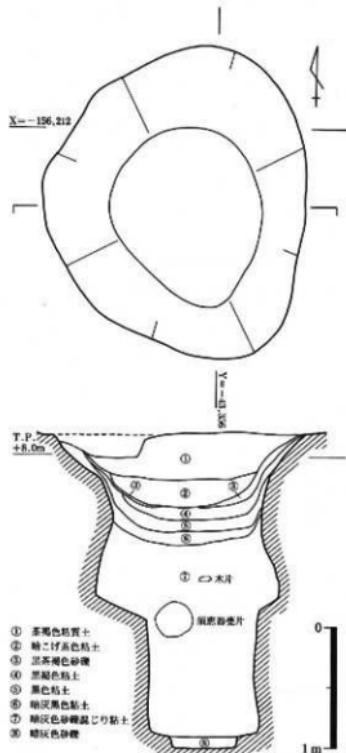
34図)。本遺構の時期は鎌倉時代末期～室町時代前期(14世紀代)と考えられる。

井戸7 F5-15-C14-b6で検出した素掘りの井戸である(第35図)。平面形は不整橢円形で、規模は長径2.5m、短径2.2m、深さ1.61mである。埋土は暗灰色粘土他である。遺物は肩部から1.4m下がった所で、古墳時代後期の須恵器坏身、坏蓋、長径壺、台付鉢、甕、高坏、土師器甕、把手付鍋などが出土地した(第36図)。本遺構の時期は古墳時代後期(6世紀後半)と考えられる。

井戸8 F5-15-C15-g6で検出した素掘りの井戸である。平面形は円形で、規模は長径1.1m以上、短径1.0m以上、深さ1.2mである。埋土は黒色粘質土である。遺物は中世の瓦質三



第34図 3区井戸6出土遺物



第36図 3区井戸7出土遺物

足付鍋の他、古墳時代後期の須恵器坏身、高坏、甕壺、土師器甕、高坏などの破片が出土した。本遺構の時期は中世(14～15世紀代)と考えられる。

第35図 3区井戸7平面・断面図 (S=1/40)

井戸 9 F5-15-C15-i8で検出した素掘りの井戸である。調査区の端で一部分を検出しただけなので平面形は不明だが、深さは0.6m以上である。埋土は暗灰褐色粘質土である。遺物は瓦器小皿の小片、平瓦などが出土した。本遺構の時期ははっきりしないが、鎌倉時代後半期（13~14世紀前葉）と考えられる。

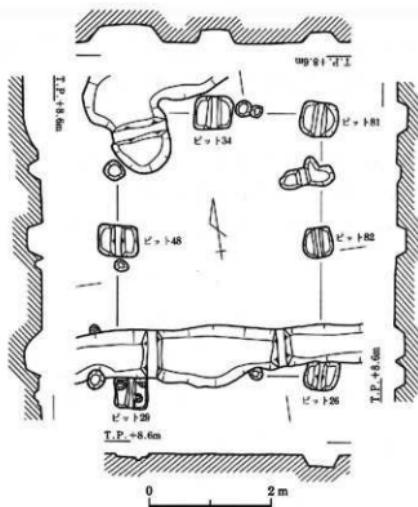
掘立柱建物 F5-15-C14-b5・b6・c5・

c6で検出した（第37図）。付近はピットが集中しているが、建物を復元できたのはこの1棟だけであった。梁間2間、桁行2間の建物で、面積は13.9m²、主軸の方向はN-6°-Eである。柱穴の平面形は隅丸方形、隅丸長方形であり、規模は長径0.47~0.64m、短径0.47~0.56mと周囲のピットの中では比較的規模の大きいピットで構成されている。柱穴から古墳時代後期の土器片がわずかに出土したが、時期の決め手にはならないと思われる。ピット26と29が溝8に切られていることから、本建物が溝8に先行することは確かであるが、主軸の方向は溝8に直交し、条里に規制されていると考えられることから、大きく溯るものではなく、やはり中世の遺構である可能性が高い。

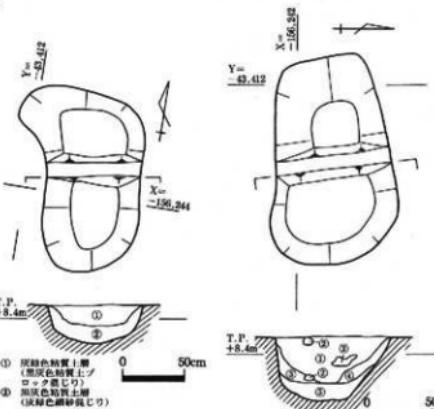
土坑 2 F5-15-C15-e2で検出した（第38図）。平面形は長椭円形で、規模は長径1.5m、短径0.85m、深さ0.3mである。埋土は灰緑色粘質土である。遺物は中世の瓦器挽小片、平瓦片、古墳時代後期の土師器片、須恵器片等が出土した。本遺構の時期は中世と考えられる。

土坑 3 F5-15-C15-e2で検出した（第39図）。平面形は隅丸長方形で、規模は長径1.5m、短径0.96m、深さ0.52mである。埋土は灰黄色粘質土である。

遺物は中世の瓦器挽小片、瓦質甕片、土師器小皿、古墳時代後期の須恵器甕片、



第37図 3区掘立柱建物平面・断面図 (S=1/80)



第38図
3区土坑 2 平面・断面図
(S=1/40)



第39図 3区土坑 3 平面・断面図 (S=1/40)

高坏片、土師器壺片等が出土した。本遺構の時期は中世（14世紀代か）と考えられる。

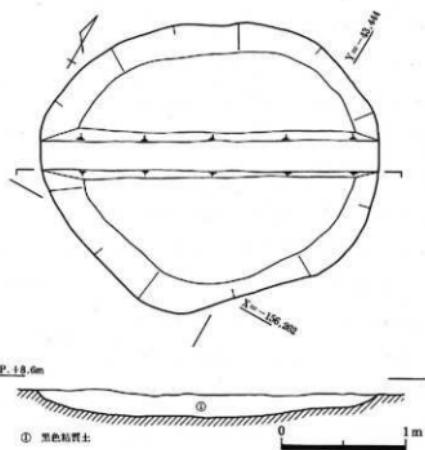
土坑4 F5-15-C15-e1で検出した。平面形は隅丸長方形で、規模は長径1.54m、短径1.16m、深さ0.36mである。埋土は暗灰色粘質土他である。遺物は古墳時代後期の須恵器壺蓋等が出土した。本遺構の時期は古墳時代後期（6世紀後半）と考えられる。

土坑5 F5-15-C15-g5で検出した（第40図）。平面形は不整円形で、規模は長径2.79m、短径2.4m、深さ0.2mである。埋土は黒色粘質土であり、炭片を多量に含んでいた。遺物は平安時代中期の土師器壺、壺、黑色土器A類碗などが出土した（第41図）。本遺構の時期は平安時代中期（10世紀前半）と考えられる。

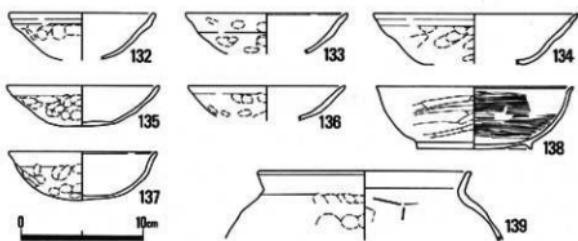
土坑6 F5-15-C15-f5・g5で検出した。平面形は梢円形で、規模は長径1.12m、短径0.97m、深さ0.38mである。埋土は黒色粘質土である。奈良時代の土師器皿、片口鉢など完形3個体の他、古墳時代後期の須恵器片等が出土した（第42図）。140の底部外面には「山田」と墨書きがある。本遺構の時期は奈良時代（8世紀）と考えられる。

土坑7 F5-15-C15-f5で検出した。井戸3の南東の肩を切っている。平面形は円形で、規模は長径1.6m以上、短径1.45m以上、深さ0.28mである。埋土は黒色粘質土である。古墳時代後期の須恵器壺身、壺蓋、壺蓋などが出土した（第43図）。本遺構の時期は古墳時代後期（6世紀後半）と考えられる。

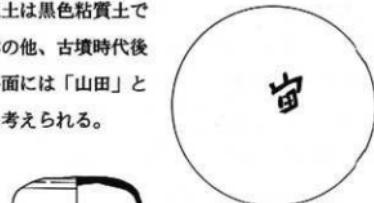
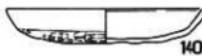
土坑41 F5-15-C15-e1で検出した（第44図）。平面形は円形で、



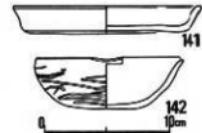
第40図 3区土坑5平面・断面図 (S=1/40)



第41図 3区土坑5出土遺物



第43図
3区土坑7出土遺物



第44図 3区土坑6出土遺物

規模は長径0.8m、短径0.7m、深さ0.3mである。埋土は2層からなり、上層は暗灰黒色粘質土、下層は黒灰色砂礫である。埋土には1cm大の焼土片が多数含まれていた。遺物は平瓦片が出土した他、古墳時代後期の須恵器、土師器片が出土した。本遺構の時期は中世以降であると考えられる。

土坑42 F5-15-C15-e1で検出した（第45図）。平面形は隅丸長方形で、規

模は長径1.12m、短径0.71m、深さ0.4mである。埋土は2層からなり、上層は灰褐色砂礫混じり暗灰色粘質土、下層は暗灰色粘質土混じり灰黄色砂礫である。遺物は古墳時代後期の須恵器甕片等が出土した。本遺構の時期は古墳時代後期（6世紀後半）と考えられる。

土坑46 F5-15-C15-f1・f2で検出した。平面形は梢円形で、規模は長径3.0m、短径1.3m、深さ0.37mである。埋土は黒褐色粘質土である。遺物は古墳時代後期の須恵器甕等が出土した。本遺構の時期は古墳時代後期（6世紀後半）と考えられる。

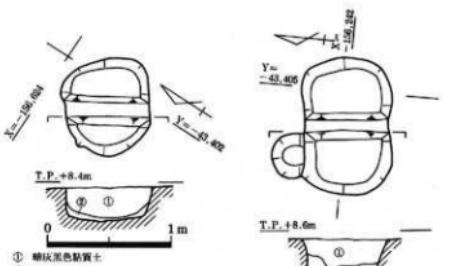
土坑56 F5-15-C15-f3・g3で検出した。東半部は攪乱を受けている。規模は不明だが検出長は1.7m、短径1.1m、深さ0.16mである。埋土は黒褐色粘質土である。遺物は中世の瓦器碗や古墳時代後期の土師器、須恵器片が出土した。本遺構の時期は中世と考えられる。

土坑57 F5-15-C15-g3で検出した。東半部は攪乱を受けている。規模は不明だが、検出長1.7m、短径1.2m、深さ0.28mである。埋土は暗灰褐色粘質土である。遺物は中世の瓦器碗、土師器小皿、瓦の小片等が出土した。本遺構の時期は12世紀後葉と考えられる。

土坑61 F5-15-C15-f4で検出した。平面形はやや瓢箪形で、規模は長径1.25m、短径0.81m、深さ0.52mである。埋土は2層からなり、上層は暗灰色粘質土、下層は黄灰色粘土混じり黒褐色粘質土である。遺物は完形の瓦器 3区土坑61出土遺物 梱1点が出土した（第46図）。本遺構の時期は鎌倉時代末期（14世紀前葉）と考えられる。

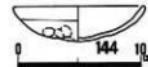
土坑62 F5-15-C15-i7で検出した。平面形は梢円形で、規模は長径1.18m、短径0.75m、深さ0.5mである。埋土は暗灰色粘質土である。遺物は古墳時代後期の土師器甕片が出土した。本遺構は溝4内にあり、埋土は溝4と同じであることから、時期は鎌倉時代末（13世紀末～14世紀初頭）であると考えられる。

土坑75 F5-15-B13-f2で検出した。平面形は梢円形で、規模は長径2.3m、短径1.06m、深さ0.45mであり西端部が最も深い。埋土は2層からなり、上層は黒色粘土、下層は茶褐色粘土である。遺物は出土しなかった。本遺構の時期は不明である。



第44図 3区土坑41平面・断面図 (S=1/40)

第45図 3区土坑42平面・断面図 (S=1/40)



第46図 3区土坑61出土遺物

ピット2 F5-15-C15-h7で検出した。南西部を搅乱で切られているが、平面形は円形と考えられる。規模は長径0.48m、深さ0.32mである。埋土は暗灰褐色粘質土であり、炭片が少量混じっていた。遺物は平

安末期ごろの瓦器

椀3個体が出土し

た(第47図)。本

遺構の時期は平安

時代末(12世紀後

葉)と考えられる。

ピット列 F5-

15-B13-h9・i9・

j9で検出した。ピット列は東側

(ピット83~90)と西側(ピッ

ト91~95)の2列からなる(第

48・49図)。列の間隔は0.8m程

度である。ピットの平面形はい

ずれも円形で、規模は径0.4m程度のも

のが多い。埋土は暗灰褐色粘質土である。

ピット列の方向はN-15°-Eであり、

条里溝と考えられる溝18に近い。本ピッ

ト列は本調査区の中では最も低地にあた

ることから、湿地帯に造られた橋の跡で

ある可能性がある。いずれのピットから

も遺物は出土しなかったが、ピットの埋

土は遺構面を覆う層と同じであり、本層

は中世遺物包含層と推定されること、条

里の方向に合致していること、の2点か

ら本ピット列は中世の可能性が高い。

溝1 F5-15-C15-f4・g4で検出した。

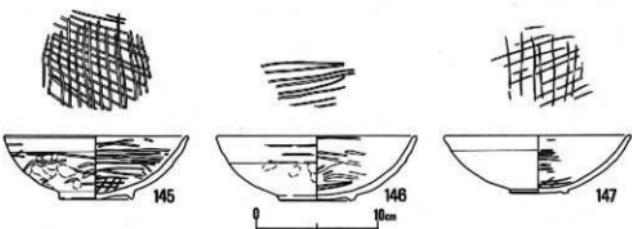
規模は検出長12.8m、幅4.5m、深さ

0.25~0.45mであり、埋土は黒色粘質土

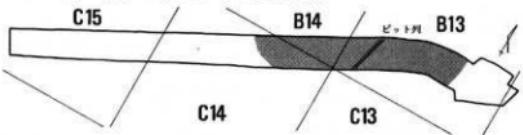
である。本遺構は溝2と並行して流れて

おり、その方向はほぼ南北方向(N-

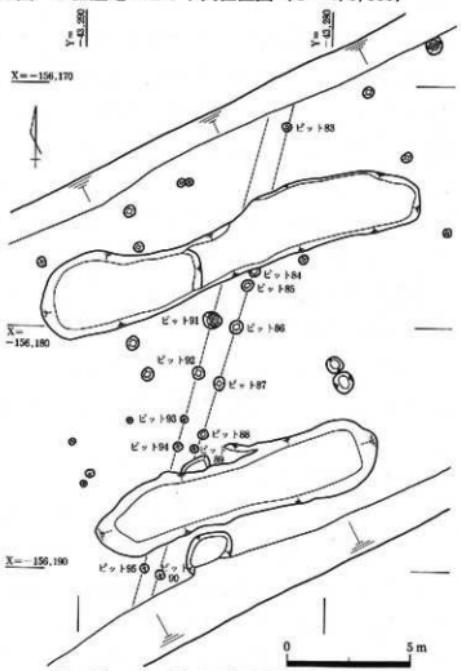
2°-W)で、F5-15-C15-e1・e2・



第47図 3区ピット2出土遺物



第48図 3区湿地・ピット列位置図 (S=1/3,000)



第49図 3区ピット列平面図 (S=1/200)

f1・f2・f3に集中する鋤溝群と一致する。遺物は瓦器椀、瓦質三足付鍋、土師器羽釜、小皿、青磁片、白磁片、丸瓦、平瓦などが多量に出土した。本遺構の時期は平安時代後期～室町時代中期（12世紀～15世紀代）であり、溝2と同時に存在したことは確実である。溝2とともに坪境の条里溝と考えられる。

溝2 F5-

15-C15-e3・

f3・g3で検出

した（第50図）。

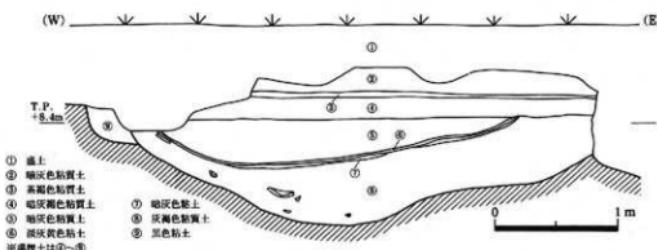
規模は検出長

17.0m、幅

3.0～4.6m、

深さ0.7～1.0

mであり、埋



第50図 3区溝2断面図 (S=1/40)

土は暗灰褐色粘質土などである。本遺構は溝1と同じく方向は南北方向（N-4° - E）で、前述の鋤溝群と一致する。遺物は瓦器椀、瓦質羽釜、すり鉢、甕、土師器羽釜、小皿、備前甕、丸瓦、平瓦などが多量に出土した（第51図）。本遺構の時期は平安時代後期～室町時代中期（12世紀～15世紀代）と考えられる。坪境の条里溝と考えられる。

溝3 F5-15-C14-d9、d10で検出した（第52図）。

検出長19.0m、幅1.0～1.6m、深さ0.6mで、

埋土は、暗灰黒色粘質土他である。F5-15-C14

-d9北西部で井戸2とつながっている。方向は

溝8と同じであり、条里に沿っている。遺物は中

世の瓦器椀、瓦質三足付鍋、土師器羽釜等が出土した（第53図）。

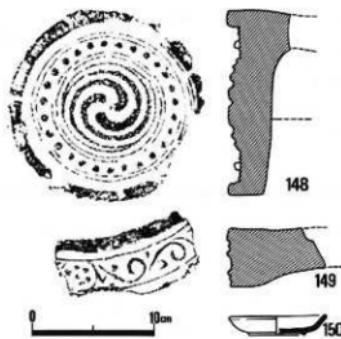
本遺構の時期は井戸2とほぼ同時期の鎌倉時代末～室

町時代前期（14世紀代）と考えられる。

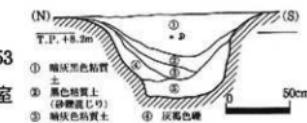
溝4 F5-15-C15-h7・h8・i7・i8で検出した。規模は検

出長15.0m、幅2～4.5m、深さ0.8mである。埋土は暗灰色粘土である。中世の瓦器椀、土師器小皿、丸瓦、平瓦等が多数出土した（第54図）。本遺構の時期は鎌倉時代末（13世紀末～14世紀初頭）と考えられる。なお本遺構は規模は大きいが方向および位置は条理に合致しない。

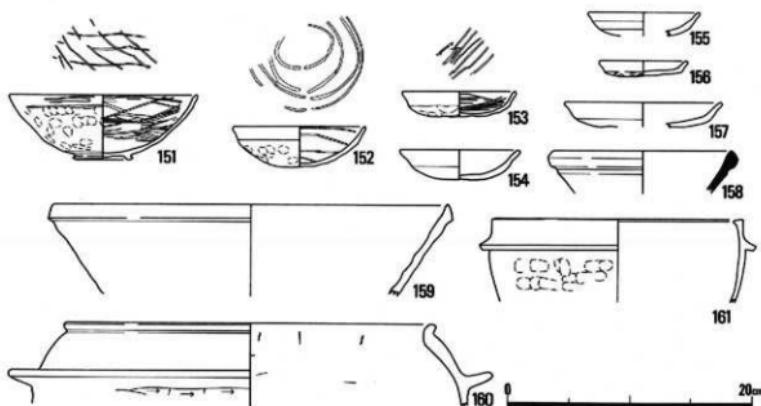
溝5 F5-15-C15-h7で検出した。規模は長さ4.5m、幅0.34～0.45m、深さ0.17mであり、



第51図 3区溝2出土遺物



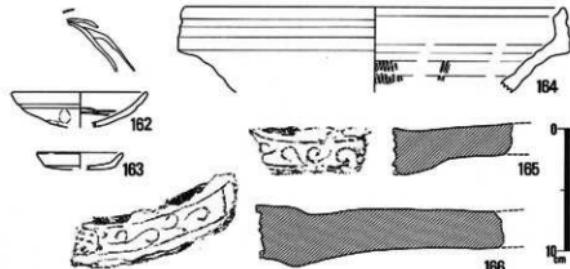
第52図 3区溝3断面図 (S=1/40)



第53図 3区溝3出土遺物

埋土は黒色粘質土である。遺物は須恵器大型部品が出土した。本遺構の時期は古墳時代中期（5世紀後半～末）と考えられる。

溝7 F5-15-C14-c7で検出した。規模は長さ9.5m、幅0.45～



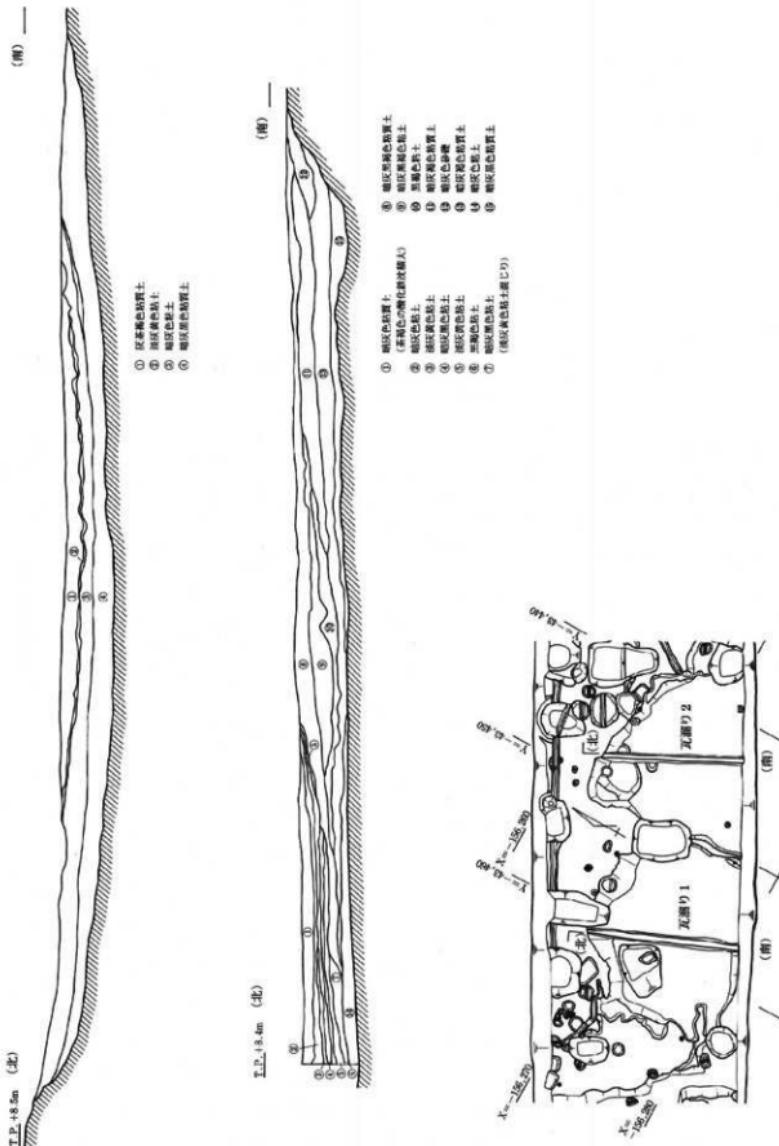
第54図 3区溝4出土遺物実測図

0.6m、深さ0.1～0.2mであり、埋土は黒褐色粘質土他である。遺物は古墳時代後期の須恵器环身等が出土した。『概要・XIII』によれば溝8とともに鎌倉時代の瓦器碗等が出土したとあるが、本遺構出土遺物の中には中世の遺物は無い。本遺構の時期は特定できない。

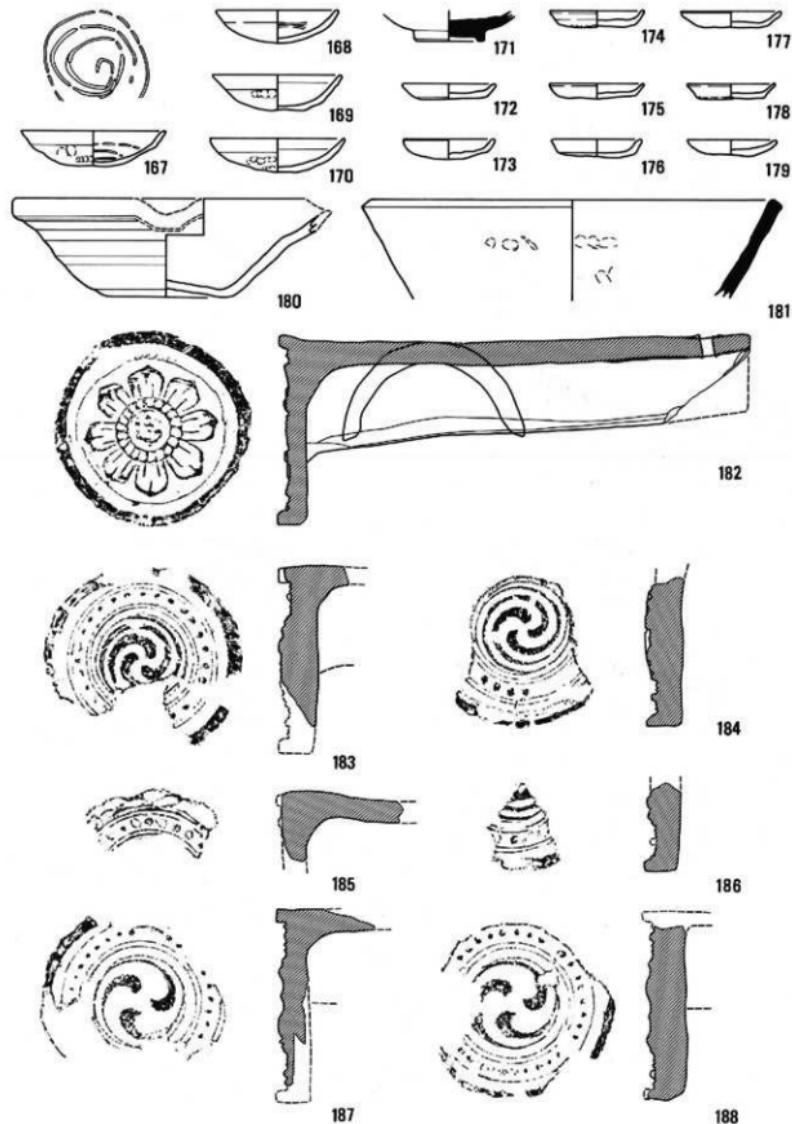
溝8 F5-15-C14-b5・b6・c5・c6で検出した。規模は検出長18.5m、幅0.55～1.0m、深さ0.15～0.3mであり、埋土は黄灰色粘土ブロック混じり茶褐色粘質土である。遺物は中世の丸瓦片の他、古墳時代後期の須恵器片が出土した。本遺構の時期は中世であると考えられる。

溝18 F5-15-B14-i1・j1・j2、F5-15-C14-a1・a2で検出した。中世包含層の上面から掘削されている。規模は検出長20m、幅3.5～6.5m、深さ1.1mであり、埋土は灰色砂礫他である。搅乱が著しいが、方向はほぼ南北方向（N-13°-E）であり、規模の点でも、位置的に坪境である可能性が高い。本遺構の時期は溝1、2と同じく、12～15世紀代と考えられる。

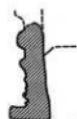
瓦溜り1 F5-15-C15-g6・g7・h6・h7・i6・i7で検出した（第55図）。規模は東西16m、南北13m、深さ0.6mであり、ほぼ調査区内で全形を検出したと推定している。平面形は不整な円



第55図 3区瓦溜り1・2平面図 ($S=1/400$)・断面図 ($S=1/60$)



第56図 3区瓦溜り1出土遺物(1)



189



190



191



192



193



194



195



196



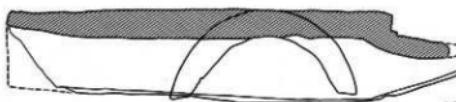
197



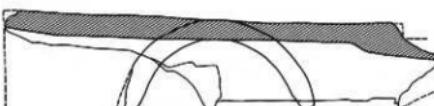
198



199



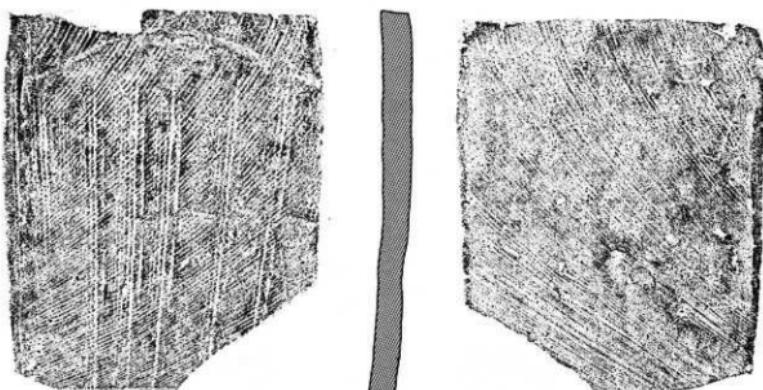
200



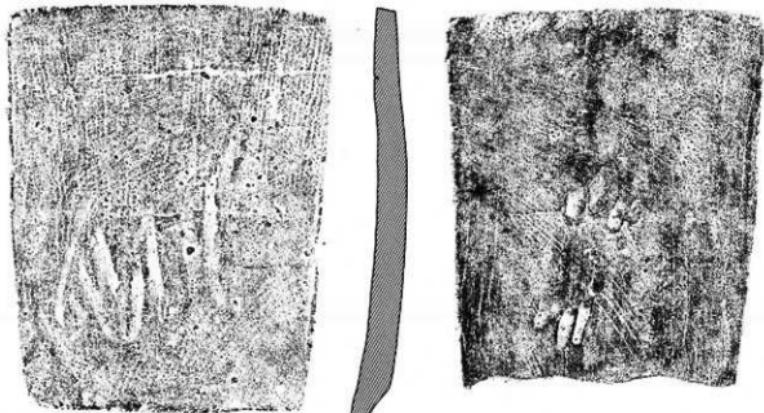
201

10cm

第57図 3区瓦溜り1出土遺物 (2)



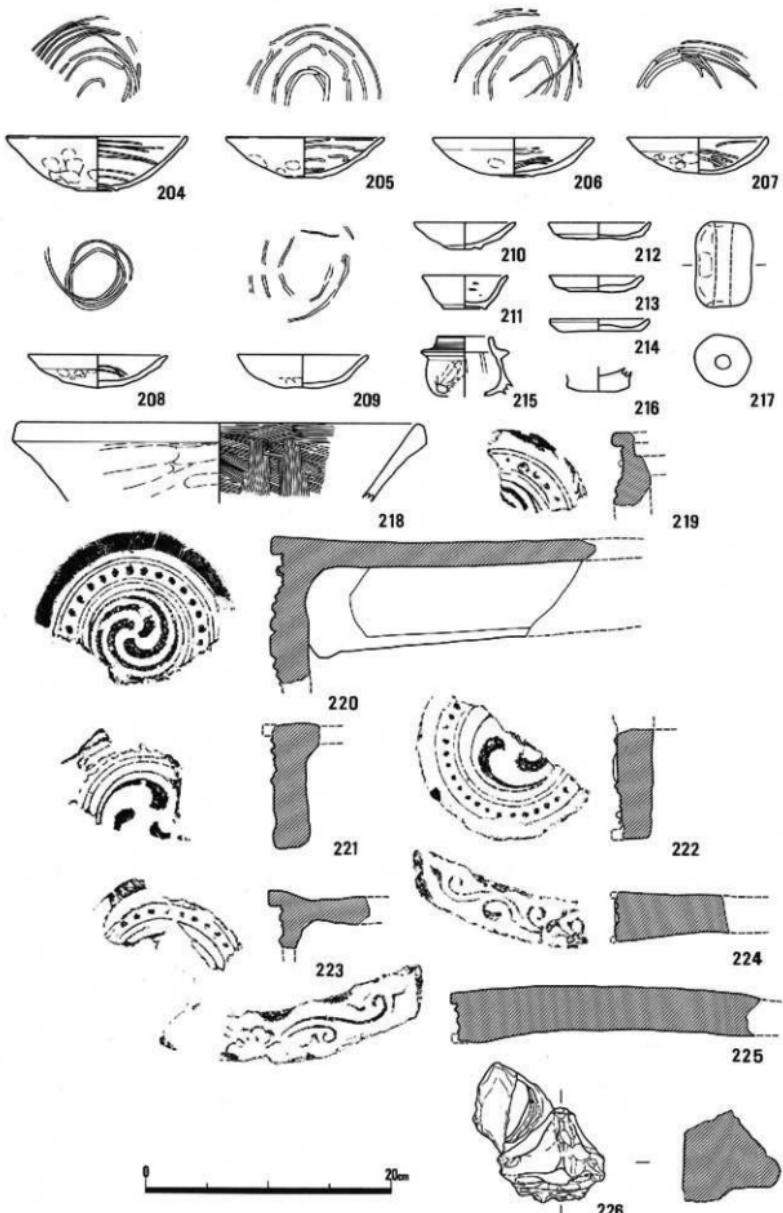
202



203

0 10cm

第58図 3区瓦溜り1出土遺物（3）



第59図 3区瓦溜り2出土遺物

形に近い。埋土は暗灰黒色粘質土他である。遺物は中世の瓦、瓦器碗、土師器小皿などが大量に出土した（第56～58図）他、五輪塔も出土した。特に瓦の出土量はコンテナ70箱に上った。遺物の出土状況を見ると、特に中央北寄りの部分で最も集中的に投棄されている。しかし子細に見ると瓦は瓦溜まり1の底面から約0.3m浮いた状態で検出されており、暗灰黒色粘質土が堆積した段階で集中的に投棄されたものと考えられた。本遺構の埋土下層から出土した瓦器碗は、いずれも口径が10～12cm前後、高台が消滅し、内面の暗文が螺旋状に巻くか、もしくはほとんど認められなくなる段階のものであり、これらの遺物が本遺構の時期を示していると考えられる。本遺構の時期は鎌倉時代末～室町時代初頭（14世紀中葉）であると考えられる。

瓦溜り2 F5-15-C15-g4・g5・g6・h4・h5で検出した（第55図）。南半部は調査区外にのびており、平面形および規模は不明であるが、検出した範囲では東西15m、南北13m以上、深さ0.7mであり、埋土は暗灰黒色粘質土他である。遺物は中世の瓦、瓦器碗、土師器小皿などが大量に出土した（第59図）。特に瓦の出土量はコンテナ70箱に上る。遺物の出土状況を見ると、特に中央南寄りの部分で最も集中的に投棄されている。また瓦溜り1同様、底面から約0.2～0.3m浮いた状態で検出されており、暗灰黒色粘質土が堆積した段階で集中的に投棄されたものと考えられた。本遺構の時期は瓦溜り1と同じく、鎌倉時代末～室町時代初頭（14世紀中葉）であると考えられる。なお、遺物に混じって窯壁片が出土しており、周辺に瓦窯の存在も推定される。

轍 F5-15-B13-f2・f3・g3で検出した

（第60図）。検出長は約20m、南から北東へ緩やかなカーブを描いている。轍の幅は1.45mであり、車輪の幅は0.12m、地面上に残された深さは0.09mであった。北端部F5-15-B13-e2では同じ幅の轍が0.3m西側にずれて検出されており、複数回もしくは複数台通過したことを示している。この轍の時期は明確にこれを示す根拠はないものの、古墳時代と推定される土坑90埋土上面に痕跡が残されていたことから、これ以降であることは間違いない。本調査区で多くの遺構・遺物を検出している中世の可能性が高いと考えられる。

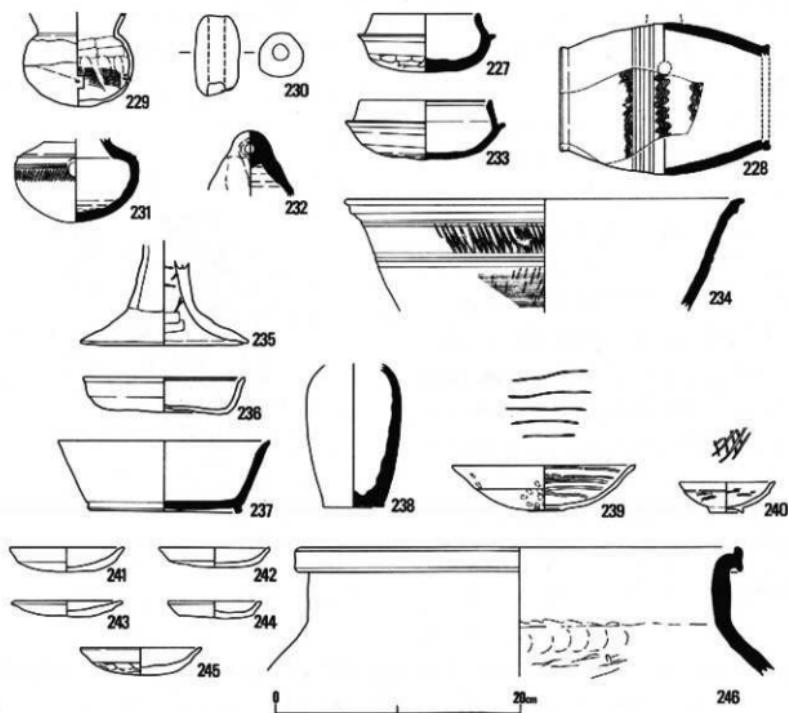
鋤溝群 F5-15-C15-e1・f1・f2で検出した。幅0.3～0.7m、深さ0.1～0.2m程度の溝が東西方向、もしくは南北方向に並んでいる。埋土は暗灰褐色粘質土のものが多い。これらの鋤溝からは中世の土師器片等が出土しており、鋤溝の方向も条里の方向と一致していることから、時期は中世であると考えられる。これらの鋤溝群の周辺には土坑、ピットが多く検出された。こ



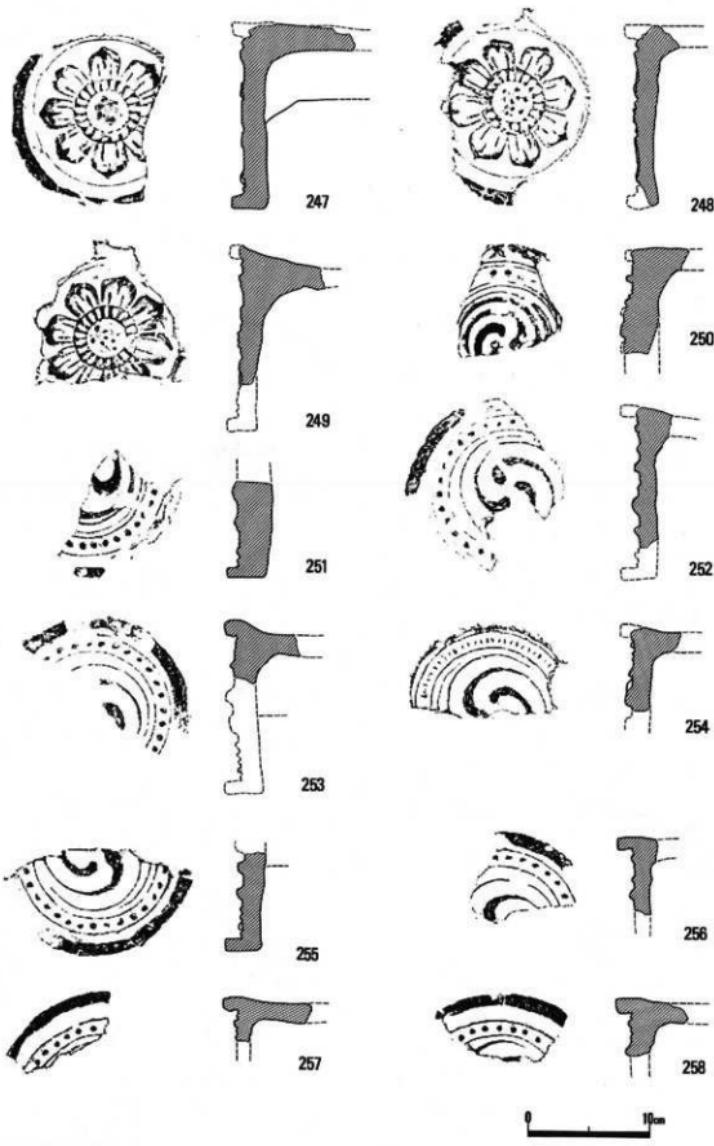
第60図 3区轍位置図 ($S=1/400$)

のうち土坑については古墳時代後期のものと中世のものが混在しているが、ピットについては大半が中世のものであると考えられる。土坑、ピットと鋤溝群は南北に分かれて分布しており、地山面のレベルは土坑、ピット周辺が高く、鋤溝群付近は低くなっている。これらの遺構が同時に存在したとすれば、土坑、ピットの周辺には居住域が、鋤溝群以南には耕作域が広がっていたものと想像される。なお鋤溝群の東西への広がりは明らかではない。

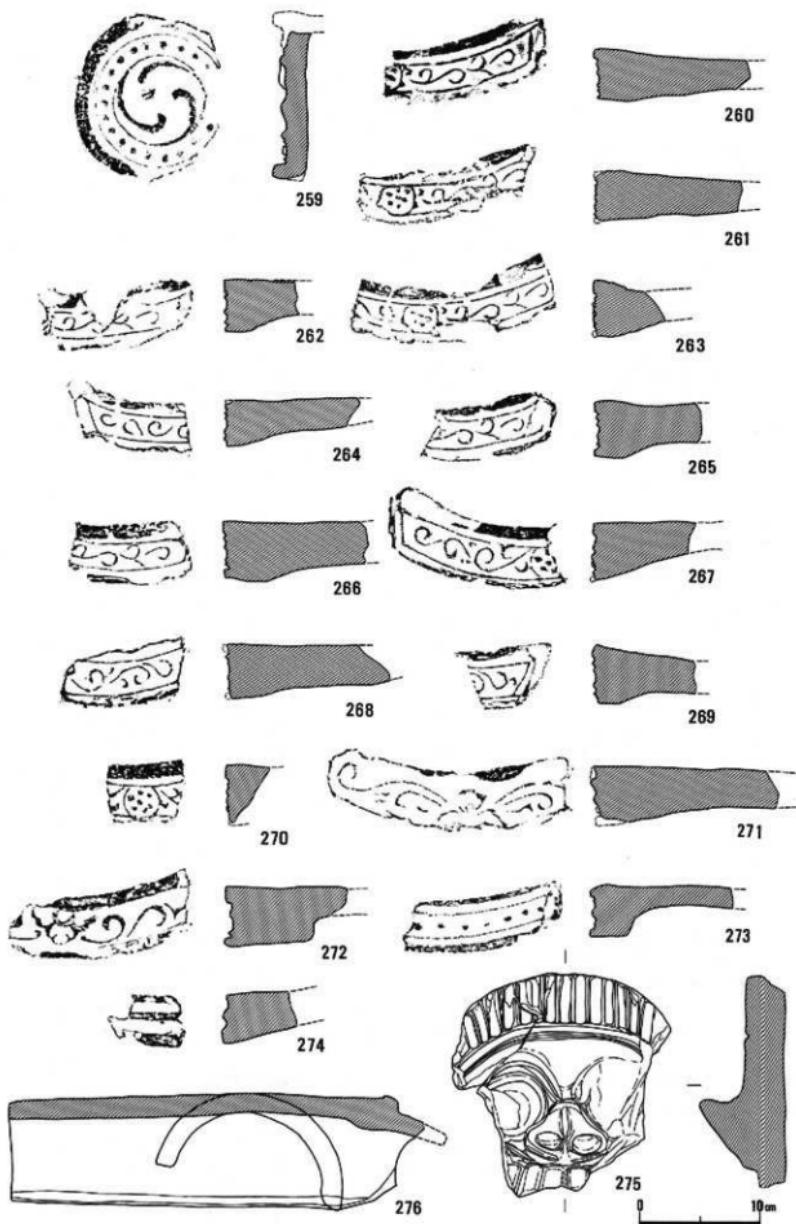
包含層出土遺物 第3章第1節で述べたように、本調査区の包含層は中世包含層である床下包含層（暗灰褐色粘質土）と弥生時代から奈良時代までの遺物を包含する下層包含層（暗灰色粘土）の2層からなっている。次に図示する遺物（第61～64図）はいずれも下層包含層出土として取り上げられたものだが、弥生時代から奈良時代の遺物が少なく、逆に奈良時代以降の遺物が大半を占めているのは問題がある。調査記録から見る限りは、下層包含層の遺存状況は必ずしも悪いとは思えないが、本調査区には瓦溜り1・2や条里溝と考えられる溝1・2・18など規模の大きい中世の遺構がある。中世耕作土も本調査区では完全に削平されていたが、鋤溝は地山面上にまで達していた。遺物の多くがこうした遺構の集中する調査区西半部で出土していることを考えあわ



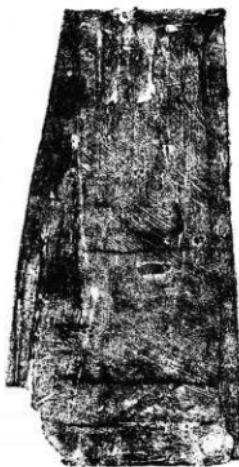
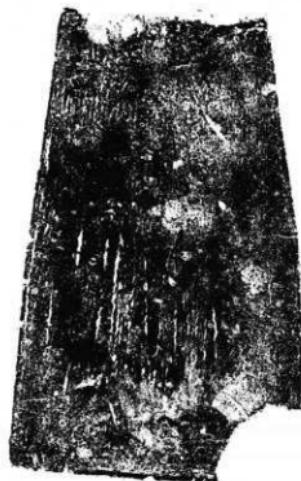
第61図 3区包含層出土遺物（1）



第62図 3区包含層出土遺物（2）



第63図 3区包含層出土遺物（3）



277



278

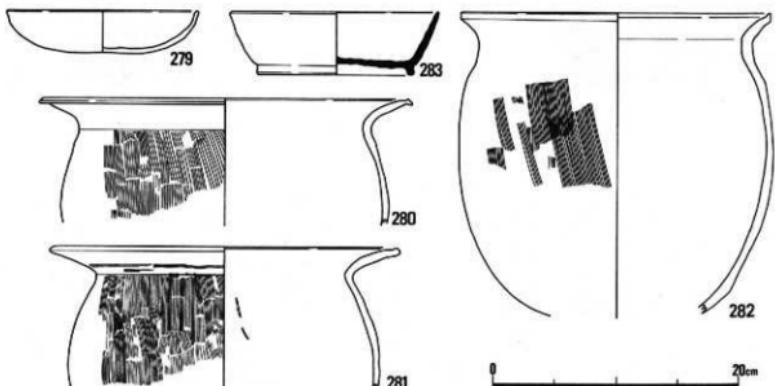


第64図 3区包含層出土遺物 (4)

せると、中世の遺構や耕作等によって下層包含層は相当擾乱されていたものと推測されるのである。しかし今となっては下層包含層の遺存状況についての詳細が不明である以上、これらの遺物をその時期によって単純に区別する事はできないので、ここでは単に包含層出土遺物として一括して報告することとした。

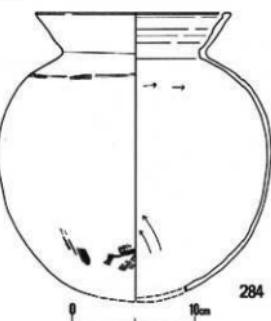
出土遺物は古墳時代後期（229～235）と奈良時代～平安時代（236～238）、中世（239～278）のものが多い。しかし樽形甌など古墳時代中期に遡るものも含まれている（227、228）。また瓦も多数出土した。これらの瓦は瓦溜り1・2で出土した瓦と全く同じ内容である。

段下土器群 挖立柱建物の東方は遺構面のレベルが大きく下がっていき、ピット列を検出した湿地帯へと向かう（第3図3区土層柱状断面模式図のNo.4～No.5）。この傾斜面から奈良時代の土器群を検出した（第65図）。調査時にはこの土器群を段下土器群として取り上げているため、ここでもそう呼称する。正確な出土地点は不明だが、調査時の記録を対照したところF5-15-C14-a4付近と考えられた。



第65図 3区段下土器群出土遺物

地山面上 F5-15-C15-g6において、地山面上から布留式甌が単独で出土した（第66図）。南側に口を向けた状態で検出され、土圧でつぶれていたが完形に復元することができた。しかし当該期の遺構は全く検出されなかった。



第66図 3区地山直上出土遺物

第4章 出土瓦の基礎整理

今回の調査では1区と3区から大量の瓦が出土したことが注目される。特に3区では瓦溜り2基を検出し、包含層出土分も含めた瓦の総量はコンテナでおよそ300箱にものぼる。この調査結果を受けて『概要・XIII』では1区付近では字名が「堂の西」「薬師堂」であることから「薬師堂廃寺」の存在が、3区付近では字名が「觀音堂」であることから「觀音堂廃寺」の存在がそれぞれ推定されるとした。今回の考察は軒丸瓦・軒平瓦を中心に出土瓦の編年を行い、存在の確認されつつある寺院の具体像を少しでも明らかにすることを目的とする。

第1節 出土瓦の分類

(1) 軒丸瓦

軒丸瓦は瓦当文様から蓮華文（A型式）、梵字文（B型式）、巴文（C型式）の3型式に大きく分類することができる。またC型式は6類に細分した。

A型式（182、247～249）

50点出土した。瓦当の直径は15.5cm前後である。蓮華文は複弁八葉である。蓮弁の単位は分離していない上、蓮弁の先端が尖っているため一見単弁に見えるが、蓮弁の反転が表現されており、それに子葉が置かれている。蓮華文の周囲には圓線が1条巡っている。また中房には蓮子が10個（1+3+6）あり、周囲には雄蕊蒂が巡る。雄蕊蒂を含めた中房の直径は約5.5cmである。また1点のみほぼ完形で出土した182から本型式は行基式の軒丸瓦であることが判明した。全長は37.6cmである。丸瓦部に釘穴が空けられている。調整は丸瓦部は内面は布目痕が残る。外面は瓦当部から丸瓦部中位までは縦方向のヘラナデを施し、中位から後ろは横方向にナデを施しているが、消し残った繩目タタキが部分的に観察される。瓦当裏面は粗いナデを施すものが多い。胎土には1mm程度の砂粒が少量認められる。焼成はおむね良好である。

B型式（190、191）

5点出土した。瓦当の直径は15.3cmである。内区は内側の圓線から8mm内に入ったところで周囲より1.5mm下がっており、この部分に「キリーグ」が書かれている。外区は圓線が内外1本ずつ巡り、間に34個の珠文が配されている。珠文は直径6～7mm、高さは3.5mmである。調整は外面は瓦当から丸瓦部にかけて縦方向にヘラナデを施す。内面は瓦当裏面を丁寧にナデしている。胎土には3～5mm前後の礫が少量認められる。焼成は良好である。

C型式

C型式は61点出土した。『概要・XIII』では瓦当の外区を区切る圓線の本数を基準に本型式を4種類に細分している（巴文軒丸瓦I～IV類）。今回も圓線の本数を細分の基本にしたが、瓦当の文様や構成要素の異同、および各部位の計測値をとることによって改めて細分作業を行った。ここに示した細分案は結果的に『概要・XIII』における分類と大きく変わるものはないものの、外

区の幅の違いによって巴文軒丸瓦III類とされた1群を2つに細分した上、『概要・III』では取り上げられなかった1種を加えて6種としている。

C1型式 (122、148、183~186、219、220、250)

23点出土した。『概要・III』では巴文軒丸瓦I類としている。瓦当の直径は15.2cm前後である。内区が大きく盛り上がっており、そこに配された巴文の高さは外縁部とほぼ同じ高さである。巴文は左巻きの三つ巴である。巴文は頭部が細く、尾が非常に長い。巴文の断面は台形に近い。外区は圓線が内2本、外2本が巡り、その間に27個の珠文が配されている。珠文は直径7mm、高さは5mmと高く、形状は円柱形に近い。調整は外面は瓦当から丸瓦部にかけて縦方向にヘラナデを施す。内面は瓦当裏面を丁寧にナデしている。丸瓦部の内面は布目痕が残る。胎土には2~3mmの砂礫が認められる。焼成は良好なものが多い。

C2型式 (187、188、221、222、251)

13点出土した。『概要・III』では巴文軒丸瓦II類としている。瓦当の直径は15.2cm前後(推定)である。C1型式ほどではないが内区が盛り上がっている。巴文は左巻きの三つ巴である。巴文の頭部は大きく、起点が尖っている上、それぞれの頭部がやや離れて配置されている。尾の巻きは緩く、それぞれの尾の末端は他の尾と接している。外区は圓線が内2本、外1本が巡り、その間に35個(推定)の珠文が配されている。珠文は直径7mm、高さは3~4mmとC1型式に比べて低い。調整は外面は瓦当から丸瓦部にかけて縦方向にヘラナデを施す。内面は瓦当裏面を丁寧にナデしている。丸瓦部の内面は布目痕が残る。胎土には1~2mmの白色砂粒が多く含まれている。焼成は良好なものが多い。

C3型式(実測図なし)

2点出土した。『概要・III』では次に述べるC4型式と一括して巴文軒丸瓦III類としている。いずれも小片であるために不明な点が多い。瓦当の直径は15cm(推定)である。内区はC1型式・C2型式と異なって平坦である。巴文は右巻きであり、三つ巴であると考えられる。巴文の頭部はC2型式に比較して細く、断面は台形に近い。外区の幅が約1.8cmと広い点がC4型式と異なる点である。珠文は直径7~8mm、高さは2~2.5mmと低く半球形に近い。また個数は26~27個と推測される。調整は外面は瓦当から丸瓦部にかけて縦方向にヘラナデを施す。内面は瓦当裏面をナデしている。丸瓦部の内面の調整は不明である。胎土は1~2mmの砂粒が含まれている。焼成は良好である。

C4型式 (189、223、252~258)

21点出土した。『概要・III』ではC3型式と一括して巴文軒丸瓦III類としている。瓦当の直径は15cm前後である。内区は平坦であり、巴文は右巻きの三つ巴である。巴文の頭部は小さいが、頭部から尾が巻始める境の部分の屈曲が強い。外区は圓線が内外1本ずつが巡り、その間に31個(推定)の珠文が配されている。珠文は直径6~7mm、高さは2.5mmと低く、半球形に近い。外区の幅は約1.5cmである。調整は外面は瓦当から丸瓦部にかけて縦方向にナデを施す。内面は瓦

当の裏面にはナデを施す。丸瓦部と瓦当部との接合部付近は強くナデを施すため凹んでいるものが多い。丸瓦部の内面は布目痕が残る。胎土には1~2mmの砂粒が多く含まれている。焼成は良好なものとやや不良で脆いものがある。

C5型式（259）

1点のみ出土した。『概要・XIII』では巴文軒丸瓦IV類としている。瓦当の直径は14cmである。内区は平坦であり、巴文は右巻きの三つ巴である。巴文の頭部は小さいが、頭部から尾が巻始める境の部分の屈曲が強く勾玉状を呈しており、頭部が尾部とはっきりと区別される。外区は圈線が外1本のみ巡るが、巴文のそれぞれの尾の末端は他の尾と接して内側の圈線の代わりを果たしている。圈線と巴文の間に22個の珠文が配されている。珠文は直径8mm、高さは2mmの半球形であり、珠文の間隔が広い。瓦当の裏面にはナデを施し、丸瓦部との接続部分では丸瓦部の丸みに沿ってナデを施している。胎土は粗く、1~3mmの砂礫が目立つ。焼成はやや不良で脆い。

C6型式（実測図なし）

1点のみ出土した。『概要・XIII』では取りあげられていない。瓦当の直径は13cm（推定）である。小片のために詳細は不明だが、巴文は左巻きである。本型式には外区を画する圈線ではなく、珠文が巡るだけである。珠文の個数は15個（推定）で、直径1.1cm、高さ3.5mmと大きい。外縁部は幅2.1cmと広いが、高さ4mmと扁平である。胎土には1mm程度の砂粒が含まれている。焼成は良好である。

（2）軒平瓦

軒平瓦は瓦当文様から重弧文（A型式）、唐草文（B型式）、連珠文（C型式）、水波文（D型式）の4型式に大きく分類することができる。またB型式は瓦当面の文様構成の違いから7類に細分した。この細分案は『概要・XIII』の分類（唐草文軒平瓦I~VII類）を踏襲している。

A型式（274）

3区包含層から1点のみ出土した。三重弧文の軒平瓦である。中央の弧文には上下の弧線を引いた際の粘土の盛り上がりがわずかに認められる。割口に平瓦部と頸部の接合痕が確認できる。全体に摩滅が著しく、調整は不明である。瓦当面の高さは4cmである。胎土には1mm程度の砂粒が含まれている。焼成はやや軟質である。

B1型式（165、166、192、193、260~266）

17点出土した。『概要・XIII』では唐草文軒平瓦のI類としたものである。圈線で囲まれた内区に中心飾りと唐草文を配する。中心飾りは円形で、内部の浮文は7つ（1+6）である。唐草文は左右で異なっており、瓦当面に向かって右側は4回反転するが、左側は5回反転している。頸は曲線頸であるが、直線頸に近いものも含まれている。調整は頸凸面に横方向にケズリを施し、頸裏面から平瓦部には縦方向にヘラナデを施すものが多い。また凸面の側縁には幅2cmほどの面取りをしている。瓦の凹面は未調整であり、布目痕が残る。また粘土塊から粘土板を切り離す際のコピキ痕が認められる。いずれも破片であるため法量は不明だが、瓦当の高さは4.2cm、上弦

幅は復元値で23.5cmである。胎土には1mm程度の砂粒がわずかに含まれている。焼成はおおむね良好である。

B2型式 (123、149、194、195、267~270)

8点出土した。『概要・III』では唐草文軒平瓦のII類としたものである。圓線で囲まれた内区に中心飾りと唐草文を配する。中心飾りは円形で、内部の浮文は7つ(1+6)である。唐草文は3回反転している。調整は頸凸面を横方向にケズリを施し、頸裏面から平瓦部は縦方向にヘラナデを施すものが多い。また凸面の側縁には幅1.5cmほどの面取りをしているものがある。凹面には布目痕が残り、コビキ痕も認められる。いずれも破片であるため法量は不明だが、瓦当の高さは4.6cm前後、上弦幅は復元値で25cmである。胎土には1~2mm程度の砂粒がわずかに含まれている。焼成は1点を除いて良好である。

B3型式 (224)

10点出土した。『概要・III』では唐草文軒平瓦のIII類としたものである。中心飾りは宝相華の半截花文を中心飾りとしている。半截花文は3枚の花弁が連続しており、子葉も縦線によって表現される。頸は曲線頸だが、むしろ直線頸に近いものもある。調整は凸面については頸凸面には横方向にヘラナデを施すが、頸裏面から平瓦部は縦方向にナデを施すものや未調整のものがある。ナデを施すものも、わずかに繩目タタキの痕跡が認められるものがある。凹面には布目痕が残る。瓦当面および凹凸面に離れ砂が付着するものが多い。いずれも破片であるため法量は不明だが、瓦当の高さは4.2cm前後、上弦幅は復元値で28cmである。胎土には1mm程度の砂粒がわずかに含まれている。焼成はおおむね良好である。

B4型式 (196、197、225)

5点出土した。『概要・III』では唐草文軒平瓦のIV類としたものである。中心飾りは宝相華の半截花文を中心飾りとしている。半截花文は花弁がそれぞれ独立した丁寧な作りである。子葉は橢円形に盛り上がっている。頸はいずれも曲線頸である。調整は凸面は頸凸面に横方向にヘラナデもしくはケズリを施し、頸裏面から平瓦部にかけては縦方向にナデを施す。平瓦部には繩目タタキの痕跡が認められる。凹面は瓦当上縁部を幅2cm程度ケズリを施して面取りするが、それより後ろは布目痕が残る。凹面全面にナデを施しているものが1点あるが、瓦当部の粘土の貼り付けを凹面側に行っているため調整であると見られ、特殊な例のようである。瓦当および凹凸面に離れ砂が認められるものがある。いずれも破片であるため法量は不明だが、瓦当の高さは4.3cm前後、上弦幅は復元値で25cmである。胎土は精良であり、1~2mm程度の砂粒をわずかに含んでいる。焼成はおおむね良好である。

B5型式 (198、271)

4点出土した。『概要・III』では唐草文軒平瓦のV類としたものである。中心飾りは宝相華の半截花文を中心飾りとしている。全体的な表現はB4型式と非常によく似ている。頸は曲線頸である。調整は凸面はナデを施すが、1点のみ頸凸面と平瓦部凸面にタタキが残るものがある。凹

面は布目痕が残る。凹凸両面および瓦当面に離れ砂が認められるものがある。いずれも破片であるため法量は不明だが、瓦当の高さは4.5cm前後、上弦幅は復元値で26cmである。胎土には1~2mm程度の砂粒をわずかに含んでいる。焼成は良好であるが、1点のみ不良で軟質である。

B6型式（272）

4点出土した。『概要・XIII』では唐草文軒平瓦のVI類としたものである。中心飾りは宝相華の半截花文を中心飾りとしているが、B3・B4型式とは天地が逆になっている。頸の形態は段頸であり、頸凸面の長さが約7cmと極めて長い。頸裏面と平瓦部凸面の角度はほぼ直角であるが、隅部分は横ナデにより曲線となっている。調整は、凹面は未調整で布目痕が残っている。凸面については平瓦部と頸凸面には縄目タキが残っており、頸裏面のみナデを施す。凹凸両面に離れ砂が付着するが、1点は瓦当にも認められる。瓦当の高さは4.8cm前後、上弦幅は復元値で25.5cmである。胎土は精良であり、1mm程度の砂粒をわずかに含んでいる。焼成はいずれも須恵質であり、堅緻である。

B7型式（199）

6点出土した。『概要・XIII』では唐草文軒平瓦のVII類としたものである。圓線で囲まれた内区に中心飾りと唐草文を配する。中心飾りは宝珠文である。平瓦部はほとんど残っていない。調整は凹面は摩滅が著しいため全く分からない。凸面は頸凸面に横ナデを施し、頸裏面から平瓦部にかけて縦方向のヘラナデを施している。頸の形態は段頸であり、頸凸面の幅は約3cm、頸裏面と平瓦部との角度は直角に近い。瓦当および凹凸両面に離れ砂が認められる。瓦当の高さは5.3cm、上弦幅は復元値で25cmである。胎土はB型式の中では粗く、2~3mm程度の砂礫が目立つ。焼成は瓦質でやや脆い。

C型式（273）

9点出土した。圓線で囲まれた内区に珠文12個を配する。珠文は直径7~8mm、高さ1~2mmである。また上弦・下弦側の圓線が両脇の圓線を突き抜けて外縁に達している。頸は段頸であり、頸凸面の幅は約2.8cm、頸裏面と平瓦部との角度は鈍角となっている。調整は頸凸面に横方向にナデを施し、頸裏面から平瓦部には縦方向にナデを施す。また瓦当外縁の上弦側には幅1cmほどの面取りをしている。瓦の凹面は摩滅と離れ砂のため良く分からない。瓦当面にも離れ砂が認められるものがある。いずれも破片であるため法量は不明だが、瓦当の高さは4.3cm、上弦幅は復元値で22cmである。胎土は砂粒の目立たない精良なものと2~5mmの砂礫を多く含むものがある。焼成はおおむね良好である。

D型式（実測図なし）

1点のみ出土した。本資料は1区の自然河川から出土したものである。小片であり、平瓦部と上弦側の外縁部が欠損しているために詳細は不明であるが、水波文は連続している。中心飾りの有無は不明である。頸の形態は段頸であり、頸凸面の幅は約2cm、頸裏面と平瓦部との角度はほぼ直角と考えられる。調整は頸凸面および裏面とも横方向のナデを施す。瓦当には離れ砂が付着

している。胎土は精良で、砂粒も非常に細かい。焼成は良好である。

(3) 丸瓦

丸瓦には行基式と玉縁式がある。玉縁式のものは形態の違いから2つに細分することができる。ここでは行基式（A型式）、玉縁式（B型式）としてB型式をB1・B2に細分する。

A型式（277）

行基式の丸瓦である。広端縁の幅は17cm前後、狭端縁の幅が11.5cm前後、1点だけほぼ完形で出土した277によると全長は38.5cmである。調整は凸面は縦目タタキをナデですり消しており、凹面は布目痕が残る。またコビキの跡も残っている。凹面の広端縁には1.5~3cm、側縁には1~2cmの面取りを施している。胎土に1mm以下の砂粒を含む。焼成はやや軟質のものが多い。

B1型式（201）

玉縁式の丸瓦である。本型式はA型式同様玉縁部に向かって次第に細くなる。完形品に近い資料は1点だけであるが、広端縁の幅は17cm、狭端縁の幅が15cm、全長は37cm程度（推定）である。調整は凸面はナデを施し、凹面は布目痕が残る。また凹面の広端縁には5cm程度の面取りを行い、側縁には幅1cm程度の面取りを広端縁から玉縁の端部まで連続して行っている。胎土は1mm程度の砂粒を含むが、まれに5mmほどの礫も混じっている。焼成は須恵質で良好である。

B2型式（200、276）

玉縁式の丸瓦である。A型式・B1型式と異なり上下の径にはほとんど差がない円筒形をしており、幅は15cm前後、全長36cm程度である。凸面はナデを施し、タタキの痕跡は全く見えない。凹面は布目痕が残る。また凹面の広端縁には6~7cm程度の面取りを、側縁には幅1cm程度の面取りを先端部から玉縁部との接続部まで行い、玉縁部にはその後で改めて幅2~3cmの面取りを行っている。胎土は1~2mmの砂粒を含む。焼成は良好なものが多い。

(4) 平瓦

平瓦も大半が破片である。平瓦は主に凹凸面の調整手法によって、5型式に分類した。

A型式（実測図なし、『概要・XIII』図版38-a1）

本型式は1片のみ出土した。小片であるが凸面には格子タタキが施されている。厚さは1.8~1.9cmである。胎土には1mm程度の砂粒を多く含む。焼成は良好である。

B型式（実測図なし、『概要・XIII』図版38-a3）

本型式は1片のみ出土した。厚さは1.7~1.9cmである。調整は凸面には斜格子タタキが施されており、凹面には布目が残る。胎土には1mm以下の砂粒を含む。焼成は良好である。

C型式（実測図なし、『概要・XIII』図版38-a2）

本型式は1片のみ出土した。厚さは2.2cmである。調整は凸面には格子タタキが施されており、凹面には布目が残る。胎土には1mm以下の砂粒を多く含む。焼成は須恵質で良好である。

D型式（202、203）

本型式は完形品に近い資料によると、法量は全長33cm、広端幅26cm、狭端幅21cm、厚さは2.5

～3 cm程度である。凸面は縄目タタキ、凹面は布目痕が残る。コビキの痕跡が認められるものが多い。凹面には離れ砂と考えられる砂礫が、凸面には粗砂の他、4～5 mmの礫が付着している。胎土は精良である。焼成は良好である。

E型式 (278)

本型式は完形品に近い資料によると、法量は全長33.5cm、広端部幅25.5cm、狭端部幅21cm、厚さは2～2.3cm程度である。外面は縄目タタキ、内面は布目痕をナデ、もしくはヘラナデですり消している。凸面、もしくは凹凸両面に離れ砂と考えられる細かい砂粒が付着している。胎土は精良である。焼成は良好である。

(5) その他の瓦

雁振瓦と鬼瓦がある。雁振瓦は破片のために詳細は不明である。鬼瓦は破片が出土しているが、やはり大半が小片である。残りのもっとも良いのが272である。223も基本的にはこれと同じであり、破片の大半はこのタイプである。

第2節 出土瓦の編年

(1) 軒丸瓦

軒丸瓦の中で最も古く位置づけられるのはA型式である。A型式は行基式であり、瓦当を蓮華文で飾っている。中房の周囲には雄蕊帯がとりまいている。こうした特徴から本型式は平安時代後期（12世紀代）とすることではほぼ大過ないと考える。

これに続くのはB・C型式である。C型式については6種に細分したが、それぞれの位置づけも問題となる。『概要・XIII』では「作りの精巧なI類から簡略化されたIV類に変遷したと考えられた」としているが、十分な論証が行われたわけではなかった。そこで軒丸瓦の諸要素を比較することによってその変遷を明らかにしたい（第67図）。

a. 瓦当の直径

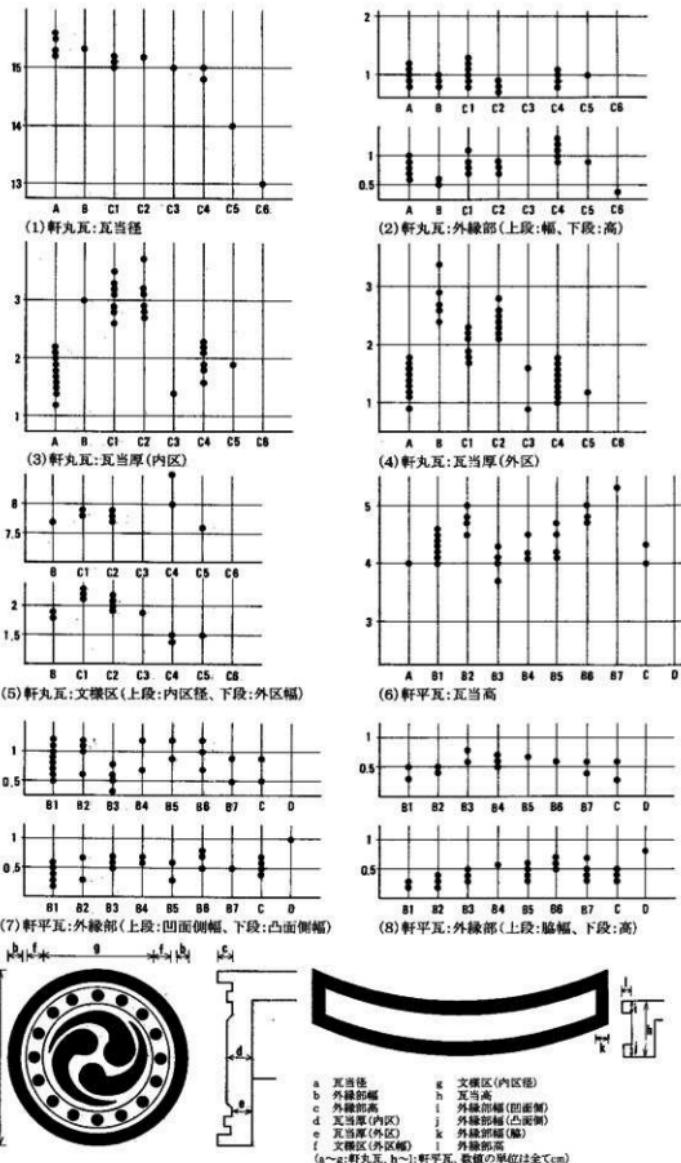
瓦当の直径は若干のばらつきはあるものの、それぞれの型式ごとに一定のまとまりが認められる。これによればA・B型式が15.5cm前後、C1・C2型式が15～15.2cm、C3・C4型式が14.8～15cmとわずかな差だが、C5・C6型式は急激に小さくなることが分かる。

b. 瓦当の厚さ

瓦当の厚さは全体にばらつきが大きいが、瓦当中心と外区文様帯の2箇所の厚さを見ると瓦当中心ではB・C1・C2型式が厚く、いずれも3cm前後なのに対し、C3・C4・C5型式では2cm前後である。これはC1・C2型式の内区が盛り上がっているためだけではなく、外区文様帯の位置でもC2型式は2.5cm前後、C1型式はやや薄く2cm前後、C3・C4・C5型式は1.5cm前後であり、C1・C2型式に対しC3・C4・C5型式は薄いと判断される。A型式はC4型式とほぼ同じである。

c. 外縁部の幅と高さ

外縁部はA・B・C型式いずれも直立素文である。幅と高さについては特にC6型式が幅が広



第67図 軒瓦各部位計測グラフ

く、高さが低い。しかし、その他はB型式が6～7mmと低いのが目立つ程度で、C1～C5型式の間には大きな違いはない。

d. 文様区の大きさ

文様区は当然のことながら、瓦当の大きさに規制される。しかし外区に圓線が巡るだけのA型式を除くと、内区径は各型式ともほとんど変わらない。異なっているのは外区の幅なのである。圓線の数が内側・外側2本ずつのC1型式が幅2.2cm前後と最も広い。また外側1本、内側2本のC2類もほとんど変わらない。内側の2本の圓線の間隔がC1型式に比べて広いのと、珠文が内側の圓線寄りに配置されており、外側の圓線との間に空間があるためである。B型式とC3型式は内側・外側1本づつであるが、これは幅1.8cm前後とC2型式に比べて狭い。以下圓線を持たないC6型式まで次第に小さくなる。したがって幅の広い順に並べるとC1型式→C2型式→B型式・C3型式→C4型式・C5型式→C6型式となる。

E. 珠文

珠文の数には法則性はない。C1型式は27個、C2型式は35個（推定）、C3型式は27個（推定）、C4型式は31個（推定）、C5型式は22個、C6型式は15個（推定）である。しかし珠文の形態は異なっており、C1型式では直径が7mm、高さ5mmと直径が小さく、高い。円柱形に近い形態である。C2型式では直径はC1型式と同じだが、背が低く、先端部の丸みが強い。C3・C4・C5型式ではほとんど半球形である。C6型式では直径1.1cmと大きい。珠文の変化は、直径は小さく、背が高いものから、直径が大きくなり、高さは低くなる方向であり、形態としては円柱形から半球形へと推移していくと見られる。

F. 巴文

巴文の形状はC1型式が頭部が細く、尾が長く巻き込みが強い。断面形は台形に近い。C2～C5型式は頭部が大きく、屈曲が大きくなり、尾が短く巻きこみが弱くなる方向へ移行すると見られる。C1～C3型式では左巻きなのに対しC4・C5型式は右巻きになるが、この向きは重要な問題とは考えられなかった。

以上の諸要素の検討から、C型式については、C1型式からC6型式への移行を明確に読みとることができる。年代についておおまかにしか言えないが、C1型式は内区が盛り上がり、巴文も細く長いことなど巴文軒丸瓦の中では最古式に位置づけられる。ここでは平安時代後期（12世紀代）に比定しておきたい。C2型式もC1型式より後出するものの平安時代末（12世紀後葉）に、C3型式は鎌倉時代前期（13世紀前半）と考えられる。B型式は瓦当の直径や珠文の数、形態などC2・C3型式との共通項が多い事から、平安時代末～鎌倉時代前期（12世紀末～13世紀前半）と考えられる。C4型式はこれにつづく鎌倉時代後期（13世紀後半）と考えておきたい。C5型式は下層包含層から出土しているが、瓦溜まり1・2の埋没時期が14世紀前葉と考えられ、下層包含層の最も新しい遺物がやはり同時期であることを考えると鎌倉時代末期～室町時代初頭（14世紀前半）に収まるものと考えられる。C6型式は江戸時代まで下がると考えられる。

(2) 軒平瓦

まず今回の調査で最も古い瓦として位置づけられるのが、軒平瓦A型式である。軒平瓦A型式は四天王寺に同范があり、白鳳時代（7世紀後半）と考えられる。

B型式は7種に細分したが、その文様構成は大きく3つに分けることができる。まず第1はB1・B2型式である。これは中心飾りが円形であり、その左右に細く1単位が短い唐草文が4～5回反転して配されるグループである。第2はB3・B4・B5・B6形式であり、中心飾りが宝相華の半截花文であり、その左右に唐草文が配されるもので、唐草文は太く長い。第3はB7型式である。これは中心飾りが宝珠文であり、左右に退化した唐草文が配されるものである。

第1のB1・B2型式は文様の構成が良く似ている。B1型式は唐草文が細く短い上、左右の単位数が異なるのに対し、B2型式は中心飾りと唐草文はやや丁寧な印象を受けるが、唐草文の反転が3回と少ない。両型式とも平安時代後期（12世紀代）と考えられる。第2のB3・B4・B5・B6形式は中心飾りの宝相華の半截花文にそれぞれ特徴がある。3枚の花弁が独立して、それぞれの子葉が珠文様のふくらみで表現されているB4・B5型式に対し、花弁が独立せず、子葉も花弁と同様に輪郭を隆線で表現するB3型式、B3・B4・B5形式とは上下が逆になり、花弁が独立せず、子葉も表現されないB6型式がある。この半截花文はB4・B5型式からB3型式を経てB6型式へと移行すると考えられるが、B6型式は頸の形態が頸凸面が幅広の段頸であり、文様もシャープで焼成も須恵質であるなど、他と異なっていて、はっきりわからない。年代的には平安時代後期から鎌倉時代前期（12世紀後半～13世紀前葉）としておくにとどめたい。第3のB7型式は宝珠文を中心飾りとする。段頸の頸裏面と平瓦部の角度は直角に近く、唐草文はかなり退化している。これらの特徴から時期は鎌倉時代末期～室町時代初頭（14世紀前半）と考えられる。

C型式は外縁部両脇の肥厚が認められず、圏線が珠文帯の周囲を完全に巡ることなどの特徴から、鎌倉時代前期（13世紀代）と考えられる。

D型式は小片であるために詳細は不明であるが、水波文の成立が中世後期まで下がると考えられること、頸の形態は段頸であり、頸裏面と平瓦部との角度はほぼ直角と考えられること、外縁部の肥厚が認められず、高さも8mmと高いことから、ここでは室町時代中期（15世紀代）に位置づけておきたい。

(3) 丸瓦・平瓦

丸瓦A型式は行基式であることから、平安時代後期（12世紀代）と考えられる。B型式はB1・B2型式とともに鎌倉時代（12世紀末～14世紀前葉）と考えられる。平瓦はA型式・B型式が白鳳時代（7世紀後半）と考えられる。C型式ははっきり分からぬが中世であり、D・E型式より後出すると考えられる。D・E型式は平安時代後期から鎌倉時代（12世紀～13世紀代）が中心かと考えられる。

(4) 他の瓦

鬼瓦は鎌倉時代前半（13世紀代）と考えられるが、平安時代後期（12世紀代）に遡るかもしれない

ない。雁振瓦は不明であるが、鎌倉時代末（14世紀前半）より下ることはないと考える。

小結

以上で今回の調査で出土した瓦類については、軒丸瓦・軒平瓦については全て、丸瓦・平瓦については残りの良いものについては網羅したことになる。白鳳時代に遡る瓦片が若干出土しているが、これを除けば蓮華文を飾る軒丸瓦A型式と巴文を飾るC1型式が12世紀代に比定され、最も古いと考えられる。このうち今回の調査で最も多く出土したのはA型式であって、「観音堂廃寺」の創建瓦である可能性が高いが、C1型式もA型式と並行するか、あるいはより古い可能性も否定できない。ここでは手がかりも少ないことから両型式の前後には立ち入らず、かねてよりその存在を指摘されてきた「観音堂廃寺」の創建が12世紀代であることが判明したことが大きな成果であるとしておきたい。なお平安時代末に比定されるC2型式も含めて、創建期のA・C1型式に組み合さる軒平瓦は唐草文を飾るB型式の中でもB1・B2型式かと考えられる。また丸瓦A型式は行基式であることから、軒丸瓦A型式に組み合さるものと考えられる。なお最も新しく位置づけられるのは軒丸瓦ではC6型式、軒平瓦がD型式であるが、これらはそれぞれ3区の床土下包含層と1区の自然河川から出土したものである。これを除けば軒丸瓦C5型式と軒平瓦B7型式が最も新しく、「観音堂廃寺」は遅くとも14世紀前半には廃絶したものと考えられる。次に「観音堂廃寺」の位置であるが、瓦が出土した遺構は3区瓦溜り1・2の周囲に集中しており、その東限は坪境の溝と考えられる溝18である。また平成8～9年度に(財)大阪府文化財調査研究センターが実施した大和川今池遺跡の調査区は、3区の北側に隣接しているが、鎌倉時代後半（13世紀後半）に建てられた有力者の居館跡が見つかり、その南限を区切る溝から大量の瓦が出土した。これにより寺の所在した可能性のある範囲の北限も決定したと考える。「観音堂廃寺」は3区の東部から南部に隣接する位置に存在した可能性が高いと考えられる。

なお『概要・XIII』で1区東側に推定したもう一つの寺院「薬師堂廃寺」については瓦が出土した遺構が自然河川とため池内であったこともあり、具体的には不明である。瓦の出土量は3区に比べれば少ないが、それでもまとまった量が出土している（『概要・XIII』図版23-d・e参照）。大半は丸瓦、平瓦の破片であるが、この中には『概要・XIII』で報告している様に、出土軒平瓦B6型式とD型式がある（『概要・XIII』第5図参照）。これが直接「薬師堂廃寺」の創建・廃絶の年代を示していると仮定すると、先に述べた瓦の年代観から鎌倉時代から室町時代中期（12世紀末～15世紀代）にかけて営まれたものと考えられる。現状では全く証拠は少ないが、「薬師堂廃寺」は「観音堂廃寺」よりも創建はやや遅く鎌倉時代に創建され、室町時代中期まで、「観音堂廃寺」よりも長く法灯を保ったものと推測されるのである。

おわりに

以上で平成7年度調査の主要な遺構、遺物についての報告を終える。はじめに触れたように当遺跡の調査は昭和53年度の大和川今池遺跡調査会の調査を皮切りに、20年近く調査が行われております、本府教育委員会が刊行した発掘調査概要だけでも14冊が刊行されている。その内容は多岐にわたり、現在となっては本遺跡全体を見渡すのが非常に困難であるのが実状である。既往の調査で蓄積された膨大な資料を整理することが、緊急の課題であると言える。本書はそうした総括の前提として、個別の調査の結果を整理して資料化を進め、事実報告を完了するという点で、最低限の責務は果たし得たと考えている。

付 表

No.	器種	地区・層位・遺構	図版番号	No.	器種	地区・層位・遺構	図版番号
1	黒色土器碗	1区井戸1	図版21-a1	72	瓦器碗	3区井戸2	
2	土師器碗	1区井戸1	図版21-a2	73	瓦器碗	3区井戸2	
3	土師器盤	1区井戸1	図版21-b	74	瓦器碗	3区井戸2	
4	黒色土器碗	1区井戸2	図版21-a3	75	瓦器碗	3区井戸2	
5	土師器碗	1区井戸2	図版21-a4	76	瓦器小皿	3区井戸2	
6	須恵器盤	1区井戸2	図版21-c	77	上師器小皿	3区井戸2	
7	蓋形埴輪	1区井戸5	図版21-d	78	上師器小皿	3区井戸2	
8	土師器碗	1区井戸5	図版25-a2	79	土師器小皿	3区井戸2	
9	土師器皿	1区井戸5	図版25-a1	80	土師器小皿	3区井戸2	
10	土師器盤	1区井戸5	図版22-c	81	上師器小皿	3区井戸2	
11	須恵器環身	1区井戸5	図版22-a	82	土師器小皿	3区井戸2	
12	須恵器環身	1区井戸5	図版22-b	83	土師器小皿	3区井戸2	
13	須恵器盤	1区井戸5	図版21-f	84	土師器小皿	3区井戸2	
14	須恵器台付長頸壺	1区井戸5	図版21-g	85	上師器小皿	3区井戸2	
15	須恵器平瓶	1区井戸5	図版21-e	86	土師器羽釜	3区井戸2	
16	須恵器环蓋	1区上坑2		87	瓦質羽釜	3区井戸2	
17	須恵器环蓋	1区土坑2		88	瓦質壺	3区井戸2	
18	須恵器环蓋	1区土坑2		89	土師器陶	3区井戸3	図版42-a8
19	須恵器环身	1区上坑2		90	土師器碗	3区井戸3	
20	須恵器壺蓋	1区土坑2		91	土師器碗	3区井戸3	図版42-a9
21	須恵器環坏	1区土坑2		92	土師器环坏	3区井戸3	
22	土師器壺	1区包含層	図版23-f	93	土師器手付碗	3区井戸3	図版42-a10
23	土師器碗	2区ビット49	図版24-a9	94	土師器手付耳	3区井戸3	図版42-a11
24	土師器碗	2区ビット49	図版24-a8	95	土師器甕	3区井戸3	図版43-a2
25	土師器碗	2区ビット49	図版24-a7	96	土師器甕	3区井戸3	図版43-a3
26	黒色土器碗	2区ビット49	図版24-a5	97	土師器甕	3区井戸3	図版43-a4
27	黒色土器碗	2区ビット49	図版24-a3	98	土師器甕	3区井戸3	
28	黒色土器碗	2区ビット49	図版24-a4	99	上師器蓋	3区井戸3	図版43-a1
29	黒色土器碗	2区ビット49	図版24-a6	100	須恵器环蓋	3区井戸3	図版42-a2
30	黒色土器碗	2区ビット49	図版24-a7	101	須恵器环蓋	3区井戸3	
31	黒色土器碗	2区ビット49	図版24-a1	102	須恵器环蓋	3区井戸3	
32	黒色土器碗	2区ビット49	図版24-a2	103	須恵器环蓋	3区井戸3	
33	黒色土器碗	2区ビット49	図版24-a3	104	須恵器环蓋	3区井戸3	
34	土師器蓋	2区ビット49	図版25-a6	105	須恵器环蓋	3区井戸3	
35	土師器片口鉢	2区ビット49	図版25-a7	106	須恵器环蓋	3区井戸3	
36	土師器甕	2区ビット49	図版25-a3	107	須恵器环蓋	3区井戸3	図版42-a3
37	土師器羽釜	2区ビット49	図版25-a5	108	須恵器环蓋	3区井戸3	図版42-a1
38	土師器羽釜	2区ビット49	図版25-a6	109	須恵器环蓋	3区井戸3	
39	土師器羽釜	2区ビット49	図版25-a4	110	須恵器环身	3区井戸3	
40	土師器环	2区ビット57	図版28-a3	111	須恵器环身	3区井戸3	図版42-a5
41	土師器环	2区ビット57	図版28-a1	112	須恵器环身	3区井戸3	
42	土師器环	2区横1		113	須恵器环身	3区井戸3	図版42-a4
43	土師器环	2区下層包含層上面	図版28-b5	114	須恵器环身	3区井戸3	
44	土師器环	2区下層包含層上面	図版28-b6	115	須恵器环身	3区井戸3	
45	土師器环	2区下層包含層上面	図版28-b7	116	須恵器环身	3区井戸3	
46	土師器环	2区下層包含層上面	図版28-b8	117	須恵器环身	3区井戸3	図版42-a6
47	土師器环	2区下層包含層上面	図版28-b9	118	須恵器环身	3区井戸3	
48	上師器环	2区下層包含層上面		119	須恵器环身	3区井戸3	
49	土師器环	2区下層包含層上面	図版28-b10	120	須恵器环身	3区井戸3	
50	土師器环	2区下層包含層上面	図版28-b11	121	須恵器楕瓶	3区井戸3	図版42-a7
51	土師器环	2区下層包含層上面	図版28-b12	122	野丸瓦	3区井戸4	図版31-a2
52	土師器甕	2区下層包含層上面	図版28-b3	123	野平瓦	3区井戸4	図版33-a6
53	土師器甕	2区下層包含層上面	図版28-b1	124	土師器陶	3区井戸5	図版13-a6
54	土師器甕	2区下層包含層上面	図版28-b2	125	土師器小皿	3区井戸6	図版43-a7
55	土師器甕	2区下層包含層上面	図版28-b4	126	陶瓦	3区井戸6	
56	製塙土器	2区下層包含層上面	図版28-b5	127	陶瓦	3区井戸6	
57	製塙土器	2区下層包含層上面	図版28-b6	128	須恵器环蓋	3区井戸7	図版43-a8
58	赤生土器蓋	2区下層包含層	図版26-c3	129	須恵器台付	3区井戸7	図版43-a10
59	赤生土器蓋	2区下層包含層	図版26-c7	130	須恵器台付長頸壺	3区井戸7	図版43-a9
60	赤生土器蓋	2区下層包含層	図版26-c6	131	須恵器蓋	3区井戸7	図版44-a1
61	土師器环	2区下層包含層	図版26-c7	132	土師器环	3区土坑5	
62	須恵器环蓋	2区下層包含層	図版27-b1	133	土師器环	3区七坑5	
63	須恵器环蓋	2区下層包含層	図版27-b2	134	土師器环	3区土坑5	
64	須恵器环	2区下層包含層	図版27-b3	135	土師器环	3区土坑5	
65	瓦器碗	3区井戸1		136	土師器环	3区土坑5	
66	瓦器碗	3区井戸1	図版40-f1	137	土師器环	3区土坑5	
67	瓦器小皿	3区井戸1		138	黒色土器碗	3区土坑5	
68	瓦器碗	3区井戸2		139	土師器蓋	3区土坑5	
69	瓦器碗	3区井戸2		140	土師器皿	3区土坑6	図版44-b3
70	瓦器碗	3区井戸2		141	土師器皿	3区土坑6	図版44-b2
71	瓦器碗	3区井戸2		142	土師器片口鉢	3区土坑6	図版44-b1

『概要・Ⅹ』写真図版との対照表(1)

No.	器種	地区・層位・遺構	図版番号	No.	器種	地区・層位・遺構	図版番号
143	須恵器壺蓋	3区上坑7	図版44-b1	214	土師器小皿	3区瓦瀬92	
144	瓦器碗	3区土坑61	図版44-b4	215	瓦質ニユア羽釜	3区瓦瀬92	図版39-a12
145	瓦器碗	3区瓦瀬2	図版44-b5	216	弥生上層窯	3区瓦瀬92	
146	瓦器碗	3区ビン2		217	土師質土鐘	3区瓦瀬92	
147	瓦器碗	3区ビン2		218	瓦質櫛輪	3区瓦瀬92	
148	軒丸瓦	3区清2	図版31-a1	219	軒丸瓦	3区瓦瀬92	
149	軒平瓦	3区清2	図版33-a8	220	軒丸瓦	3区瓦瀬92	図版31-a5
150	青磁小皿	3区清2		221	軒丸瓦	3区瓦瀬92	
151	瓦器碗	3区清3	図版40-e1	222	軒丸瓦	3区瓦瀬92	図版32-a4
152	瓦器碗	3区清3		223	軒丸瓦	3区瓦瀬92	図版36-a7
153	瓦器小皿	3区清3		224	軒平瓦	3区瓦瀬92	図版34-a1
154	瓦器小皿	3区清3	図版40-e2	225	軒平瓦	3区瓦瀬92	
155	瓦器小皿	3区清3		226	瓦丸	3区瓦瀬92	
156	土師器小皿	3区清3	図版40-e3	227	須恵器环身	3区包含層	図版45-d9
157	土師器小皿	3区清3		228	須恵器博多型	3区包含層	
158	白磁碗	3区清3		229	土師器蓋	3区包含層	
159	須恵器こね鉢	3区清3		230	土師質土鐘	3区包含層	図版46-a7
160	土師器羽釜	3区清3	図版40-e4	231	須恵器蓋	3区包含層	
161	瓦質三足付羽釜	3区清3		232	須恵器環板	3区包含層	図版46-a4
162	瓦器碗	3区清4		233	須恵器环身	3区包含層	図版45-d10
163	土師器小皿	3区第4		234	須恵器台	3区包含層	
164	土師器環板	3区清4		235	土師質高窯	3区包含層	
165	軒平瓦	3区第4		236	土師器環	3区包含層	図版46-a2
166	軒半瓦	3区清4		237	須恵器环身	3区包含層	図版46-a1
167	瓦器碗	3区瓦瀬91	図版39-a3	238	須恵器蓋	3区包含層	
168	瓦器碗	3区瓦瀬91		239	瓦器碗	3区包含層	図版46-c9
169	瓦器碗	3区瓦瀬91	図版39-a12	240	瓦器碗	3区包含層	
170	瓦器碗	3区瓦瀬91	図版39-a2	241	瓦器小皿	3区包含層	
171	青磁碗	3区瓦瀬91		242	瓦器小皿	3区包含層	
172	瓦器小皿	3区瓦瀬91		243	土師器小皿	3区包含層	
173	土師器小皿	3区瓦瀬91		244	十輪器小皿	3区包含層	
174	土師器小皿	3区瓦瀬91		245	土師器小皿	3区包含層	
175	土師器小皿	3区瓦瀬91		246	常滑器	3区包含層	
176	土師器小皿	3区瓦瀬91	図版39-a5	247	軒丸瓦	3区包含層	図版30-a4
177	土師器小皿	3区瓦瀬91		248	軒丸瓦	3区包含層	図版30-a2
178	土師器小皿	3区瓦瀬91		249	軒丸瓦	3区包含層	
179	土師器小皿	3区瓦瀬91	図版39-a4	250	軒丸瓦	3区包含層	
180	瓦質片口鉢	3区瓦瀬91	図版39-a6	251	軒丸瓦	3区包含層	
181	陶器こね鉢	3区瓦瀬91		252	軒丸瓦	3区包含層	
182	軒丸瓦	3区瓦瀬91	図版29-a	253	軒丸瓦	3区包含層	
183	軒丸瓦	3区瓦瀬91	図版31-a3	254	軒丸瓦	3区包含層	図版32-a8
184	軒丸瓦	3区瓦瀬91		255	軒丸瓦	3区包含層	図版32-a7
185	軒丸瓦	3区瓦瀬91		256	軒丸瓦	3区包含層	
186	軒丸瓦	3区瓦瀬91		257	軒丸瓦	3区包含層	
187	軒丸瓦	3区瓦瀬91	図版32-a2	258	軒丸瓦	3区包含層	
188	軒丸瓦	3区瓦瀬91	図版32-a1	259	軒丸瓦	3区包含層	図版32-a9
189	軒丸瓦	3区瓦瀬91	図版32-a6	260	軒平瓦	3区包含層	図版33-a4
190	軒丸瓦	3区瓦瀬91	図版30-a5	261	軒平瓦	3区包含層	
191	軒丸瓦	3区瓦瀬91	図版30-a6	262	軒平瓦	3区包含層	
192	軒平瓦	3区瓦瀬91	図版33-a1	263	軒平瓦	3区包含層	図版33-a2
193	軒平瓦	3区瓦瀬91		264	軒平瓦	3区包含層	
194	軒平瓦	3区瓦瀬91		265	軒平瓦	3区包含層	
195	軒平瓦	3区瓦瀬91		266	軒平瓦	3区包含層	
196	軒平瓦	3区瓦瀬91	図版34-a7	267	軒平瓦	3区包含層	図版33-a5
197	軒平瓦	3区瓦瀬91	図版34-a6	268	軒平瓦	3区包含層	図版33-a7
198	軒平瓦	3区瓦瀬91		269	軒平瓦	3区包含層	
199	軒平瓦	3区瓦瀬91	図版35-a6	270	軒平瓦	3区包含層	
200	丸瓦	3区瓦瀬91	図版37-a2	271	軒平瓦	3区包含層	図版35-a1
201	丸瓦	3区瓦瀬91		272	軒平瓦	3区包含層	図版35-a4
202	半瓦	3区瓦瀬91		273	軒平瓦	3区包含層	図版36-a3
203	半瓦	3区瓦瀬91		274	軒平瓦	3区包含層	図版36-a5
204	瓦器碗	3区瓦瀬92		275	瓦丸	3区包含層	図版36-a8
205	瓦器碗	3区瓦瀬92		276	丸瓦	3区包含層	図版37-a3
206	瓦器碗	3区瓦瀬92		277	丸瓦	3区包含層	図版37-a1
207	瓦器碗	3区瓦瀬92	図版39-a7	278	半瓦	3区包含層	
208	瓦器碗	3区瓦瀬92	図版39-a8	279	土師器坏	3区段下土器群	図版45-a2
209	瓦器碗	3区瓦瀬92		280	土師器壞	3区段下土器群	
210	瓦器碗	3区瓦瀬92		281	土師器壞	3区段下土器群	
211	瓦器碗	3区瓦瀬92		282	土師器壞	3区段下土器群	図版45-a3
212	土師器小皿	3区瓦瀬92	図版39-a11	283	須恵器环身	3区段下土器群	図版45-a1
213	土師器小皿	3区瓦瀬92	図版39-a10	284	土師器壞	3区地山裏上	図版45-c

「概要・Ⅹ」写真図版との対照表（2）

調査区	遺構名 ()内は旧遺構名	地区割り				規模(m)			主要埋土
		I	II	III	IV	長径	短径	深さ	
1区	井戸1	F5	15	I14	a6	1.92	1.74	1.72	黒色粘土他
1区	井戸2	F5	15	G14	b6	1.43	1.12	0.98	黒褐色粘土他
1区	井戸3	F5	15	I14	b6	5.25	2.74以上	3.36	暗灰色粘土他
1区	井戸4	F5	15	I14	b6・g6	1.7	1.46	1.59	暗灰色粘土
1区	井戸5	F5	15	I14	a6	1.49	1.24	1.39	黒色粘土
1区	土坑1	F5	15	I14	c6	0.63	0.62	0.25	茶褐色粘土混じり 暗灰色粘質土
1区	土坑2	F5	15	H14	b6	6.0以上	2.1	0.42	黒色粘土
1区	土坑3	F5	15	G14	c6・c7	0.58以上	0.42	0.16	黒色粘質土
1区	土坑4	F5	15	I14	b6	1.4	0.6	0.29	灰青綠色粘質土
1区	土坑5 (旧南半部土坑3)	F5	15	I14	h6・h7	2.14	1.7	0.8	暗灰褐色粘質土
1区	土坑6 (旧南半部土坑2)	F5	15	I14	b6	1.4	0.7	0.17	黄褐色粘土混じり 黒色粘土
1区	土坑7 (旧南半部土坑2)	F5	15	I14	b6	0.62	0.55	0.51	暗灰褐色粘質土
1区	土坑8	F5	15	G14	c6	0.74	0.59	0.13	黒色粘質土
1区	土坑9	F5	15	G14	b6	0.95以上	0.55	0.2	黒色粘土
1区	土坑10	F5	15	G14	b6	0.86	0.65以上	0.13	黒色粘土
1区	土坑11	F5	15	G14	b6	0.62	0.3	0.17	黒色粘土
1区	土坑12	F5	15	G14	b6	0.94	0.54	0.42	黒色粘土
1区	土坑13	F5	15	H14	a6	1.5	1.24	0.32	黒色粘土
1区	土坑14	F5	15	H14	b7	0.76以上	0.73	0.18	黒色粘土
1区	土坑15	F5	15	H14	c7	0.65	0.6以上	0.16	黒色粘土
1区	ピット1	F5	15	G14	g6	0.74	0.65	0.12	黒色粘土
1区	ピット2	F5	15	G14	g7	0.45	0.38	0.22	黒色粘土
1区	ピット3	F5	15	G14	g7	0.36	0.32	0.07	黒色粘土
1区	ピット4	F5	15	G14	g6	0.34	0.31	0.09	黒色粘土
1区	ピット5	F5	15	G14	g6	0.58	0.45	0.08	黒色粘土
1区	ピット6	F5	15	G14	g6	0.55	0.42	0.2	黒色粘土
1区	ピット7	F5	15	G14	g7	0.24	0.18以上	0.1	黒色粘土
1区	ピット8 (旧中央部ピット1)	F5	15	H14	b6			0.09	黒色粘土
1区	ピット9 (旧中央部ピット2)	F5	15	H14	h7・i7	0.41	0.38	0.15	黒色粘土
1区	ピット10 (旧中央部ピット3)	F5	15	H14	j7	0.35	0.29以上	0.05	黒色粘土
1区	ピット11	F5	15	G14	d7	0.21	0.21	0.13	黒色粘質土
1区	ピット12	F5	15	G14	e6	0.21	0.19	0.16	黒色粘質土
1区	ピット13	F5	15	G14	e6	0.32	0.23	0.08	黒色粘質土
1区	ピット14	F5	15	G14	c6	0.18	0.16	0.09	黒色粘質土
1区	ピット15	F5	15	G14	g6	0.5	0.38	0.19	黒色粘土
1区	ピット16	F5	15	G14	g6	0.36	0.28以上	0.13	黒色粘土
1区	ピット17	F5	15	G14	g6	0.42	0.26	0.08	黒色粘土
1区	ピット18	F5	15	G14	g6	0.46	0.38	0.31	黒色粘土
1区	ピット19	F5	15	G14	g6	0.35	0.27	0.06	黒色粘土
1区	ピット20	F5	15	G14	g7	0.26	0.24	0.08	黒色粘土
1区	ピット21	F5	15	G14	g7	0.15	0.14	0.04	黒色粘土
1区	ピット22	F5	15	G14	g7	0.14	0.14	0.05	黒色粘土
1区	ピット23	F5	15	G14	g7	0.3	0.1以上	0.08	黒色粘土
1区	ピット24	F5	15	G14	g6・g7	0.46	0.39	0.15	黒色粘土
1区	ピット25	F5	15	G14	g6	0.4	0.34	0.04	黒色粘土
1区	ピット26	F5	15	G14	g6	0.33	0.25以上	0.2	黒色粘土
1区	ピット27	F5	15	G14	g6	0.45	0.39	0.18	黒色粘土
1区	ピット28	F5	15	G14	g6	0.24	0.16以上	0.02	黒色粘土
1区	ピット29	F5	15	G14	g6	0.38	0.35	0.04	黒色粘土
1区	ピット30	F5	15	G14	b6	0.5	0.36以上	0.13	黒色粘土
1区	ピット31	F5	15	H14	c7	0.19	0.1以上	0.06	黒色粘土
1区	溝1	F5	15	H14	c6・d6・e6 b6・g6・h6	41.1	0.42~0.8	0.1~0.46	黄褐色粘土混じり 黒褐色粘土
1区	溝2	F5	15	H14	d6・e6・f6	24.9	0.55~1.44	0.19~0.48	暗灰色粘土
1区	溝3	F5	15	I14	d6	3.88	0.82	0.17	暗灰色粘質土
1区	溝4	F5	15	I14	d6	6	1.26~2.12	0.24~0.29	暗灰色粘質土
1区	溝5	F5	15	G14	g6	5.75	1.04	0.2	黒色粘土

遺構一覧表(1)

平面形	出土遺物
楕丸方形	(平安中葉) 黒色土器碗、土師器甕・小皿、(古墳後期) 土師器高环・甕、須恵器环身・环蓋・高环・甕、他
椭円形	(平安中葉) 黒色土器碗、土師器甕・甕、羽釜・小皿、(古墳後期) 須恵器甕、他
円形	なし
凹形	なし
精円形	(飛鳥) 土師器环・皿・甕、須恵器环身・台付長頸甕・長頸蓋・横瓶・矢板・斎串、(古墳中期) 蓋形埴輪・他
円形	(中世) 平瓦、(古墳後期) 須恵器环身・环蓋・高环・甕、他
不整形	(古墳後期) 須恵器环身・环蓋・高环・甕、土師器甕・皿、他
椭円形	(古墳前期) 土師器高环・他
椭円形	なし
不整形	なし
椭円形	(平安中期) 黒色土器碗、(古墳後期) 須恵器环蓋・甕、他
椭円形	なし
不整精円形	なし
瓢箪形	なし
不整形	なし
瓢箪形	なし
不整形	なし
不整精円形	(奈良?) 土師器碗、(古墳後期) 須恵器环身・甕・甕、他
不整円形	(平安前葉?) 須恵器甕
円形	(古墳後期) 須恵器甕
円形	(平安中期) 黒色土器類、他
不整精円形	(古墳後期) 須恵器甕
精円形	(古墳後期) 須恵器环蓋・他
円形	不明
不整形	なし
円形	なし
不整形	なし
円形	なし
精円形	なし
精円形	なし
円形	なし
円形?	なし
円形?	なし
円形?	なし
不明	なし
精円形	なし
不整円形	なし
円形?	なし
円形	なし
円形?	なし
円形?	なし
不明	なし
不整形	なし
...	(中世) 瓦器碗、(奈良?) 平瓦、(古墳後期) 須恵器环身・环蓋・甕・甕・甕、土師器高环・甕・甕、他
...	(中世) 瓦器碗、(古墳後期) 須恵器环身・环蓋・高环・甕、土師器高环・甕、他
...	(古墳後期) 須恵器环身・环蓋・高环・甕・甕
...	(古墳後期) 須恵器甕・他
...	(古墳後期) 須恵器甕・他

調査区	遺構名 (内は旧遺構名)	地区割り				規模(m)			主要埋土
		I	II	III	IV	長径	短径	深さ	
1区	溝6	F5	15	H14	b6・c6・c7	19.6	2.38~6.0	0.6~0.8	暗灰色粘土
1区	溝7 (旧南半部溝6)	F5	15	H14	c6・f6	12	0.3	0.08~0.14	暗灰褐色粘質土
1区	溝8	F5	15	H14	f6・j6	3.18	0.36	0.09	黑色粘土
1区	溝9	F5	15	H14	f6	2.62	0.3	0.08	黑色粘土
1区	溝10	F5	15	H14	f6	7.72	0.9~1.36	0.21	灰色粘土
1区	溝11	F5	15	G14	c7	1.4	0.17~0.43	0.11	黑色粘質土
1区	溝12	F5	15	H14	a6・n7・b6	8	0.3~1.0	0.17~0.43	暗灰色粘土
1区	溝13 (旧南半部溝7)	F5	15	H14	f6・j6	11.8	0.36~0.56	0.04~0.06	黑色粘土
1区	水田畦畔	F5	15	G14	d6・d7	...	1.1	高さ0.15...	
1区	ため池	F5	15	H14	c6・d6・d7 c6・c7・f6 f7・g6・g7 h6・h7	80	7	1.7	暗灰色粘土他
2区	井戸1	F5	15	D13	c2	1.59	1.49	5.3以上	黑褐色粘質土
2区	土坑1	F5	15	D13	e3	2.58	0.27以上	0.11	黑褐色粘質土
2区	土坑2	F5	15	D13	e3	1.61	0.22以上	0.07	黑褐色粘質土
2区	土坑3	F5	15	D13	d3	2.4以上	1.3	0.29	黑褐色粘質土
2区	土坑4	F5	15	D13	c2・c3・d2	2.54以上	0.86	0.13	黑褐色粘質土
2区	土坑5	F5	15	D13	c3	1.23以上	0.67以上	0.17	黑褐色粘質土
2区	土坑6	F5	15	D13	c3	1.5	0.91	0.27	黑褐色粘質土
2区	土坑7	F5	15	D13	c2	0.92	0.68	0.23	黑褐色粘質土
2区	土坑8	F5	15	D13	c2	0.81	0.33	0.28	黑褐色粘質土
2区	土坑9	F5	15	D13	a3・b3	1.37	0.78	0.18	黑褐色粘質土
2区	土坑10	F5	15	D13	a2・a3	1.63以上	0.81	0.23	黑褐色粘質土
2区	土坑11	F5	15	D13	c2・c3	3.44	1.07	0.48	黑褐色粘質土
2区	ピット1	F5	15	D13	e4	0.34	0.3	0.18	黄褐色土
2区	ピット2	F5	15	D13	e3・e4	0.24	0.24	0.11	黄褐色土
2区	ピット3	F5	15	D13	e3	0.78	0.41	0.16	黑褐色粘質土
2区	ピット4	F5	15	D13	e3	0.32	0.25	0.05	黄褐色土
2区	ピット5	F5	15	D13	e3	0.52	0.46	0.28	黄褐色土
2区	ピット6	F5	15	D13	e3	0.29	0.24	0.12	黑褐色粘質土
2区	ピット7	F5	15	D13	e3	0.42	0.35	0.22	黄褐色土
2区	ピット8	F5	15	D13	e4	0.38	0.28以上	0.12	黑褐色粘質土
2区	ピット9	F5	15	D13	e4	0.5	0.47以上	0.14	黑褐色粘質土
2区	ピット10	F5	15	D13	c3	0.28以上	0.1以上	0.14	黑褐色粘質土
2区	ピット11	F5	15	D13	c3・e4	0.74以上	0.24	0.19	黑褐色粘質土
2区	ピット12	F5	15	D13	d3	0.75	0.35	0.12	黑褐色粘質土
2区	ピット13	F5	15	D13	d3	0.67	0.63	0.18	黑褐色粘質土
2区	ピット14	F5	15	D13	d3	0.45	0.39	0.26	黑褐色粘質土
2区	ピット15	F5	15	D13	d3	0.41	0.37	0.31	黑褐色粘質土
2区	ピット16	F5	15	D13	d3	0.78	0.56	0.19	黑褐色粘質土
2区	ピット17	F5	15	D13	d3	0.39	0.32	0.28	黑褐色粘質土
2区	ピット18	F5	15	D13	d3	0.57	0.51	0.25	黑褐色粘質土
2区	ピット19	F5	15	D13	d3	0.39	0.35	0.24	黑褐色粘質土
2区	ピット20	F5	15	D13	d3	0.54以上	0.17以上	0.21	黑褐色粘質土
2区	ピット21	F5	15	D13	d3	0.47	0.41	0.26	黑褐色粘質土
2区	ピット22	F5	15	D13	d3	0.5	0.28	0.06	黑褐色粘質土
2区	ピット23	F5	15	D13	d3	0.33	0.33	0.2	黑褐色粘質土
2区	ピット24	F5	15	D13	d3	0.34	0.32	0.13	黄褐色土
2区	ピット25	F5	15	D13	d3	0.55	0.52	0.23	黑褐色粘質土
2区	ピット26	F5	15	D13	d3	0.49	0.46	0.22	黑褐色粘質土
2区	ピット27	F5	15	D13	d3	0.37	0.31	0.13	黑褐色粘質土
2区	ピット28	F5	15	D13	d3	0.45	0.28	0.15	黄褐色土
2区	ピット29	F5	15	D13	d3	0.18	0.17	0.18	黑褐色粘質土
2区	ピット30	F5	15	D13	d3	0.49	0.42	0.22	黑褐色粘質土
2区	ピット31	F5	15	D13	d3	0.3	0.29	0.09	黑褐色粘質土
2区	ピット32	F5	15	D13	d3	0.39	0.35	0.23	黑褐色粘質土
2区	ピット33	F5	15	D13	d3	0.4以上	0.37	0.06	黑褐色粘質土
2区	ピット34	F5	15	D13	d3	0.38	0.37	0.16	黑褐色粘質土
2区	ピット35	F5	15	D13	c3	0.65	0.47	0.33	黑褐色粘質土
2区	ピット36	F5	15	D13	c3	0.37	0.33	0.19	黄褐色土
2区	ピット37	F5	15	D13	c2	0.6	0.48	0.25	黑褐色粘質土
2区	ピット38	F5	15	D13	c2	0.6	0.4	0.12	黑褐色粘質土

遺構一覧表(2)

平面形	出土遺物
…	(中世)瓦、(古墳後期)須恵器环身・壺・器台・他
…	なし
長方形	(中世)瓦器椀、瓦質三足付鍋・羽釜・壺・擂鉢・土師器羽釜・小皿、(平安後期)瓦器椀 (平安前期)綠釉陶器椀(奈良)土師器壺・羽釜・把手付鍋、(古墳後期)須恵器环身・ 环蓋・長頸壺・壺・土師器壺・他
円形	なし
不明	(平安中期)土師器壺・他
不明	土師器小片
不整形	(古墳前期)土師器壺・他
長方形	(中世)瓦器椀、(古墳後期)須恵器环身・他
不明	土師器小片
不整精円形	土師器小片
精円形	土師器小片
長精円形	土師器小片
不整形	(中世)平瓦、(古墳後期)須恵器环身・环蓋・壺・器台・土師器壺、(古墳前期)土師器鉢
不整形	(古墳後期)須恵器壺・他
不整形	土師器小片
円形	土師器小片
円形	(平安後期)瓦器椀
円形	土師器小片
円形	土師器小片
円形	(古墳後期)須恵器环身・环蓋・他
円形	土師器小片
円形	(中世)瓦器椀、(古墳後期)須恵器环身・他
精円形?	(古墳後期)須恵器环身
不明	(中世)土師器小皿
不明	土師器小片
円形	(中世)土師器小皿
不明	土師器小片
不整方形	(古墳後期)須恵器环蓋・他
円形	土師器小片
円形	土師器小片
不整形方	土師器小片
円形	土師器小片
円形	(古墳後期)土師器壺
精円形	土師器小片
円形	(古墳後期)土師器壺・他
円形	土師器小片
不整形	(古墳後期)土師器高壺・他
円形	土師器小片
円形	土師器小片
精円形	土師器小片
不整円形	土師器小片
円形	土師器小片
不整円形	(古墳後期)須恵器高壺・土師器壺・他
精円形	土師器小片

調査区	遺構名 ()内は旧遺構名	地区割り				規模(m)			主要埋土
		I	II	III	IV	長径	短径	深さ	
2区	ピット39	F5	15	D13	c2	0.21	0.2	0.1	黒褐色粘質土
2区	ピット40	F5	15	D13	b2・c2	0.63	0.58	0.19	黒褐色粘質土
2区	ピット41	F5	15	D13	b2	1.12	0.69	0.19	黒褐色粘質土
2区	ピット42	F5	15	D13	b2	0.48	0.48	?	黒褐色粘質土
2区	ピット43	F5	15	D13	b2	0.62	0.59	0.16	黒褐色粘質土
2区	ピット44	F5	15	D13	b2	0.89以上	0.23以上	0.2	黒褐色粘質土
2区	ピット45	F5	15	D13	b2・b3	0.69	0.52	0.31	黒褐色粘質土
2区	ピット46	F5	15	D13	b2	0.33	0.33	0.19	黒褐色粘質土
2区	ピット47	F5	15	D13	a2	0.26	0.1以上	0.15	記録なし
2区	ピット48	F5	15	D13	a2・a3	0.57	0.54	0.29	記録なし
2区	ピット49	F5	15	D13	a2・a3	0.67	0.64	0.47	黒褐色粘質土
2区	ピット50	F5	15	D13	a2	0.45	0.3	0.11	記録なし
2区	ピット51	F5	15	I3-D12・j3・a2	a3	0.65	0.38	0.24	記録なし
2区	ピット52	F5	15	C13	j2・j3	0.27	0.23	0.09	記録なし
2区	ピット53	F5	15	C13	j3	0.34以上	0.24	0.66	記録なし
2区	ピット54	F5	15	C13	j2	0.29以上	0.33	0.58	記録なし
2区	ピット55	F5	15	C13	j2	0.38以上	0.45	0.1	記録なし
2区	ピット56	F5	15	D13	c2	0.6	0.75	0.36	黒褐色粘質土
2区	ピット57	F5	15	D13	a2・a3	0.6	0.52	0.26	黒褐色粘質土
2区	ピット58	F5	15	D13	d3	0.37	0.33	0.21	黒褐色粘質土
2区	ピット59	F5	15	D13	d3	0.14以上	0.27	0.19	黒褐色粘質土
2区	ピット60	F5	15	D13	d3	0.37	0.31	0.06	黒褐色粘質土
2区	ピット61	F5	15	D13	d3	0.56	0.47	0.22	黒褐色粘質土
2区	ピット62	F5	15	D13	d3	0.37	0.37	0.25	黒褐色粘質土
2区	ピット63	F5	15	D13	d3	0.45	0.34	0.2	黒褐色粘質土
2区	ピット64	F5	15	D13	d3	0.39	0.29	0.14	黒褐色粘質土
2区	ピット65	F5	15	D13	d3	0.38	0.35	0.06	黒褐色粘質土
2区	ピット66	F5	15	D13	d3	0.37以上	0.32以上	0.19	黒褐色粘質土
2区	ピット67	F5	15	D13	d3	0.41	0.35	0.2	黒褐色粘質土
2区	ピット68	F5	15	D13	d3	0.4	0.33	0.07	黒褐色粘質土
2区	ピット69	F5	15	D13	b2	0.67以上	0.72	0.13	黒褐色粘質土
2区	ピット70	F5	15	D13	b2	0.76	0.43	0.2	黒褐色粘質土
2区	ピット71	F5	15	D13	b3	0.6	0.43	0.18	黒褐色粘質土
2区	ピット72	F5	15	D13	b3	0.58以上	0.57	0.48	黒褐色粘質土
2区	ピット73	F5	15	D13	b3・c3	0.68	0.57	0.17	黒褐色粘質土
2区	ピット74	F5	15	D13	c2	0.53	0.53	0.31	黒褐色粘質土
2区	溝1	F5	15	C13	c3	4.69	1.63	0.54	暗こげ茶色粘質土他
2区	溝2	F5	15	C13	b3・b4	4.24	4.07～4.68	0.6	暗こげ茶色粘質土他
2区	溝3	F5	15	C13	b3・b4	3.64	1.55～2.14	0.27	暗こげ茶色粘質土他
2区	溝4 (旧溝1)	F5	15	D13	a2・a3	1.93	0.38～0.54	0.54	記録なし
2区	溝5	F5	15	C13	c3	1.83	0.12～0.35	0.09	黒色粘土
2区	段落ち	F5	15	C13	e3・f3	20	5	0.5	こげ茶色粘土他
3区	井戸1	F5	15	C15	e2	1.2	1.2	1.3	暗灰色粘質土層也
3区	井戸2	F5	15	C14	c8・c9・d8 d9	6.2	5	3.8	暗茶褐色粘質土他
3区	井戸3	F5	15	C15	f5	3.6	2.75	1.7	黒色粘質土他
3区	井戸4	F5	15	C15	f7	2.8	2.7	3.4	暗灰黑色粘土他
3区	井戸5	F5	15	C15	f5	1.63	1.25以上	1.61	暗灰色粘土他
3区	井戸6	F5	15	C15	g6	1.15	1.08	2	暗褐色粘質土他
3区	井戸7	F5	15	C14	g6	2.5	2.2	1.61	暗灰色粘土他
3区	井戸8	F5	15	C15	g6	1.1以上	1.0以上	1.2	黒色粘質土
3区	井戸9	F5	15	C15	g8	2.5以上	0.8以上	0.6以上	暗灰褐色粘質土
3区	井戸10	F5	15	C15	g7	1.0以上	0.5以上	0.6以上	暗灰褐色粘質土
3区	井戸11	F5	15	C15	h7	1.1	1.05	0.05	暗灰褐色粘質土
3区	井戸12	F5	15	C14	c9	1.76以上	0.44以上	0.61	記録なし
3区	土坑1:欠番	F5	15	C15	c2	1.5	0.85	0.3	灰綠色粘質土他
3区	土坑2	F5	15	C15	c2	1.5	0.85	0.52	灰黃色粘質土他
3区	土坑3	F5	15	C15	c2	1.5	0.96	0.52	灰黃色粘質土他

遺構一覧表 (3)

平面形	出土遺物
円形	土師器小片
隅丸方形	土師器小片、須恵器小片
不整脩円形	(古墳後期)須恵器环身・他
円形	(古墳後期)須恵器環・他
不整円形	土師器小片
不明	土師器小片
隅丸長方形	(奈良)土師器环・(古墳後期)須恵器壺・(古墳前期)土師器二重口縁壺・他
円形	(古墳中期)須恵器环身・土師器环・他
円形?	土師器小片
隅丸方形	柱
円形	(平安中期)黒色土器碗・土師器壺・羽釜・甕・片口鉢・(古墳後期)須恵器环身・甕・土師器高环・他
円形	なし
稍円形	土師器小片
円形	土師器小片
円形?	土師器小片
円形?	土師器小片
椭円形?	(飛鳥)土師器高环?
円形	(古墳後期)須恵器环身・他
隅丸方形	(奈良)土師器环・皿・甕・製塙土器・他
円形	なし
円形?	なし
円形	なし
円形	なし
不明	なし
不整形	なし
隅丸長方形	なし
稍円形?	なし
不整円形	なし
円形	なし
...	(奈良)土師器环・他
...	(古墳後期)土師器甕・(弥生後期)甕
...	なし
...	(中世)瓦器碗・土師器小皿・羽釜・他
不整円形	(中世)瓦器碗・小皿・土師器小皿・平皿・丸瓦・(奈良)土師器环・(古墳後期)須恵器环・甕・他
隅丸長方形	(中世)瓦器碗・小皿・瓦質羽釜・甕・土師器小皿・羽釜・(平安後期)瓦器碗・(古墳後期)須恵器环・甕・土師器高环・甕・他
不整円形	(古墳後期)須恵器环身・环蓋・高环・甕・壺・横瓶・土師器环・高环・椀・把手付鉢・甕・甕・瓶・他
円形	(中世)瓦器碗・瓦質羽釜・備前甕・擂鉢・軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦・(古墳後期)須恵器环・甕・他
円形?	(中世)瓦質土器片・(平安中期)黑色土器碗・土師器碗・环・他
円形	(中世)土師器小皿・東瓦
不整脩円形	(古墳後期)須恵器环身・高环・台付長頸壺・短頸壺・壺蓋・甕・他・土師器高环・甕・把手付碗・他
円形	(中世)瓦質三足付鍋・(奈良)土師器环・(古墳後期)須恵器环身・高环・甕・壺蓋・土師器高环・甕
不明	(中世)瓦器小皿・火鉢・他
不明	(中世)瓦質甕・須恵質甕・花崗岩製石柱(五輪塔?)・(古墳後期)須恵器片・他
円形	なし
円形?	なし
長脩円形	(中世)瓦器碗・平瓦・(古墳後期)須恵器片・土師器甕・他
隅丸長方形	(中世)瓦器碗・瓦質甕・土師器小皿・平瓦・(古墳後期)須恵器环蓋・高环・甕・他

調査区	遺構名 (○内は旧遺構名)	地区割り				規模(m)			主要埋土
		I	II	III	IV	長径	短径	深さ	
3区	土坑4	F5	15	C15・el		1.54	1.16	0.36	暗灰色粘質土他
3区	土坑5	F5	15	C15・g5		2.79	2.4	0.2	黑色粘質土
3区	土坑6	F5	15	C15・f5・g5		1.12	0.97	0.38	黑色粘質土
3区	土坑7	F5	15	C15・f5		1.6以上	1.45以上	0.28	黑色粘質土
3区	土坑8	F5	15	C15・h8		0.86	0.82	0.32	黑色粘土
3区	土坑9	F5	15	C15・h7		0.77	0.7	0.43	黑色粘土
3区	土坑10	F5	15	C15・g7		1.15	0.77	0.1	暗灰色粘質土
3区	土坑11	F5	15	C15・h8		1	0.68以上	0.2	暗灰色粘質土
3区	土坑12	F5	15	C15・h8		1	0.6以上	0.12	黑色粘質土
3区	土坑13	F5	15	C15・g5		3	2	0.42	暗灰色粘質土
3区	土坑14	F5	15	C15・g4		0.95	0.82	0.14	暗灰色粘質土
3区	土坑15	F5	15	C15・g6		0.54	0.52	0.12	暗灰色粘質土他
3区	土坑16	F5	15	C15・h7		1.2	1.16	0.09	暗灰褐色粘土
3区	土坑17	F5	15	C14・d7		4.2	1.28	0.1	黑褐色砂礫混じ粘土
3区	土坑18	F5	15	C14・d7		0.92	0.86	0.35	暗灰色粘質土他
3区	土坑19	F5	15	C14・e7・d7		1.6	1.4	0.3	暗灰色粘質土
3区	土坑20	F5	15	C14・e7・d7		1.4	1.14	0.15	黄灰色粘土ブロック 混じ暗灰色粘質土
3区	土坑21	F5	15	C14・e7		3.4	0.2~0.45	0.1	暗灰褐色粘質土
3区	土坑22	F5	15	C14・e6・7		2.8	0.35~1.35	0.2	暗灰褐色粘質土
3区	土坑23	F5	15	C14・c6		2.85	2.1以上	0.2	黄灰色粘土ブロック 混じ暗灰褐色粘質土
3区	土坑24	F5	15	C14・c6		0.7	0.5	0.25	暗茶褐色粘質土
3区	土坑25	F5	15	C14・c6		2.4	0.7	0.1	暗灰色粘質土
3区	土坑26	F5	15	C14・c7		0.63	0.44	0.18	暗灰褐色粘質土
3区	土坑27	F5	15	C14・b6・c6		1.45	1.08	0.26	暗灰茶褐色砂礫
3区	土坑28	F5	15	C14・d7		1.6以上	0.5以上	0.05	暗茶褐色粘質土
3区	土坑29	F5	15	C14・b6		0.75以上	0.52以上	0.04	暗灰色粘質土
3区	土坑30	F5	15	C14・b6		1.8	0.95	0.31	暗茶褐色粘質土
3区	土坑31	F5	15	C14・b6		0.74	0.4	0.07	暗灰色粘質土
3区	土坑32	F5	15	C14・a5		2	1	0.17	黑色粘土層他
3区	土坑33	F5	15	C14・b5		0.76	0.76	0.52	暗褐色粘質土
3区	土坑34	F5	15	C14・b6・c7		1.62	0.9	0.35	暗こげ茶色粘質土
3区	土坑35	F5	15	C14・b7		1.2以上	0.7	0.2	暗灰褐色粘質土
3区	土坑36	F5	15	C14・b7		1.26	0.64	0.06	暗茶褐色粘質土
3区	土坑37	F5	15	C14・c7		2.3	0.5	0.1	暗茶褐色粘質土
3区	土坑38	F5	15	C14・c7		0.68	0.5	0.3	暗灰色粘質土
3区	土坑39	F5	15	C14・c8		0.93	0.85	0.12	暗灰色粘質土他
3区	土坑40	F5	15	C14・d8		1.47	0.4~0.7	0.1	黑色粘質土
3区	土坑41	F5	15	C15・el		0.8	0.7	0.3	暗灰褐色砂礫混じ 黑色粘質土他
3区	土坑42	F5	15	C15・el		1.12	0.71	0.4	灰褐色砂礫混じ 暗灰色粘質土他
3区	土坑43	F5	15	C15・el		0.55	0.46	0.17	黑色粘質土
3区	土坑44	F5	15	C15・d1		0.54	0.46	0.14	暗灰褐色粘質土
3区	土坑45	F5	15	C15・e2		1.04以上	0.4以上	0.04	暗灰褐色粘質土
3区	土坑46	F5	15	C15・f1・f2		3	1.3	0.37	黑褐色粘質土
3区	土坑47	F5	15	C15・e2		1.26	1	0.18	黑色粘質土
3区	土坑48	F5	15	C15・e2・f2		3	0.3~1.0	0.1	暗灰色粘質土
3区	土坑49	F5	15	C15・e2・f2		1.14	0.15~0.3	0.07	暗灰褐色粘質土
3区	土坑50	F5	15	C15・f2		3.3	3	0.5	黑色粘質土
3区	土坑51	F5	15	C15・f2		3.2	0.8	0.05	暗灰褐色粘質土
3区	土坑52	F5	15	C15・f2		0.57	0.29	0.03	暗灰褐色粘質土
3区	土坑53	F5	15	C15・e2・e3		1.6以上	1.2	0.18	暗灰褐色粘質土
3区	土坑54	F5	15	C15・e3		3.8以上	2.22	0.08	暗灰褐色粘質土
3区	土坑55	F5	15	C15・f3		1.5	1.46以上	0.05	黑褐色粘質土
3区	土坑56	F5	15	C15・f3・g3		1.7以上	1.1	0.16	黑褐色粘質土
3区	土坑57	F5	15	C15・g3		1.7以上	1.2	0.28	暗灰褐色粘質土
3区	土坑58	F5	15	C15・f3		0.88	0.76	0.08	暗灰色粘質土
3区	土坑59	F5	15	C15・f3		1.3以上	1.21	0.15	暗灰色粘質土
3区	土坑60	F5	15	C15・f4・g4		4.12以上	0.97以上	0.15	暗灰色粘質土
3区	土坑61	F5	15	C15・f4		1.25	0.81	0.52	暗灰色粘質土他

遺構一覧表 (4)

平面形	出土遺物
隅丸長方形	(古墳後期)須恵器环蓋・土師器片、他
不整円形	(平安中期)黒色土器碗、土師器碗・甕・甌、(古墳後期)須恵器甕、他
楕円形	(奈良)土師器环・片口鉢、(古墳後期)須恵器甕・破片、他
円形	(古墳後期)須恵器环身・坏蓋・高环・長颈甕・壺蓋・土師器甕・他
円形	(中世)須恵質鉢・(奈良)須恵器环頸蓋・(古墳中期～後期)須恵器甕・土師器甕・他
満丸方形	(中世)瓦器碗・(古墳後期)須恵器环蓋・他
瓢箪形	(中世)瓦器碗・土師器片・平瓦、(古墳後期)須恵器环身・甕・土師器片・他
楕円形	(奈良)土師器甕・(古墳後期)土師器把手付竪
円形?	土師器小片
瓢箪形	(中世)瓦器碗・土師器小皿・平瓦、(古墳後期)須恵器甕
瓢箪形	(中世)平瓦
瓢箪形	なし
不整形	(古墳後期)須恵器环蓋・土師器片
円形	(奈良)土師器羽釜・(古墳後期)須恵器环蓋・甕・土師器环・甕・他
不整方形	(中世)土師器小皿・(古墳後期)須恵器甕・土師器甕・他
不整形	(中世)瓦器碗・土師器小皿・(平安後期)瓦器碗・土師器小皿・他
不整形	なし
不整形	(古墳後期)須恵器環身・他
不整形	(中世)瓦器碗・土師器小皿・(平安中期)瓦器碗・黒色土器碗・(古墳後期)須恵器甕・他
不明	(古墳後期)須恵器甕・土師器片
長椭円形	なし
椭円形	(古墳後期)須恵器片・土師器甕・他
不整方形	なし
不明	土師器小片
椭円形?	なし
不整形	(古墳後期)須恵器环蓋・环身(环蓋?)・高环・他
椭円形	(古墳後期)土師器片
不整形	(中世)須恵質甕・他
円形	(中世)土師器甕・(平安中期)黒色土器碗・(奈良)土師器甕・(古墳後期)土師器甕・他
不整形	(古墳後期)須恵器环蓋・他
不整形	(古墳後期)須恵器片・他
瓢箪形	(古墳後期)須恵器环身・壺蓋・破片・他
不整形	(古墳後期)須恵器环身・环蓋(?)・他
椭円形	なし
椭円形	(古墳後期)須恵器甕・破片・他
瓢箪形	(古墳後期)土師器甕・他
円形	(中世)平瓦・(飛鳥)土師器碗・(古墳後期)須恵器环蓋・高环・土師器高环・甕・他
隅丸長方形	(古墳後期)須恵器甕・他
椭円形	(古墳後期)須恵器片・土師器片
不整方形	(古墳後期)土師器片・他
不明	(古墳後期)須恵器片・土師器甕・他
椭円形	(中世)瓦器碗・(古墳後期)須恵器甕・破片・(古墳中期)円筒埴輪・他
瓢箪形	(奈良)須恵器甕(?)・(古墳後期)須恵器片・土師器高环・破片・他
不整形	(中世)瓦器碗・(古墳後期～奈良)製塙土器・(古墳後期)須恵器环身・高环・甕・土師器甕・製塙土器
不整形	(古墳後期)須恵器片・他
不整形	(中世)瓦器碗・(古墳後期)須恵器环蓋・破片・土師器甕・他
不整形	(古墳後期)須恵器环蓋・他
不整形	(古墳後期)須恵器环身
不整形	(中世)瓦器小皿・(古墳後期)須恵器甕・破片・他
不整形	(中世)瓦器碗・瓦質三足付鍋・土師器小皿・平瓦・(平安後期)瓦器碗・(古墳後期)須恵器环蓋・他
不整形	(古墳後期)須恵器片・土師器片
不整形	(中世)瓦器碗・土師器甕・破片・(飛鳥)須恵器环身・(古墳後期)須恵器环蓋・甕・破片・土師器鉢(?)・他
不整形	(中世)瓦器碗・土師器小皿・平瓦・(奈良)須恵器环身・土師器甕・(古墳後期)須恵器甕・(古墳中期)須恵器环蓋・他
不整形方	(中世)瓦器碗・土師器小皿・(古墳後期)須恵器片・他
不整形	(中世)瓦器碗・平瓦・(古墳後期)須恵器片・他
不整形	(中世)瓦器碗・平瓦・(古墳後期)須恵器高环・甕・土師器甕・他
瓢箪形	(中世)瓦器碗・瓦質三足付鍋・平瓦・(古墳後期)須恵器环身・甕・他

調査区	遺構名 ()内は旧遺構名	地区割り				規模(m)			主要埋土
		I	II	III	IV	長径	短径	深さ	
3区	土坑62	F5	15	C15	h7	1.18	0.75	0.5	暗灰色粘質土
3区	土坑63	F5	15	B13	f1	1.81	0.9	0.27	黑色粘土他
3区	土坑64	F5	15	B13	f1	1.43	1.38	0.36	黑色粘土他
3区	土坑65	F5	15	B13	f1・f2	3.73	1.35	0.32	黑色粘土他
3区	土坑66	F5	15	B13	f1	0.7	0.6	0.35	暗灰色砂疊
3区	土坑67	F5	15	B13	f1	1.2	0.83	0.31	暗灰色砂疊
3区	土坑68	F5	15	B13	f2	0.77	0.53	0.24	暗灰色粘土
3区	土坑69	F5	15	B13	f2	0.6	0.56	0.16	暗灰黑色粘土
3区	土坑70	F5	15	B13	f2	1.3	0.52	0.2	暗灰褐色粘土
3区	土坑71	F5	15	B13	f2	3.65	0.54	0.16	暗灰色粘土
3区	土坑72	F5	15	B13	f2	2.52	0.81	0.19	暗灰色粘土
3区	土坑73	F5	15	B13	f2・g2	2.2	1.4	0.26	黑色粘質土
3区	土坑74	F5	15	B13	f2	0.75	0.65	0.2	黑色粘質土
3区	土坑75	F5	15	B13	f2	2.3	1.06	0.45	黑色粘土他
3区	土坑76	F5	15	B13	f2	0.95	0.5	0.15	暗茶褐色粘土
3区	土坑77	F5	15	B13	g2	4.75	1.45	0.33	黑色粘質土
3区	土坑78	F5	15	B13	g2	2.7	0.95	0.31	黑色粘質土
3区	土坑79	F5	15	B13	g2	1.3	1.0以上	0.3	記録なし
3区	土坑80	F5	15	B13	g2	1.38	0.62	0.34	暗茶褐色粘質土
3区	土坑81	F5	15	B13	g2	1.55	0.85	0.28	暗灰褐色粘質土
3区	土坑82	F5	15	B13	g2	0.9	0.64	0.3	暗灰褐色粘質土
3区	土坑83	F5	15	B13	f3	1.35	0.62	0.22	暗灰褐色粘質土
3区	土坑84	F5	15	B13	f3・g3	2.45	0.9	0.2	暗灰褐色粘質土
3区	土坑85	F5	15	B13	f3	1.06	0.87	0.05	茶灰褐色粘質土
3区	土坑86	F5	15	B13	f3・g3・s	1.5	0.44	0.17	暗灰黑色粘質土
3区	土坑87	F5	15	B13	g3	0.64	0.58	0.15	暗灰褐色粘質土
3区	土坑88	F5	15	B13	g3	0.72	0.66	0.11	暗灰褐色粘質土
3区	土坑89	F5	15	B13	g3	1.05	0.72	0.18	暗茶褐色粘質土
3区	土坑90	F5	15	B13	g3	4.35	1.12以上	0.31	暗茶褐色粘質土
3区	土坑91	F5	15	B13	g3	1.8	1.5以上	0.24	暗灰褐色粘質土
3区	土坑92	F5	15	C14	c8	3.5以上	3.5	0.2	暗灰褐色粘質土
3区	土坑93	F5	15	B13	f6	2.76以上	1.14以上	0.17	黑褐色粘土他
3区	土坑94	F5	15	B13	f6	1.85	0.96	0.14	暗灰褐色粘土他
3区	土坑95	F5	15	C14	e10	3.11	1.37	0.05	暗灰褐色粘質土
3区	土坑96	F5	15	C14	b4	2.35以上	0.8以上	0.23	記録なし
3区	土坑97	F5	15	C15	b8	0.9以上	0.65	0.12	暗灰褐色砂疊
3区	土坑98	F5	15	C15	g7・h7	2.15以上	1.47	0.17	黃褐色砂疊
3区	土坑99	F5	15	B13	g2	0.88	0.65	0.33	暗灰褐色砂疊
3区	ビット1	F5	15	C15	g5	0.28	0.24以上	0.1	黑褐色粘質土
3区	ビット2	F5	15	C15	h7	0.48	0.42以上	0.32	暗灰褐色粘質土
3区	ビット3	F5	15	C14	d7	0.74	0.58	0.1	記録なし
3区	ビット4	F5	15	C14	c7	0.4	0.38	0.1	記録なし
3区	ビット5	F5	15	C14	c7	0.4	0.4	0.2	記録なし
3区	ビット6	F5	15	C14	c7	0.6	0.38	0.03	記録なし
3区	ビット7	F5	15	C14	d7	0.32	0.23	0.06	記録なし
3区	ビット8	F5	15	C14	d7	0.32	0.27	0.08	記録なし
3区	ビット9	F5	15	C14	c7	0.54	0.4	0.12	暗灰褐色粘質土
3区	ビット10	F5	15	C14	c6	0.22	0.22	0.05	記録なし
3区	ビット11	F5	15	C14	c6	0.62以上	0.2以上	0.1	記録なし
3区	ビット12	F5	15	C14	c6	0.6	0.48	0.26	記録なし
3区	ビット13	F5	15	C14	c6	0.27	0.22	0.17	記録なし
3区	ビット14	F5	15	C14	c6	0.23	0.23	0.15	記録なし
3区	ビット15	F5	15	C14	c7	0.48	0.48	0.23	記録なし
3区	ビット16	F5	15	C14	c6	0.18	0.16	0.08	記録なし
3区	ビット17	F5	15	C14	c6	0.26	0.23	0.09	記録なし
3区	ビット18	F5	15	C14	c6	0.51	0.46	0.19	記録なし
3区	ビット19	F5	15	C14	c5	0.44	0.36以上	0.16	記録なし
3区	ビット20	F5	15	C14	c5	0.37	0.37	0.15	記録なし
3区	ビット21	F5	15	C14	c5	0.41	0.32	0.15	記録なし
3区	ビット22	F5	15	C14	c5	0.12	0.42	0.18	記録なし
3区	ビット23	F5	15	C14	c5	0.45	0.37	0.18	記録なし
3区	ビット24	F5	15	C14	c5	0.47	0.42	0.19	記録なし
3区	ビット25	F5	15	C14	c5	0.23	0.23	0.17	記録なし
3区	ビット26	F5	15	C14	c5	0.58	0.46以上	0.18	記録なし
3区	ビット27	F5	15	C14	c5	0.46	0.38	0.24	記録なし
3区	ビット28	F5	15	C14	c6	0.51	0.36	0.11	記録なし

遺構一覧表(5)

平面形	出土遺物
横円形	(奈良)須恵器环蓋、(飛鳥～奈良)土師器甕、(古墳後期)須恵器甕、土師器甕、他
精円形	なし
隅丸方形	なし
隅丸長方形	なし
精円形	なし
瓢箪形	なし
不規形	なし
円形	なし
不整精円形	なし
不整精円形	なし
不整形	なし
瓢箪形	なし
円形	なし
精円形	なし
精凸形	なし
不整形	なし
不整形	なし
不整形	なし
精円形	なし
精凸形	なし
不整形	なし
長精円形	なし
精円形	なし
瓢箪形	なし
円形	なし
円形	なし
瓢箪形	なし
長精円形	なし
不整形	なし
不整形	なし
不整精円形	なし
不整精円形	なし
万形？	なし
不明	なし
精円形？	なし
長万形？	なし
不整精円形	なし
円形	土師器小片
円形	(中世)瓦器椀、土師器小皿、(古墳後期)須恵器片、他
不整形	(中世)瓦器椀、(古墳後期?)土師器甕
円形	なし
円形	土師器小片
不整形	なし
精円形	(古墳後期)須恵器片
精円形	土師器小片
精円形	なし
円形	土師器小片
円形？	なし
精円形	(古墳後期)須恵器环蓋・高环・甕、他
円形	なし
円形	土師器小片
円形	(古墳後期)土師器甕、他
円形	土師器小片
円形	(古墳後期)須恵器片
円形	なし
円形	土師器小片、須恵器小片
円形	(古墳後期)須恵器片、他
円形	(古墳後期)須恵器环身・甕、他
精円形	土師器小片
不整円形	土師器小片
不整円形	土師器小片
円形	(平安中期)黑色土器甕、他
隅丸長方形	(古墳後期)須恵器片、土師器片
精円形	(奈良)須恵器环身、他
不整精円形	土師器小片

調査区	遺構名 ()内は旧遺構名	地区割り				規模(m)			主要埋土
		I	II	III	IV	長径	短径	深さ	
3区	ピット29	F5	15	C14	c6	0.52	0.5	0.1	記録なし
3区	ピット30	F5	15	C14	c6	0.3	0.26	0.17	記録なし
3区	ピット31	F5	15	C14	c6	0.42	0.3	0.1	記録なし
3区	ピット32	F5	15	C14	c6	0.52	0.5	0.18	記録なし
3区	ピット33	F5	15	C14	c6	0.38	0.38	0.12	記録なし
3区	ピット34	F5	15	C14	c6	0.26	0.22	0.22	記録なし
3区	ピット35	F5	15	C14	c5	0.46	0.44	0.14	記録なし
3区	ピット36	F5	15	C14	c6	0.37	0.36	0.19	記録なし
3区	ピット37	F5	15	C14	c5	0.52	0.44	0.11	記録なし
3区	ピット38	F5	15	C14	b5	0.58	0.58	0.11	記録なし
3区	ピット39	F5	15	C14	b5	0.3	0.28	0.08	記録なし
3区	ピット40	F5	15	C14	b5	0.18	0.18	0.1	記録なし
3区	ピット41	F5	15	C14	b5	0.26	0.26	0.08	記録なし
3区	ピット42	F5	15	C14	b5	0.9	0.5	0.05	記録なし
3区	ピット43	F5	15	C14	b6	0.28	0.25	0.11	記録なし
3区	ピット44	F5	15	C14	b6	0.63	0.54	0.22	記録なし
3区	ピット45	F5	15	C14	b6	0.64	0.52	0.2	記録なし
3区	ピット46	F5	15	C14	b5	0.26	0.23	0.07	記録なし
3区	ピット47	F5	15	C14	c7	0.18	0.16	0.04	記録なし
3区	ピット48	F5	15	C14	c8	0.36	0.23	0.08	記録なし
3区	ピット49	F5	15	C14	d8	0.47	0.32	0.11	記録なし
3区	ピット50	F5	15	C14	b6	0.6	0.6	0.35	記録なし
3区	ピット51	F5	15	C14	c9	0.32	0.32	0.25	記録なし
3区	ピット52	F5	15	C14	e10	0.45	0.45	0.25	黒色粘土
3区	ピット53	F5	15	C15	d1	0.26	0.26	0.07	記録なし
3区	ピット54	F5	15	C15	e1	0.3	0.26	0.15	記録なし
3区	ピット55	F5	15	C15	e1	0.41	0.38	0.21	記録なし
3区	ピット56	F5	15	C15	d2	0.4以上	0.4	0.13	記録なし
3区	ピット57	F5	15	C15	e2+d2	0.53	0.32	0.03	記録なし
3区	ピット58	F5	15	C15	e2	0.54	0.48	0.14	記録なし
3区	ピット59	F5	15	C15	e2	1.31	0.71	0.23	記録なし
3区	ピット60	F5	15	C15	c2	0.56	0.4	0.15	記録なし
3区	ピット61	F5	15	C15	e2	0.56	0.48	0.18	記録なし
3区	ピット62	F5	15	C15	e2	0.54	0.5	0.17	記録なし
3区	ピット63	F5	15	C15	f1	0.28	0.26	0.2	記録なし
3区	ピット64	F5	15	C15	e1	0.59	0.44	0.09	記録なし
3区	ピット65	F5	15	C15	e1	0.38	0.38	0.06	記録なし
3区	ピット66	F5	15	C15	c1	0.38	0.32	0.09	記録なし
3区	ピット67	F5	15	C15	f1	0.6	0.6	0.11	記録なし
3区	ピット68	F5	15	C15	d2	0.25	0.22	0.15	記録なし
3区	ピット69	F5	15	C15	c2	0.5	0.46	0.12	記録なし
3区	ピット70	F5	15	C15	f2	0.28	0.24	0.06	記録なし
3区	ピット71	F5	15	C15	f2	0.56	0.56	0.07	記録なし
3区	ピット72	F5	15	C15	e1	0.38	0.38	0.32	記録なし
3区	ピット73	F5	15	C15	f3	0.36	0.26以上	0.1	記録なし
3区	ピット74	F5	15	C15	f3	0.42	0.38	0.24	記録なし
3区	ピット75	F5	15	C15	f3	0.47	0.4	0.14	記録なし
3区	ピット76	F5	15	C15	f3	0.4	0.4	0.23	記録なし
3区	ピット77	F5	15	C15	g3	0.46	0.46	0.15	記録なし
3区	ピット78	F5	15	C15	e1	0.3	0.27	0.1	記録なし
3区	ピット79	F5	15	C15	f1	0.74以上	0.28	0.05	記録なし
3区	ピット80	F5	15	C14	c6	0.27	0.14以上	0.2	記録なし
3区	ピット81	F5	15	C15	b5	0.64	0.56	0.17	記録なし
3区	ピット82	F5	15	C14	b5	0.47	0.47	0.16	記録なし
3区	ピット83	F5	15	B13	h9	0.37	0.33	0.12	暗灰褐色粘土
3区	ピット84	F5	15	B13	h9	0.4	0.33以上	0.07	暗灰褐色粘土
3区	ピット85	F5	15	B13	h9	0.41	0.36	0.14	暗灰褐色粘土
3区	ピット86	F5	15	B13	h9+19	0.54	0.5	0.24	暗灰褐色粘土
3区	ピット87	F5	15	B13	h9	0.48	0.42	0.19	暗灰褐色粘土
3区	ピット88	F5	15	B13	h9	0.39	0.36	0.11	暗灰褐色粘土
3区	ピット89	F5	15	B13	h9	0.33	0.32	0.18	暗灰褐色粘土
3区	ピット90	F5	15	B13	h9+19	0.38	0.36	0.16	暗灰褐色粘土
3区	ピット91	F5	15	B13	h9	0.68	0.64	0.19	暗灰色粘土
3区	ピット92	F5	15	B13	h9	0.48	0.45	0.19	暗灰褐色粘土
3区	ピット93	F5	15	B13	h9	0.25	0.25	0.13	暗灰褐色粘土
3区	ピット94	F5	15	B13	h9	0.34	0.32	0.19	暗灰褐色粘土

遺構一覧表（6）

平面形	出土遺物
方形	(古墳後期)須恵器甕、土師器甕、他
円形	(中世)瓦器陶、(古墳後期)須恵器片、他
橢円形	(古墳後期)須恵器片、土師器片
不整円形	(古墳後期)須恵器片、土師器片
不整円形	(古墳後期)須恵器坏蓋、他
円形	土師器小片
円形	(奈良)土師器片
円形	土師器小片
椭丸方形	土師器小片
椭丸方形	(古墳後期)須恵器片、他
円形	(古墳後期)土師器甕、他
円形	なし
円形	(平安中～後期)土師器小皿、(奈良)土師器坏、他
不整形	土師器小片
円形	土師器小片
椭丸方形	(古墳後期)須恵器片、他
椭丸長方形	須恵器小片
円形	(古墳後期)須恵器坏身(蓋?)
円形	土師器小片
橢円形	なし
橢円形	なし
円形	なし
円形	(中世)瓦器碗、平耳
円形	(奈良)須恵器坏身、(古墳後期)須恵器片、他
円形	(古墳後期)土師器鉢
円形	土師器小片
円形	土師器小片
不明	土師器小片
橢円形	土師器小片
橢円形	土師器小片
円形	(古墳後期)須恵器片、土師器小片
橢円形	土師器小片
円形	土師器小片
円形	(中世)土師器片
円形	なし
不整橢円形	土師器小片
円形	(奈良)土師器甕、他
橢円形	土師器小片
円形	(古墳後期)土師器坏、他
円形	土師器小片
円形	土師器小片
円形	(古墳後期)須恵器坏身
円形	(奈良)土師器坏
円形	(古墳後期)須恵器坏身、他
円形?	(中世)瓦器碗、他
円形	(平安後期)瓦器碗、(古墳後期)須恵器甕
橢円形	土師器小片
円形	(中世)瓦器碗、(古墳後期)須恵器甕
円形	(平安中～後期)土師器小皿、(古墳後期)須恵器甕、他
円形	土師器小片
不整円形	(中世)瓦器碗、(古墳後期)須恵器片、土師器甕、他
円形?	土師器小片
椭丸方形	なし
椭丸方形	なし
円形	なし

調査区	遺構名 ()内は旧遺構名	地区割別				規模(m)			主要土質
		I	II	III	IV	長径	短径	深さ	
3区	ピッタ95	F5	15	B13	i9	0.3	0.29	0.14	暗灰褐色粘質土
3区	ピッタ96	F5	15	B13	i6	0.67	0.44以上	0.18	暗灰褐色粘土
3区	ピッタ97	F5	15	B13	h8	0.55	0.48	0.29	暗灰褐色粘質土
3区	ピッタ98	F5	15	B13	g8	0.63以上	0.62	0.25	記載なし
3区	溝1	F5	15	C15	f4・g4	12.8以上	4.5	0.25~0.45	黑色粘質土
3区	溝2	F5	15	C15	e3・f3・g3	17.0以上	3.0~4.6	0.7~1.0	暗灰褐色粘質土他
3区	溝3	F5	15	C14	d9・i10	19.0以上	1.0~1.6	0.6	暗灰黑色粘質土他
3区	溝4	F5	15	C15	h7・h8・i7 i8	15.0以上	2~4.5	0.8	暗灰色粘土
3区	溝5	F5	15	C15	h7	4.5	0.34~0.45	0.17	黑色粘質土
3区	溝6	F5	15	C15	g4	5.9	0.51	0.28	黑褐色粘質土
3区	溝7	F5	15	C14	c7	9.5	0.45~0.6	0.1~0.2	黒褐色粘質土他
3区	溝8	F5	15	C14	b5・b6・c5 c6	18.5	0.55~1.0	0.15~0.3	黄灰色粘土ブロック 混じり茶褐色粘質土
3区	溝9	F5	15	C14	c6・c7	6.6	0.2~0.75	0.05~0.12	暗灰褐色粘質土他
3区	溝10	F5	15	C14	c6	0.56	0.17	0.04	暗灰褐色粘質土他
3区	溝11	F5	15	C15	i2	1.08	0.27	0.03	暗灰褐色粘質土
3区	溝12	F5	15	C15	i2	1.82	0.18~0.3	0.05	暗灰褐色粘質土
3区	溝13	F5	15	C15	i1・i2	6.6以上	0.26~1.2	0.03	暗灰褐色粘質土
3区	溝14	F5	15	C15	i2	4.7以上	0.7~1.3	0.1	暗灰褐色粘質土
3区	溝15	F5	15	C15	i3	0.96以上	0.35	0.18	黑色粘質土
3区	溝16	F5	15	C15	i3・i4	2.8	0.37	0.25	黑色粘質土
3区	溝17	F5	15	C14	d9・d10	2.4以上	0.77	0.18	黑色粘質土
3区	溝18	F5	15	B14	i1・j1・j2	20	3.5~6.5	1.1	灰色砂礫他
3区	瓦溝り1	F5	15	C15	g6・g7・h6 h7・i6・i7	16	13	0.6	暗灰黑色粘質土他
3区	瓦溝り2	F5	15	C15	g4・g5・g6 h4・h5	15	13以上	0.7	暗灰黑色粘質土他

遺構一覧表(7)

平面形	出土遺物
円形	なし
円形?	なし
円形	なし
円形	なし
...	(中世)瓦器碗、瓦質三足付鉢、須恵質擂鉢、土師器小皿・羽釜、白磁片、青磁片、丸瓦、平瓦(古墳後期)須恵器坏身・坏蓋・高坏・鉢・甕、土師器高坏・壺・甕、他
...	(中世)瓦器碗、瓦質羽釜、三足付鉢・擂鉢・火鉢、土師器羽釜、備前甕、青磁碗・小皿、軒丸瓦、丸瓦、軒平瓦、平瓦(平安後期)瓦器碗、(平安中期)黑色土器碗、土師器甕、(古墳後期)須恵器坏身・坏蓋・壺・甕・鉢・土師器高坏・甕・他
...	(中世)瓦器碗・小皿、瓦質三足付鉢、須恵質鉢、土師器皿・小皿・羽釜・甕・青磁碗・破片、白磁碗・丸瓦、平瓦、(平安後期)瓦器碗、土師器羽釜、(奈良)須恵器壺、(古墳後期)須恵器坏身・高坏・甕、土師器高坏・他
...	(中世)瓦器碗、土師器皿・羽釜、備前擂鉢・唐津碗・丸瓦、軒平瓦、平瓦、(平安中期)黑色土器碗、(奈良時代)土師器把手付鉢(古墳後期)須恵器坏身・坏蓋・高坏・小型壺・甕、土師器高坏・羽釜、他
...	なし
...	(中世)瓦器碗、土師器皿・丸瓦、(古墳後期)須恵器片・他
...	(古墳後期)須恵器坏身・他
...	(中世)丸瓦、(古墳後期)須恵器坏蓋・甕、他
...	(古墳後期)須恵器壺・他
...	(中世)瓦器碗、他
...	土師器小片
...	(古墳後期)須恵器甕
...	(古墳後期)須恵器片・他
...	(中世)土師器皿・(古墳後期)須恵器甕・土師器甕・他
...	(古墳後期)須恵器甕・他
...	(中世)瓦器碗、土師器小皿・(古墳後期)須恵器片・他
...	土師器小片
...	(中世)瓦器碗・小皿、瓦質片口鉢、土師器小皿・羽釜、平瓦、(奈良)須恵器坏身・土師器甕、(古墳後期)須恵器坏身(坏蓋?)高坏蓋・甕、土師器高坏、(古墳中期)円筒埴輪
不明	(中世)瓦器碗・小皿、土師器小皿・瓦質片口鉢、須恵質鉢・軒丸瓦、丸瓦、軒平瓦、平瓦
不明	(中世)瓦器碗、土師器小皿・羽釜、瓦質ミニチュア三足付鉢・擂鉢・軒丸瓦・丸瓦、軒平瓦、平瓦、鬼瓦(古墳後期)土罐、(弥生後期)甕

報告書抄録

ふりがな	やまとがわいまいいけいせき
書名	大和川今池遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	大阪府埋蔵文化財調査報告1997
シリーズ番号	1
編著者名	地村邦夫
編集機関	大阪府教育委員会
所在地	〒540-0008 大阪府大阪市中央区大手前2丁目 TEL 06-941-0351
発行年月日	1998年3月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″			
やまとがわいまいいけ 大和川今池 遺跡	まつばらあさみにし 松原市天美西	27217	29	34° 35'	135° 37' 47"	平成7年 7月21日～ 同8年 3月25日	7300m ² 1区1700m ² 2区 800m ² 3区4800m ²	今池処理場の 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大和川今池 遺跡	集落跡	古墳時代前期・ 古墳時代後期～ 奈良時代・ 平安時代中期～ 鎌倉時代	1区： 井戸、ため池、 水田、土坑、 溝、ピット、 自然河川 2区： 井戸、水田、 土坑、ピット、 掘立柱建物 3区： 井戸、土坑、 溝、ピット、 掘立柱建物、 瓦溜り	1区： 土師器、須 恵器、瓦器、 瓦 2区： 土師器、須 恵器、黒色 土器、瓦器 3区： 土師器、須 恵器、黒色 土器、瓦器、 瓦	1区： 鎌倉時代～室町時代の瓦 が自然河川から出土し、「 薬師堂廃寺」の存在が推定 された。 2区： 古墳時代後期の掘立柱建物 4棟を検出した。 3区： 平安時代中期の土器の一括 資料が出土した。 3区： 瓦溜りから平安時代後期～ 鎌倉時代末の瓦が多量に出土した。これにより「觀音堂 廃寺」の存在が推定された。

図 版



1区ため池東肩検出状況（北東から）



(左上) 1区ピット群1（南東から）
(左下) 試掘11トレンチ（東から）



(右上) 2区ピット49（北西から）
(右下) 2区ピット41（西から）



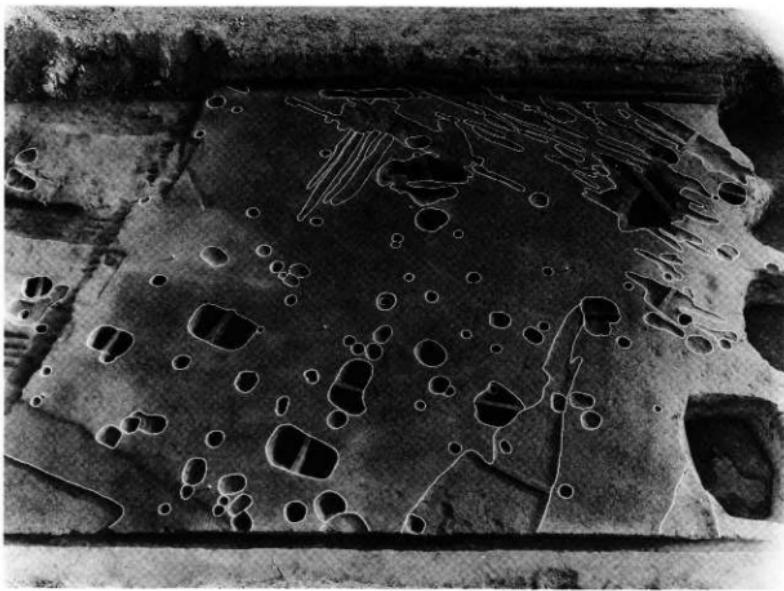
(左) 2区北半部（南から）



(右) 2区南半部（北から）



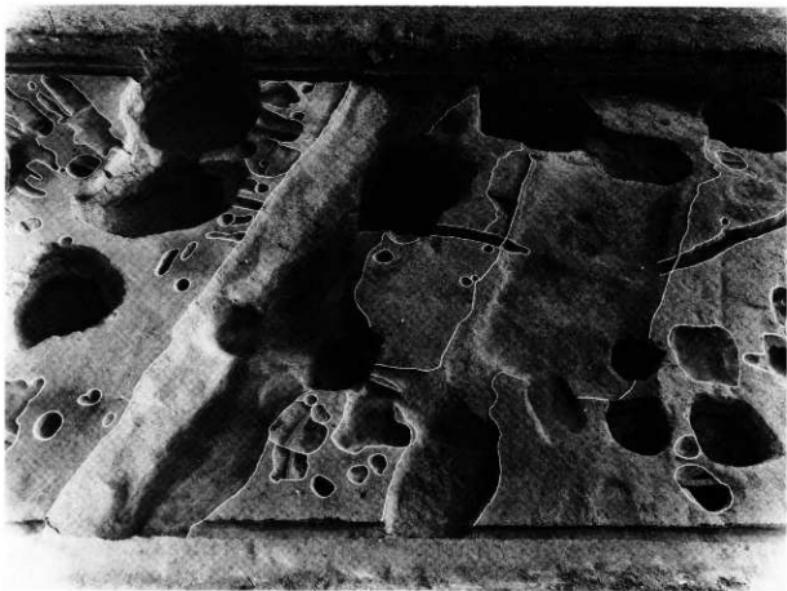
2区南端部（北西から）



3区井戸1周辺（北から）



3区掘立柱建物周辺（北から）



3区溝1・2（北から）



3区東端部（北西から）



3区瓦溜り 1・2（北から）



（左）3区瓦溜り 2 遺物出土状況



（右上）3区瓦溜り 1 遺物出土状況
（右下）同上





182



247



248



190



122



148



187



188



222



252



189



259



255



274



274



280



123



149



267



268



224





196



272



199



273



33



313



212



314



213



315



208



316



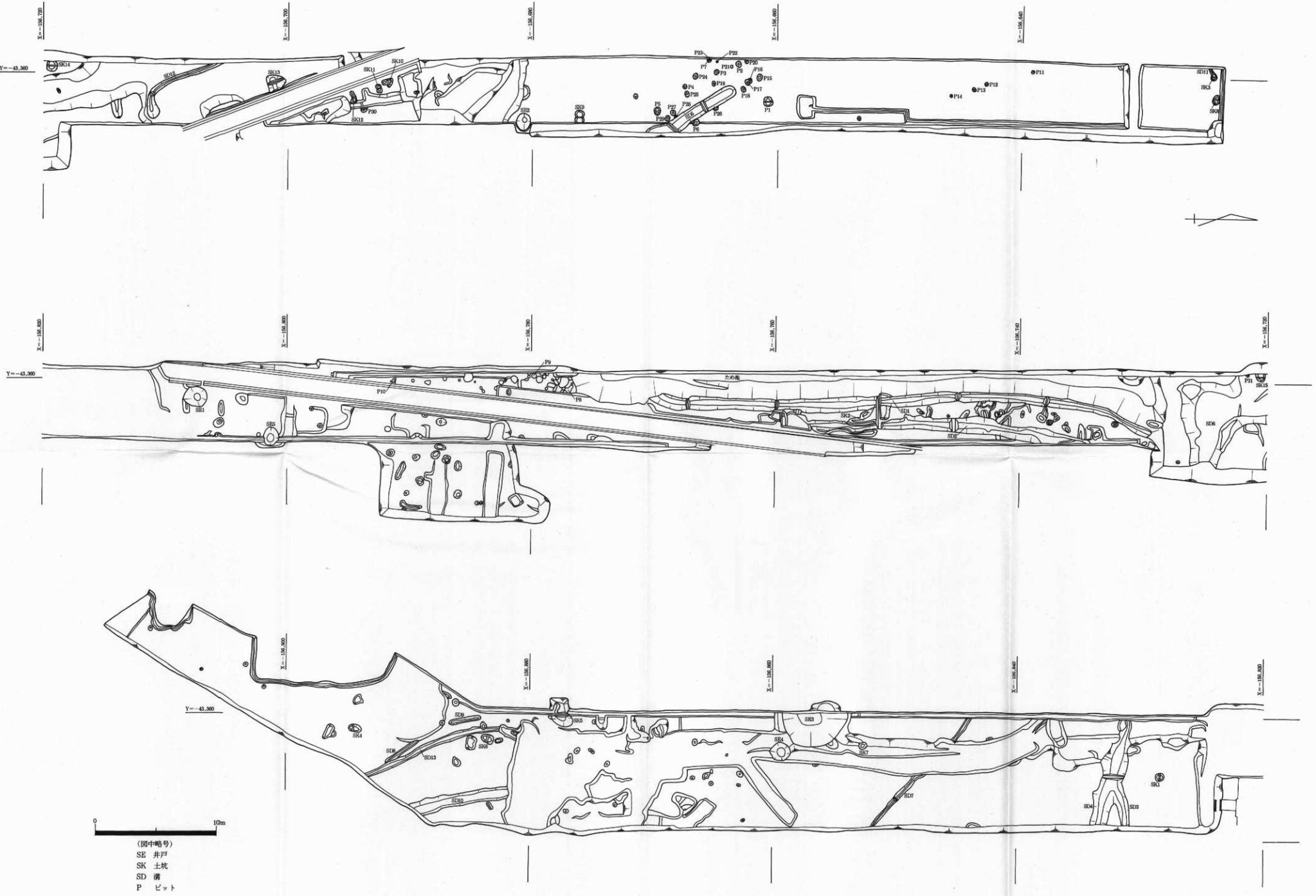
215



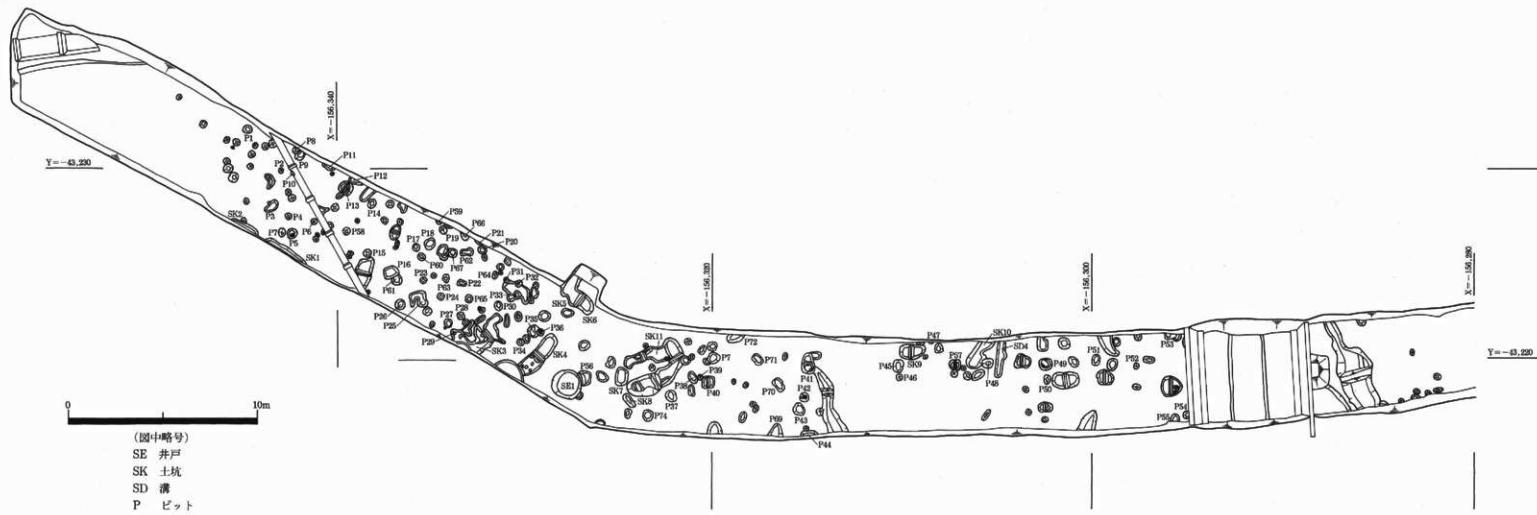
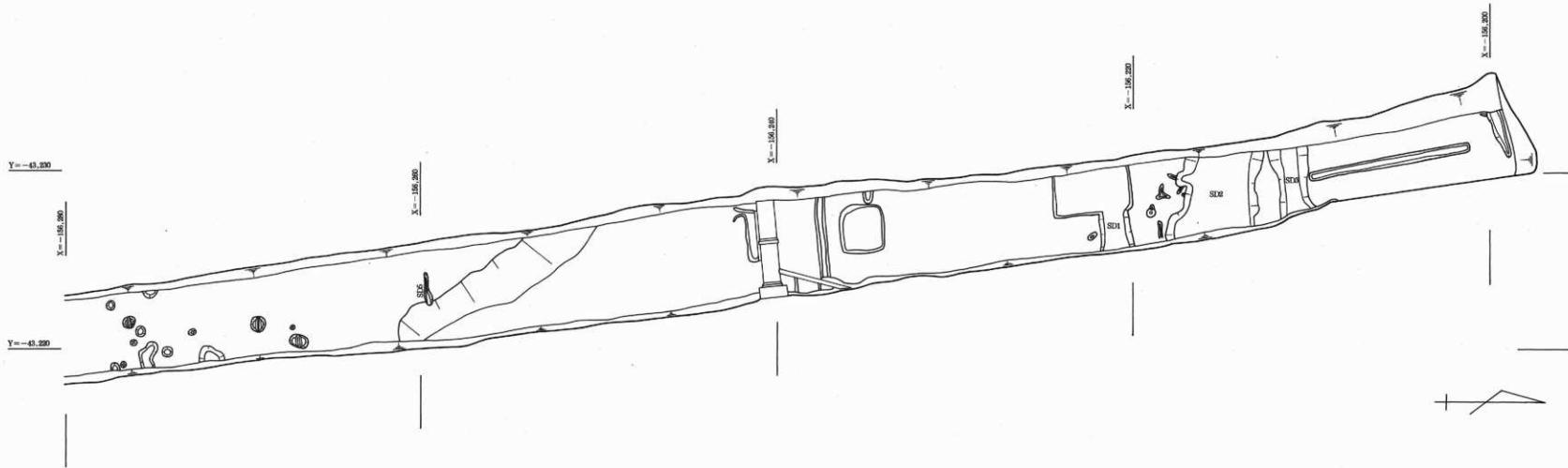
180



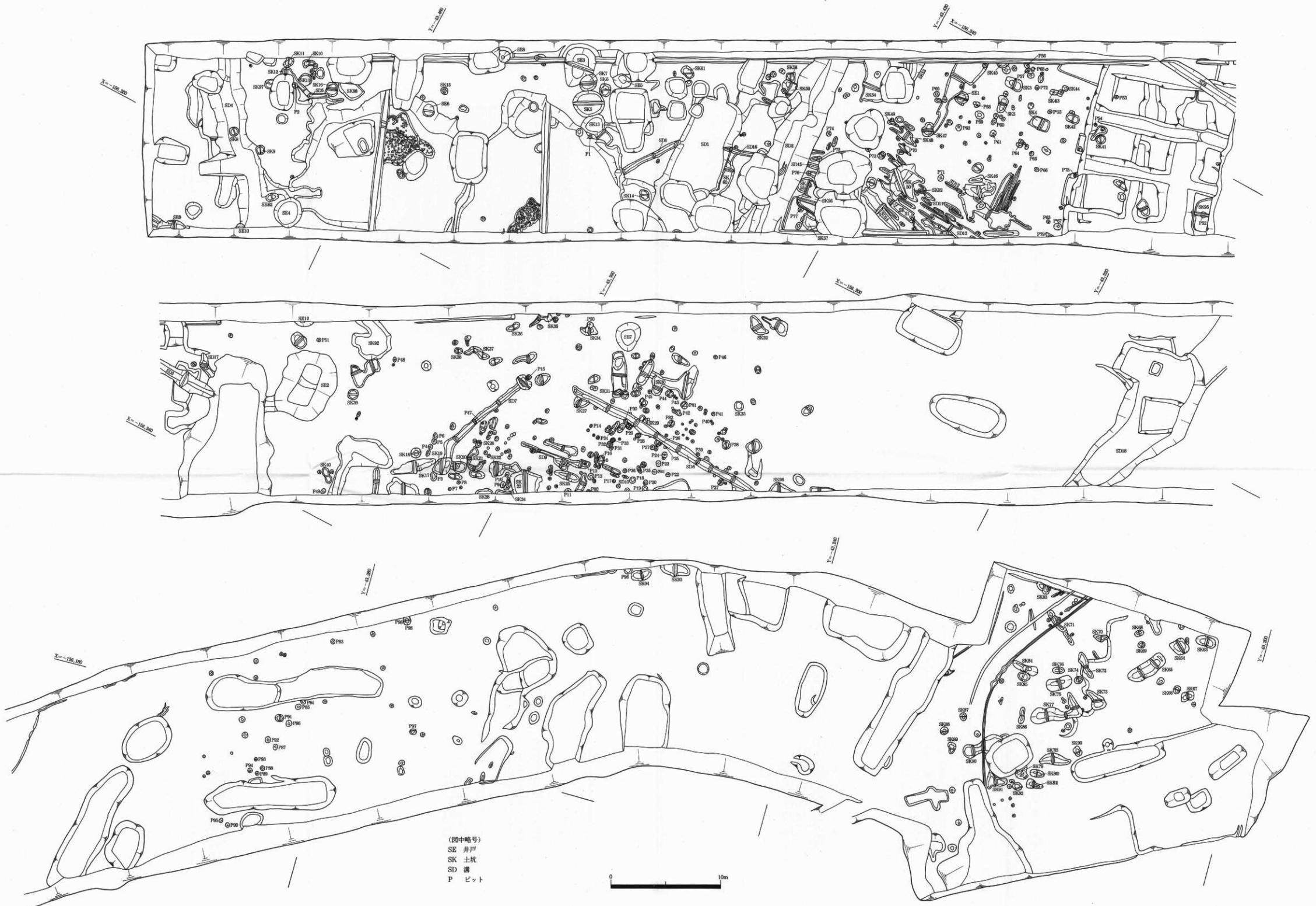
207



付図1 1区平面図 (S=1/200)



付図2 2区平面図 (S=1/200)



付図3 3区平面図 (S=1/200)

